

2023 年度 第 1 学年 授業要覧



東京歯科大学短期大学歯科衛生学科

Tokyo Dental Junior College
Department of Dental Hygiene

番号 _____

氏名 _____

目 次

東京歯科大学短期大学 ディプロマポリシー	1
心理学	2 - 4
法学	5 - 7
生命倫理	8 - 10
コミュニケーション理論と実際	11 - 14
生物学	15 - 17
情報リテラシー	18 - 21
経済学	22 - 23
国際保健学	24 - 25
統計学	26 - 28
食育論	29 - 30
英語 I (基礎英語)	31 - 33
中国語	34 - 35
韓国語	36 - 39
解剖・口腔解剖学	40 - 41
組織・口腔組織学	42 - 44
生理・口腔生理学	45 - 47
病理・口腔病理学	48 - 50
微生物・口腔微生物学	51 - 53
公衆衛生学	54 - 56
口腔衛生学	57 - 59
生化学	60 - 62
薬理・歯科薬理学	63 - 65
歯科感染予防学	66 - 68
歯科放射線学	69 - 71
歯科材料学	72 - 73
歯内療法学	74 - 75
保存修復学	76 - 77
歯周病学	78 - 79
歯科補綴学	80 - 82
歯科衛生学概論	83 - 86
歯科疾患予防論	87 - 89
小児歯科学	90 - 92
スペシャルニーズ歯科学	93 - 94
高齢者歯科学	95 - 96
実習 I (歯科予防処置)	97 - 100
実習 II (歯科診療補助)	101 - 103
歯科保健指導論	104 - 105
歯科衛生統計学	106 - 107

教科の特徴は以下のディプロマ・ポリシーに沿って記載されています。

東京歯科大学短期大学ディプロマ・ポリシー（卒業又は修了の認定に関する方針）

1. 歯科衛生士として歯科疾患の予防及び口腔衛生の向上を図ることを通じて、個人の健康を増進させ、人々の健康づくりを支援できる能力をもつ人材
2. 高齢社会の進展に伴い必要とされる歯科医療の変化を把握し対応できる人材
3. 医療、介護の総合的な確保が地域包括ケアシステムにおいて推進される中で、専門職として多職種と協働して歯科保健医療が提供できる人材
4. 教養と自己開発能力を有する自律性を持ち、地域社会の種々な場に対応できる人材

科目名： 心理学
担当教員： 林 百合

1. 教科の特徴

1. 心理学はこころのしくみと働きを科学的に解き明かすとともに、その成果を心身の健康の保持・増進、疾患・しょうがいの予防・回復に活用し、よりよく生きることを目的とする学問です。

乳児期から高齢期までのこころの発達や特性を把握し、人のこころの仕組みや行動を心理学的に理解することは、個々人の口腔衛生・健康づくりを支援・指導する力につながります。

口腔内環境や歯科疾患の成り立ちや経過における心身相互作用や心理社会的因子については、近年、耳目を集めています。人のこころや取りまく環境に、適切な理解と配慮の気持ちをもって関わるができるよう、心理学の知見を身につけ、こころをもってこころを思う姿勢の素地を培いましょう。

2. さまざまな心理学の知識から、高齢社会における歯科医療の場に応じた適切な対応への心構えをもち、実践できるようになるための基礎を学びましょう。

3. 人のこころのしくみ、パーソナリティ、対人関係やコミュニケーション、コミュニティなどについての心理学を学ぶことは、診療補助・保健指導等の対象者のみならず、地域社会の場、チーム医療・多職種協働におけるスタッフ間の信頼関係構築と円滑なコミュニケーションにとって重要であり、自分自身および歯科保健医療の専門家としてよりよく機能するために有用です。

4. 心理学の領域は幅広く、人間の知覚、認知、記憶、学習のメカニズム、モチベーション、問題解決、ストレスマネジメントなども含まれ、自身のこころ・行動を理解し、こころの成長、心身の健康保持のための知見を得られます。

ナンバリング 【A0101-1A】

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

人のこころのしくみと働きを科学的に解明する学問としての心理学基礎の知識や理論を修得するとともに、個々のこころを理解する豊かな視点を養うことを目標とします。

3. 行動目標（SBOs：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 心理学を学ぶ意義について理解し、説明できる。(20%)
- 2) 心のしくみや働きについて、説明できる。(20%)
- 3) 心の発達や臨床について理解し、説明できる。(20%)
- 4) 心理学用語を習得し、説明し、適切に活用できる。(20%)

- 5) 自分や他者の心を多面的・多角的に考え、理解を深める。(20%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方法：講義

- 2) 能動的方法：講義への積極的参加・ディスカッション・リアクションペーパー

- 3) 媒体：教科書・プリント・スライド

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：

授業への積極的参加を含む受講態度、リアクションペーパー（授業テーマにちなんだ課題へのとりくみなどを含む）(20%)

- 2) 総括的評価：

定期筆記試験：講義内容の理解度を、空欄補充、真偽選択、多肢選択、論述などの記述試験にて評価する。(80%)

6. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修

第1回：シラバス、教科書『序章（1～18 ページ）』を通読する。心理学とは何か、こころとは何か、自分なりのイメージを答えられるようにする。(15分)

第2～14回：教科書の指定部分を通読する。関心のあることがらについて主体的に調べ、疑問や自分なりの考えをもって臨む。(15分)

第15回：教科書と配布資料を見直し、内容を理解しているか、専門用語を正しく理解し使えるかを精査する。質問を用意する。(15分)

- 2) 事後学修

第1回：当日の講義内容をふりかえり、重要事項について、配布資料（プリント）をもとに、授業ノートを作成する。(15分)

第2～14回：教科書、配布資料を再確認し、重要ポイントや専門用語をリストアップしてノートに整理する。講義で扱ったテーマについて、自分の体験や身のまわりの事象に結びつけてみる。毎回、ノートを見直して、これまでの内容や専門用語を正しく理解できていることをくりかえし確認する。関心をもったテーマに関しては

自分なりの考察を深める(15 分)

第 15 回：教科書と配布資料、作成ノート見直す。心理学の基礎知識が身につく、これからの生きる上で自分や他者のこころの理解につなげることができる。

3) 事前学修・事後学修の評価

第 1～15 回：事前学修：講義当日に指定箇所を積極的に音読する。質問や考察を発言する。

事後学修：講義ノート点検、講義授業時間中、また、リアクションペーパーにて質問や課題に答える。

7. 教科書

サトウタツヤ、渡邊芳之 著	心理学・入門〔改訂版〕ー心理学はこんなに面白い 改訂版	(有斐閣アルマ) 有斐閣
---------------	-----------------------------	--------------

8. 参考図書

長谷川寿一、東條正城、大島尚、丹野義彦、廣中直行 著	『はじめて出会う心理学 第3版』	(有斐閣アルマ) 有斐閣
山村 豊 著	心理学 [カレッジ版]	医学書院

9. オフィスアワー

講義実施日の講義開始前および終了後/講義室

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SB0s など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	4/13	木	1	こころとは何か、心理学とは何か これからの講義についての説明と質疑応答	講義	14 階教室	林 百合
2	4/20	木	1	ストレスとメンタルヘルス 大学生のメンタルヘルス・ストレスマネジメント	講義	14 階教室	林 百合
3	4/27	木	1	臨床心理学 ①臨床心理学とは ②臨床心理学におけるさまざまな支援の方法について	講義	14 階教室	林 百合
4	5/11	木	1	臨床心理学 ②臨床心理学におけるさまざまな支援の方法について ③近年の臨床心理学の実践ー予防や健康の増進。チーム医療、多職種協働	講義	14 階教室	林 百合
5	5/18	木	1	性格と個人差の心理学 ①性格とは何か ②性格心理学の歴史 ③性格をとらえる枠組み ④さまざまな性格理論	講義	14 階教室	林 百合
6	5/25	木	1	身近な社会的行動の心理学 ①社会的行動をつくり出すもの ②他者の「心」がわかるしくみ ③コミュニケーション	講義	14 階教室	林 百合
7	6/1	木	1	身近な社会的行動の心理学 ④人を好きになるのは、なぜ ⑤人を助ける、人を傷つける ⑥集団が人を変える	講義	14 階教室	林 百合
8	6/8	木	1	発達心理学 ①新生児・乳幼児期から老年期まで ②愛着理論	講義	14 階教室	林 百合

9	6/15	木	1	③こころの発達理論 発達のグランドセオリー ピアジェの認知発達理論 エリクソンの心理社会的発達理論	講義	14 階 教 室	林 百合
10	6/22	木	1	発達のグランドセオリー エリクソンの心理社会的発達理論 マラーの分離個体化発達理論	講義	14 階 教 室	林 百合
11	6/29	木	1	心を読む－臨床心理アセスメント（査定） ①臨床心理アセスメントの歴史 ②心理学的測定の考え方 ③さまざまな臨床心理アセスメント 臨床心理査定面接法・検査法	講義	14 階 教 室	林 百合
12	7/6	木	1	心を読む－臨床心理アセスメント（査定） ③さまざまな臨床心理アセスメント 臨床心理検査法－知能や性格の検査	講義	14 階 教 室	林 百合
13	7/13	木	1	知覚・認知・記憶の心理学 ①環境をとらえるしくみ ②知覚のシステム ③記憶のしくみ ④認知のバイアス	講義	14 階 教 室	林 百合
14	7/20	木	1	行動と学習の心理学 ①行動とは何か、学習とは何か ②生得的行動 ③学習される行動 レスポナント条件づけ オペラント条件づけ	講義	14 階 教 室	林 百合
15	9/7	木	1	これまでの講義のふりかえりと補遺。 質疑応答。	講義	14 階 教 室	林 百合

科目名： 法学
担当教員： 萩原 伸介

1. 教科の特徴

入学したばかりのみなさんにとっては、法律は遠い世界の問題であると考えられるかもしれない。たしかに、実際に法律が問題となるのは、さまざまなめごとやトラブルに巻き込まれたときであり、あまり関わりたくないものと思っているであろう。しかし、「社会あるところ法あり」といわれているように、何らかの人間社会が形成されれば、そこには必ずその社会を規律する法秩序が存在し、それに拘束される。法学は、社会で果たしている法秩序の役割を評価・分析し、さらによりよい社会を築くために機能する。

本講義では、これから歯科衛生士として社会活動をする際に要請されている、法的知識やものの考え方を修得することを目標とする。すなわち、教養と自己開発能力を有する自律性を持ち、総合的な視点から、地域社会の種々な場に対応できる前提となる、法的な基本的知識や思考力の修得をめざすものである。あえて、簡潔に言い換えれば、「歯科衛生士として修めておくべき法学」である。

そこで、まず法学一般の基礎知識を解説し、いわゆる医療行為が、法的にどのように捉えられているか、また、事故が起こった場合どのような責任が生ずるかを、具体的な事例をとり上げつつ検討する。

ナンバリング 【A0102-1A】

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

将来、歯科医師として社会活動をする際に必要となる法的知識・法的思考を修得する。

3. 行動目標（SBOs：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 法学を学ぶことの意義について説明できる（5%）。
- 2) 法的概念の「医療と治療」を説明できる（10%）。
- 3) 法的評価としての患者の同意の意義について説明できる（15%）。
- 4) 各種コ・メディカルに関する法について説明できる（10%）。
- 5) 医療従事者の民事責任について説明できる（15%）。
- 6) 医療従事者の刑事責任について説明できる（15%）。
- 7) 個人情報に関する法関係を理解し説明できる（15%）。
- 8) 法における医療従事者の社会的役割について説明できる（5%）。
- 9) 法学と医療の関わりについて説明できる（10%）。

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方法：講義
- 2) 能動的方法：ケース・スタディ（受講者による事例の分析・解釈・評価）
- 3) 媒体：教科書、六法、スライド

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：
各回の講義開始時にプレテスト、終了時にポストテストを行う。
- 2) 総括的评价：
評価は定期試験の成績とする（100%）。
定期試験は、講義内容の理解度を、多肢選択式、論述式、で行う。

6. 事前学修・事後学修

法学では、古典的な表現・用語も慣習として使用されるので、国語辞典（電子辞書も可）を準備すること。

全15回、各回の事前準備・事後学修は、以下の通りである。

1. はじめにー法学とはー

事前準備：シラバスを事前にプリントアウトし通読しておくこと（10分）

事後学修：授業内容を再度見直し、重要なポイントをノートにまとめること（20分）

2. 治療行為と法

事前準備：教科書3－17頁を通読しておくこと（15分）

事後学修：授業内容を再度見直し、重要なポイントをノートにまとめること（30分）

3. 治療行為と同意（1）

事前準備：教科書18－24頁を通読しておくこと（15分）

事後学修：授業内容を再度見直し、重要なポイントをノートにまとめること（30分）

4. 治療行為と同意（2）

事前準備：教科書25－32頁を通読しておくこと（15分）

事後学修：授業内容を再度見直し、重要なポイントをノートにまとめること（30分）

5. コ・メディカルと法

事前準備：教科書 35－92 頁を通読しておくこと(15分)

事後学習：授業内容を再度見直し、重要なポイントをノートにまとめること(30分)

6. 医療過誤と民事責任(1)ー医療は契約

事前準備：教科書 95－122 頁を通読しておくこと(15分)

事後学習：授業内容を再度見直し、重要なポイントをノートにまとめること(30分)

7. 医療過誤と民事責任(2)ー債務不履行

事前準備：教科書 95－122 頁を通読しておくこと(15分)

事後学習：授業内容を再度見直し、重要なポイントをノートにまとめること(30分)

8. 医療過誤と民事責任(3)ー不法行為

事前準備：教科書 95－122 頁を通読しておくこと(15分)

事後学習：授業内容を再度見直し、重要なポイントをノートにまとめること(30分)

9. 医療過誤と民事責任(4)ー医事紛争の処理

事前準備：教科書 95－122 頁を通読しておくこと(15分)

事後学習：授業内容を再度見直し、重要なポイントをノートにまとめること(30分)

10. 医療従事者と刑事責任

事前準備：教科書 123－135 頁を通読しておくこと(15分)

事後学習：授業内容を再度見直し、重要なポイントをノートにまとめること(30分)

11. 医療過誤と刑事責任

事前準備：教科書 123－135 頁を通読しておくこと(15分)

事後学習：授業内容を再度見直し、重要なポイントをノートにまとめること(30分)

12. 患者の人権と個人情報の保護

事前準備：教科書 150－175 頁を通読しておくこと(15分)

事後学習：授業内容を再度見直し、重要なポイントをノートにまとめること(30分)

13. 守秘義務と根拠法令

事前準備：教科書 150－175 頁を通読しておくこと(15分)

事後学習：授業内容を再度見直し、重要なポイントをノートにまとめること(30分)

14. 法学と法歯学

事前準備：事前配布のプリントを通読しておくこと(15分)

事後学習：授業内容を再度見直し、重要なポイントをノートにまとめること(30分)

15. 総括ー医療と法学との関わり

事前準備：教科書 1－175 頁を通読しておくこと(15分)

事後学習：授業内容を再度見直し、重要なポイントをノートにまとめること(30分)

7. 教科書

野崎 和義 著	コ・メディカルのための医事法学入門(第2版)	ミネルヴァ書房
池田真朗ほか編	法学六法 23	信山社

8. 参考図書

伊藤正己ら編	現代法学入門(第4版)	有斐閣
--------	-------------	-----

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SB0s など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	4/10	月	3	1. はじめに――法学とは―― ・法学を学ぶことの意義について説明できる	講義	14階教室	萩原
2	4/17	月	3	2. 治療行為と法 ・法的概念の「医療と治療」を説明できる	講義	14階教室	萩原
3	4/24	月	3	3. 治療行為と同意（１） ・法的評価としての患者の同意の意義について説明できる	講義	14階教室	萩原
4	5/8	月	3	4. 治療行為と同意（２）	講義	14階教室	萩原
5	5/15	月	3	5. コ・メディカルと法 ・各種コ・メディカルに関する法を説明できる	講義	14階教室	萩原
6	5/22	月	3	6. 医療過誤と民事責任（１） ――医療は契約 ・医療従事者の民事責任について説明できる	講義	14階教室	萩原
7	5/29	月	3	7. 医療過誤と民事責任（２） ――債務不履行	講義	14階教室	萩原
8	6/5	月	3	8. 医療過誤と民事責任（３） ――不法行為	講義	14階教室	萩原

9	6/12	月	3	9. 医療過誤と民事責任（４） ――医事紛争の処理	講義	14階教室	萩原
10	6/19	月	3	10. 医療従事者と刑事責任 ・医療従事者の刑事責任について説明できる	講義	14階教室	萩原
11	6/26	月	3	11. 医療過誤と刑事責任	講義	14階教室	萩原
12	7/3	月	3	12. 患者の人権と個人情報の保護 ・個人情報に関する法関係を説明できる	講義	14階教室	萩原
13	7/10	月	3	13. 守秘義務と根拠法令 ・歯科衛生士、歯科医師、医師の守秘義務について説明できる	講義	14階教室	萩原
14	9/4	月	3	14. 法学と法歯学	講義	14階教室	萩原
15	9/11	月	3	15. 総括 ・法学と医療の関わりについて説明できる	講義	14階教室	萩原

科目名： 生命倫理

担当教員： ※新島典子

※(実務経験教員による授業科目)

1. 教科の特徴

- 1) 超高齢化の進む現代日本社会の倫理・道徳について基本的教養を修得し、真摯な態度を育む（2に対応）。
- 2) 日々変化する社会における生命倫理的諸問題を理解し、他職種と連携して様々な場に対応できる自己開発能力を育む（2，3，4に対応）。
- 3) 現代社会の情報倫理（ネットリテラシー）を理解し、社会の変化に対応出来る（2，4に対応）。

ナンバリング 【A0103-1B】

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

日本社会における歯科医療従事者として必要な知識や見識を得るために、医の倫理や情報倫理も含めた幅広い生命倫理の知識を学修する。

- 1) 現代社会の倫理・道徳にかかわる諸問題を幅広く理解する。
- 2) 様々な理論、概念、事例を通じて、生命倫理的諸問題を理解する。
- 3) 現代社会の情報倫理（ネットリテラシー）を理解する。

3. 行動目標（SBOs：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 現代社会の倫理・道徳にかかわる諸問題を説明する。（20%）
- 2) 様々な理論、概念、事例を用いて、倫理・道徳的知識を説明する。（15%）
- 3) 医の倫理と生命倫理の歴史経過と諸問題を幅広く説明する。（15%）
- 4) 生と死にかかわる倫理的問題について幅広く説明する。（20%）
- 5) 患者を理解し、信頼関係を築くための方法を説明する。（20%）
- 6) 現代社会の情報倫理（ネットリテラシー）を説明する。（10%）

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方法：講義
- 2) 能動的方法：ディスカッション、ポストテスト
- 3) 媒体：スライド、プリント

5. 評価（EV：Evaluation）

1) 形成的評価：

原則各回講義開始時にディスカッション、終了時に Google Classroom によるポストテストを行う。

2) 総括的評価：

定期試験については、講義内容の理解度を、空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する。（70%）

ディスカッション、ポストテストの結果を評価する。（30%）

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

第1回～第15回：シラバス記載テーマをウェブ検索し、重要ポイントを予測する。
（10 分）

2) 事後学修

第1回～第15回：当日配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする。
（15 分）

3) 事前学修・事後学修の評価

第1回～第14回：

事前学修：講義当日の開始時にディスカッションで確認する。

事後学修：次回講義の開始時に、ポストテストを行う。

第15回：

事前学修：講義当日の開始時にディスカッションで確認する。

事後学修：講義内で半年分のまとめを行い、各自で理解度を自己評価する。

7. 教科書

講義で資料を配布する。		
-------------	--	--

8. 参考図書

講義で適宜提示する。		
------------	--	--

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時 限	内容項目（SB0s など）	方略 (LS)	場 所	担当者
1	10/5	木	3	歯科衛生士に必要な倫理・道徳（１） 1.倫理の基本概念・歴史 2.医の倫理と生命倫理の歴史と諸問題	講義	14 階 教 室	新島
2	10/12	木	3	生と死を数値化する 1.死亡率、死因、平均寿命 2.現代社会の生きづらさ、さまざまな障害と病い	講義	14 階 教 室	新島
3	10/19	木	3	生と死を定義する 1.死の社会的・物理的定義 2.脳死判定・臓器移植の諸問題	講義	14 階 教 室	新島
4	10/26	木	3	これまでのまとめ（１）	講義	14 階 教 室	新島
5	11/2	木	3	生と死を操作する 1.安楽死について、誰がいつ決めるか 2.決定のプロセスとインフォームドコンセント	講義	14 階 教 室	新島
6	11/9	木	3	死を迎える 1. 老い衰えゆくこと、家族の死 2. 終末期医療とホスピス	講義	14 階 教 室	新島
7	11/16	木	3	死を受け入れる 1. 喪失体験と回復 2. 葬儀の意義と多様化	講義	14 階 教 室	新島
8	11/30	木	3	これまでのまとめ（２）	講義	14 階 教 室	新島

9	12/7	木	3	インターネットとメールの倫理 1. インターネットを用いた情報収集とモラル 2. 電子メールのモラルとマナー 3. トラブル回避のために	講義	14 階 教室	新島
10	12/14	木	3	ネット上の個人情報と倫理 1. 携帯電話やパソコンの個体識別と本人追跡性 2. 情報セキュリティ 3. トラブル回避のために	講義	14 階 教室	新島
11	12/21	木	3	ソーシャルメディア利用の倫理 1. ソーシャルメディア利用のリスク 2. ソーシャルメディア利用上のモラルとマナー 3. トラブル回避のため	講義	14 階 教室	新島
12	1/11	木	3	歯科衛生士に必要な倫理・道徳（2） 1. 道徳的正しさとは：正義論 2. 実験動物をめぐる倫理・道徳的議論	講義	14 階 教室	新島
13	1/18	木	3	歯科衛生士に必要な倫理・道徳（3） 1. 技術と実践のせめぎあい：いのちの操作と優性思想 2. 高度生殖医療の現状をめぐる倫理・道徳的議論	講義	14 階 教室	新島
14	1/25	木	3	歯科衛生士に必要な倫理・道徳（4） 1. 患者理解と患者への配慮 2. 患者の家族や家庭への配慮 終末期医療におけるケア	講義	14 階 教室	新島
15	1/25	木	4	これまでのまとめ（3）	講義	14 階 教室	新島

科目名： コミュニケーション理論と実際

担当教員： ※保坂 誠

※(実務経験教員による授業科目)

1. 教科の特徴

歯科衛生士として人々の健康づくりを支援するためには、人間関係の構築が重要になる。コミュニケーションの基本的理論を学び、コミュニケーション能力を高めることでディプロマポリシーに準拠した人材育成を行う。

ナンバリング 【A0104-1A】

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

歯科衛生士として患者のみならず、他の医療職種や介護職種や地域の人たちとの良好な交流ができるようになるために、コミュニケーションの基本姿勢と技法を学修し医療面接の知識と態度を修得する（1, 2, 3, 4）。

3. 行動目標（SBOs：Specific Behavioral Objectives）

- 1) コミュニケーションの意義を説明する。（20%）
- 2) 対人関係における自己理解を深めて表現する。（20%）
- 3) 人の行動とコミュニケーション情報の概念を説明する。（20%）
- 4) 効果的なコミュニケーションを行う要点を説明する。（20%）
- 5) 医療面接の基本的技能を実施する。（20%）

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方法：
講義の内容に基づいた配布資料を用いて行う。
- 2) 能動的方法：
「PBL」：個人もしくは、小グループに分けて課題に取り組んだ結果に対してディスカッションを行う。
- 3) 媒体：
配布資料、スライド

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：
講義内に行う課題提出物により理解度を確認しフィードバックする。
- 2) 総括的評価：

定期試験については、シラバスに記載した範囲で行い、講義内容の理解度を記述試験で評価する。（100%）

6. 事前学修・事後学修（提出後、返却された資料は、各自保管し定期試験対策に用いる）

- 1) 事前学修
第1回： 配布資料 P1～8 を読んでおく。
- 2) 事後学修
第1回： 講義で学んだ重要ポイントや気づきなどをリストアップする。
- 3) 事前学修・事後学修の評価
第1回： 次回講義開始時に、リストアップ資料（A4 判 800 字以内）を提出する。
- 4) 事前学修
第2回： 配布資料 P9～12 を読んでおく。
- 5) 事後学修
第2回： 講義で学んだ重要ポイントや気づきなどをリストアップする。
- 6) 事前学修・事後学修の評価
第2回： 次回講義開始時に、リストアップ資料（A4 判 800 字以内）を提出する。
- 7) 事前学修
第3回： 配布資料 P13～18 を読んでおく。
- 8) 事後学修
第3回： 講義で学んだ重要ポイントや気づきなどをリストアップする。
- 9) 事前学修・事後学修の評価
第3回： 次回講義開始時に、リストアップ資料（A4 判 800 字以内）を提出する。
- 10) 事前学修
第4回： 配布資料 P19～24 を読んでおく。
- 11) 事後学修
第4回： 講義で学んだ重要ポイントや気づきなどをリストアップする。
- 12) 事前学修・事後学修の評価
第4回： 次回講義開始時に、リストアップ資料（A4 判 800 字以内）を提出する。
- 13) 事前学修
第5回： 配布資料 P25～28 を読んでおく。
- 14) 事後学修
第5回： 講義で学んだ重要ポイントや気づきなどをリストアップする。
- 15) 事前学修・事後学修の評価
第5回： 次回講義開始時に、リストアップ資料（A4 判 800 字以内）を提出する。
- 16) 事前学修
第6回： 配布資料 P29～34 を読んでおく。

1 7) 事後学修

第 6 回： 講義で学んだ重要ポイントや気づきなどをリストアップする。

1 8) 事前学修・事後学修の評価

第 6 回： 次回講義開始時に、リストアップ資料（A4 判 800 字以内）を提出する。

1 9) 事前学修

第 7 回： 配布資料 P35～39 を読んでおく。

2 0) 事後学修

第 7 回： 講義で学んだ重要ポイントや気づきなどをリストアップする。

2 1) 事前学修・事後学修の評価

第 7 回： 次回講義開始時に、リストアップ資料（A4 判 800 字以内）を提出する。

2 2) 事前学修

第 8 回： 配布資料 P40～47 を読んでおく。

2 3) 事後学修

第 8 回： 講義で学んだ重要ポイントや気づきなどをリストアップする。

2 4) 事前学修・事後学修の評価

第 8 回： 次回講義開始時に、リストアップ資料（A4 判 800 字以内）を提出する。

2 5) 事前学修

第 9 回： 配布資料 P48～50 を読んでおく。

2 6) 事後学修

第 9 回： 講義で学んだ重要ポイントや気づきなどをリストアップする。

2 7) 事前学修・事後学修の評価

第 9 回： 次回講義開始時に、リストアップ資料（A4 判 800 字以内）を提出する。

2 8) 事前学修

第 1 0 回： 配布資料 P51～53 を読んでおく。

2 9) 事後学修

第 1 0 回： 講義で学んだ重要ポイントや気づきなどをリストアップする。

3 0) 事前学修・事後学修の評価

第 1 0 回： 次回講義開始時に、リストアップ資料（A4 判 800 字以内）を提出する。

3 1) 事前学修

第 1 1 回： 配布資料 P54～61 を読んでおく。

3 2) 事後学修

第 1 1 回： 講義で学んだ重要ポイントや気づきなどをリストアップする。

3 3) 事前学修・事後学修の評価

第 1 1 回： 次回講義開始時に、リストアップ資料（A4 判 800 字以内）を提出する。

3 4) 事前学修

第 1 2 回： 配布資料 P62～65 を読んでおく。

3 5) 事後学修

第 1 2 回： 講義で学んだ重要ポイントや気づきなどをリストアップする。

3 6) 事前学修・事後学修の評価

第 1 2 回： 次回講義開始時に、リストアップ資料（A4 判 800 字以内）を提出する。

3 7) 事前学修

第 1 3 回： 配布資料 P66～69 を読んでおく。

3 8) 事後学修

第 1 3 回： 講義で学んだ重要ポイントや気づきなどをリストアップする。

3 9) 事前学修・事後学修の評価

第 1 3 回： 次回講義開始時に、リストアップ資料（A4 判 800 字以内）を提出する。

4 0) 事前学修

第 1 4 回： 配布資料 P70～75 を読んでおく。

4 1) 事後学修

第 1 4 回： 講義で学んだ重要ポイントや気づきなどをリストアップする。

4 2) 事前学修・事後学修の評価

第 1 4 回： 次回講義開始時に、リストアップ資料（A4 判 800 字以内）を提出する。

4 3) 事前学修

第 1 5 回： 配布資料 P76～84 を読んでおく。

4 4) 事後学修

第 1 5 回： 講義で学んだ重要ポイントや気づきなどをリストアップする。

4 5) 事前学修・事後学修の評価

第 1 5 回： 講義の終わりに、理解度の評価を質問により行う。

7. 教科書

指定なし、資料配布

8. 参考図書

高江洲儀矩 編	保健医療におけるコミュニケーション・行動科学	医歯薬出版
全国歯科衛生士教育協議会 監修	最新歯科衛生士教本 歯科医療倫理 第 2 版	医歯薬出版

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時 限	内容項目（SBOs など）	方略 (LS)	場 所	担当者
1	4/10	月	1	コミュニケーションの語源と意味 人間におけるコミュニケーション 対人関係とコミュニケーション	講義	14 階 教室	保坂
2	4/17	月	1	コミュニケーションの代表的原理 コミュニケーションの特徴 ジョハリの窓	講義	14 階 教室	保坂
3	4/24	月	1	習慣行動と学習の関係 言語使用ニーズ コミュニケーションの表出 学習理論 習慣とは	講義	14 階 教室	保坂
4	5/8	月	1	これからのコミュニケーションの課題 対人援助の考え方 観察法の意義 言語と非言語表現 身体は語る	講義	14 階 教室	保坂
5	5/15	月	1	援助者の態度 患者の行動特性 自己抑制型行動特性（イイコ行動特性）	講義 演習	14 階 教室	保坂
6	5/22	月	1	コミュニケーションにみられる態度 概念フィルターについて 傾聴を妨げるブロッキング リスニング（傾聴）の効果	講義	14 階 教室	保坂

				確認法の意義			
7	5/29	月	1	アサーショントレーニング（1） 非主張的自己表現 攻撃的自己表現 アサーティブ自己表現	講義	14 階 教室	保坂
8	6/5	月	1	アサーショントレーニング（2） 自己カウンセリングとアサーション アサーション度チェック	講義 演習	14 階 教室	保坂
9	6/12	月	1	患者さんの行動特性 共感について 行動変容支援カウンセリング 期待と感情の理解	講義 演習	14 階 教室	保坂
10	6/19	月	1	臨床現場におけるコミュニケーション コンプライアンス行動 お任せ医療 コンプライアンスとセルフケアの援助と 倫理 医療現場におけるコミュニケーション	講義 演習	14 階 教室	保坂
11	6/26	月	1	医療面接で重要な空間位置関係 対人距離 パーソナルスペースの定義 距離ではかる人間関係	講義 演習	14 階 教室	保坂
12	7/3	月	1	医療面接における質問法	講義	14 階 教室	保坂
13	7/10	月	1	医療情報を得るためのコミュニケーション法（質問法の違い） 沈黙の技法 効果的な沈黙を学ぶ	講義 演習	14 階 教室	保坂
14	9/4	月	1	症状と心理的要因 共感的な繰り返し 保健行動における動機と負担	講義	14 階 教	保坂

				保健信念モデルにおける自己効力感		室	
15	9/11	月	1	歯科におけるコミュニケーションの特徴 カウンセリングとコーティング 医療面接技法の例題 多職種との連携 口腔を通じた健康支援	講義	14 階 教室	保坂

科目名：生物学

担当教員：※橋本 貞充

※(実務経験教員による授業科目)

1. 教科の特徴

本学のディプロマポリシーにある、1. 歯科衛生士として歯科疾患の予防及び口腔衛生の向上を図ることを通じて、個人の健康を増進させ、人々の健康づくりを支援できる能力をもつ人材を育成するために、生命としての生物、そして、ヒトのからだや口腔組織について、基本的な構造や機能を理解することで、これから学んでいく、基礎・臨床科目へと繋いでいくための科目である。

ナンバリング 【A0201-1A】

2. 一般目標 (GIO: General Instructional Objective)

歯科衛生士として、ひとり一人のからだの変化をつかみ、さまざまな病気に対応していくためには、正常な人間の基本的な構造や細胞・組織の機能、成長と加齢にともなう変化、そしてなぜ病気が起きるのかを理解する必要がある。

生物学では、多細胞生物として進化してきた人間の組織構造や機能について広く学ぶことを通して、ひとに興味を持ち、考えるきっかけを提供することを目的としている。

3. 行動目標 (SB0s: Specific Behavioral Objectives)

- 1) 生物とは何か？について概説できる。(5%)
- 2) 細胞とは何か？について概説できる。(10%)
- 3) 細胞核と核酸、染色体について概説できる。(5%)
- 4) 細胞膜と細胞小器官について概説できる。(5%)
- 5) 細胞骨格と細胞接着について概説できる。(5%)
- 6) 上皮組織と結合組織について概説できる。(5%)
- 7) 筋組織と神経組織について概説できる。(5%)
- 8) 消化器官について概説できる。(5%)
- 9) 循環器について概説できる。(5%)
- 10) 血液・骨髄組織について概説できる。(5%)
- 11) 免疫について概説できる。(5%)
- 12) 顔面と口腔の発生について概説できる。(5%)
- 13) 唾液腺の構造と機能について概説できる。(10%)
- 14) 口腔粘膜の構造と機能について概説できる。(10%)

15) 歯と歯周組織の構造と機能について概説できる。(10%)

16) 細胞と個体の加齢と死について概説できる。(5%)

4. 方略 (LS)

- 1) 受動的方法：講義
- 2) 能動的方法：ディスカッション
- 3) 媒体：教科書、プリント、スライド

5. 評価 (形成的評価・総括的評価) (Evaluation)

- 1) 形成的評価：
各回の講義の開始時と終了時にプレテスト・ポストテストを行う。
- 2) 総括的評価：
定期試験において、講義の内容を、筆記試験・多肢選択式のマークシート試験によって評価する。(100%)

6. 事前学修・事後学修

事前学修

第1回～15回 事前にシラバスに記載されている項目について、教科書の担当箇所を目を通しておく。(10分)

事後学修

第1回～15回 教科書および配付資料の各回の講義範囲について、ノートに整理する。(15分)

事前学修・事後学修の評価

各回の講義の開始時と終了時にプレテスト・ポストテストを行う。

7. 教科書

新課程 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録	数研出版
配布プリント	

8. 参考図書

全国歯科衛生士教育協議会	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学	医歯薬出版
全国歯科衛生士教育協議会	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学	医歯薬出版

※ 専門基礎科目と共用する。

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時／教員室

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

回数	月日	曜日	時 限	内容項目（SB0s など）	方略 (LS)	場 所	担当者
1	4/13	木	3	1) 生物とは何か。 細胞を構成している物質 からだを構成している物質 からだの組織と器官と成り立ち	講義	14 階 教 室	橋本 (貞)
2	4/20	木	3	2) 細胞とは何か。 染色体と遺伝子 DNA・RNA とセントラルドグマ 細胞の構造と機能	講義	14 階 教 室	橋本 (貞)
3	4/27	木	3	3) 細胞膜と細胞小器官 細胞膜の構造と機能 細胞小器官の構造と機能	講義	14 階 教 室	橋本 (貞)
4	5/11	木	3	4) 細胞骨格と細胞接着 細胞骨格 細胞間接着装置の構造と機能	講義 演習	14 階 教 室	橋本 (貞)
5	5/18	木	3	5) 上皮組織と結合組織 上皮組織の構造と機能 結合組織の構造と機能	講義	14 階 教 室	橋本 (貞)
6	5/25	木	3	6) 筋組織 骨格筋と平滑筋の構造と機能 7) 神経組織・内分泌組織 中枢神経と末梢神経	講義	14 階 教 室	橋本 (貞)
7	6/1	木	3	8) 消化器官 消化管の構造と機能	講義	14 階 教 室	橋本 (貞)
8	6/8	木	3	9) 循環器 血液循環の仕組み 心臓の構造と機能 動脈と静脈の構造と機能 リンパ循環の仕組み	講義	14 階 教 室	橋本 (貞)

9	6/15	木	3	10) 血液・骨髄組織 血液の成分 血球の種類と機能	講義	14 階 教室	橋本 (貞)
10	6/22	木	3	11) 自然免疫と獲得免疫	講義 演習	14 階 教室	橋本 (貞)
11	6/29	木	3	12) 顔面と口腔の発生	講義	14 階 教室	橋本 (貞)
12	7/6	木	3	13) 唾液と唾液腺 唾液の成分と機能 唾液腺の構造と機能	講義	14 階 教室	橋本 (貞)
13	7/13	木	3	14) 口腔粘膜の構造と機能	講義	14 階 教室	橋本 (貞)
14	7/20	木	3	15) 歯と歯周組織の構造と機能	講義	14 階 教室	橋本 (貞)
15	9/7	木	3	16) 細胞と個体の加齢と死 細胞・組織の加齢変化と細胞死 個体の加齢変化と死 まとめ	講義 演習	14 階 教室	橋本 (貞)

科 目 名： 情報リテラシー

担当教員： 菅野 亜紀 江口 貴子

1. 教科の特徴

本科目は、情報機器を用いて、そこから得られた情報の活用能力(倫理の実態や法規制、検索・処理・発信方法)を修得し、情報社会に必要な教養と自己開発能力を養う科目である。(ディプロマポリシー4)

ナンバリング 【A0202-1A】

2. 一般目標 (GIO : General Instructional Objective)

歯科衛生士として情報社会の中で適切な情報の検索・処理・発信を行うために必要な情報活用能力を修得する。

3. 行動目標 (SBOs : Specific Behavioral Objectives)

- 1) 情報技術の有用性および情報倫理の重要性を述べることができる。(10%)
- 2) SNS を含めた情報発信の責任について述べるができる。(5%)
- 3) Word を用いて基本的な文章を作成することができる。(10%)
- 4) 実データを活用し Excel を用いて表・グラフを作成できる。(30%)
- 5) 情報収集の方法を述べるができる。(5%)
- 6) 情報を収集することができる。(5%)
- 7) 収集した情報を処理することができる。(30%)
- 8) 処理した情報をプレゼンテーションすることができる。(5%)

4. 方略 (LS : Learning Strategy)

- 1) 受動的方法：講義、デモンストレーション
- 2) 能動的方法：プレテスト・ポストテスト、課題の発表
- 3) 媒体：スライドやプリント

5. 評価 (EV : Evaluation)

1) 形成的評価：

- ①講義1回目はプレテスト・ポストテストを行う。
- ②適宜、課題を提示し、提出物の内容を評価する。

2) 総括的評価：

- ①定期試験は講義内容の理解度を空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する。

②実技試験は課題の作成状況进行评估する。

(①+②で70～90%程度とする。)

③平常点評価 (10～30%)

日常的な授業中の態度、課題の提出状況などを評価する。

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

第1回：学内インターネットに接続するための方法を確認する。

各自 PC に電源を入れ、正常に起動するか確認する。(10 分)

第2回：各自 PC に電源を入れ、正常に起動するか確認する。(10 分)

図書館ホームページを確認する。(10 分)

第3回：Word が正常に起動するか、文字が入力できるか確認する。(10 分)

第4回：Excel が正常に使用できるかを確認する。(10 分)

第5回：Excel が正常に使用できるかを確認する。(10 分)

第6回：講義プリント(事前配布、もしくはダウンロード)を読んでおく。(10 分)

第7回：第6回目と同様。

第8回：課題発表に関する準備を行う。(10 分)

第9回：Excel が正常に起動するかを確認する。(10 分)

第10回：PowerPoint が正常に起動するか確認する。(10 分)

第11回：検索エンジンを用いてインターネット検索ができるか確認する。(5 分)。

図書館ホームページからリンクしているデータベースを確認する。(10 分)

第12回：第11回目の講義内容を踏まえ、論文検索に必要な事項を確認する。

第13回：Excel、PowerPoint が正常に使用できるか確認する。(5 分)

これまでに修得した Excel、PowerPoint に関する技術を確認する。(10 分)

第14回：第13回の講義内容を十分に確認する。(15 分)

第15回：各自発表に関する準備を行う。(10 分)

2) 事後学修

第1回：学内でのインターネット接続のための手順を確認する。(5 分)

講義資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする。(10 分)

第2回：講義資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする。(10 分)

第3回：講義で修得した Word 操作に関する技術を確認する。(10 分)

第4回：講義で修得した Excel 操作に関する技術を確認する。(10 分)

第5回：講義で修得した Excel 操作に関する技術を確認する。(10 分)

第6回：講義資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする。(10 分)

第7回：第6回目と同様。(課題が進んでいない場合には、課題を進める。)(10 分)

- 第 8 回：各自で課題発表に関する振り返りを行う。(10 分)
- 第 9 回：講義で修得した Excel 操作に関する技術を確認する。(10 分)
- 第 10 回：講義で修得した Power Point 操作に関する技術を確認する。(10 分)
- 第 11 回：講義資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする。(10 分)
- 第 12 回：選択した論文を読んでおく。(10 分)
- 第 13 回：講義で修得した Excel、PowerPoint に関する技術を確認する。(10 分)
- 第 14 回：第 14 回で作成した課題の振り返りを各自で行う。(10 分)
- 第 15 回：第 15 回で行った発表に関する振り返りを各自で行う。(5 分)

3) 事前学修・事後学修の評価

- 第 1 回：事前：学内でインターネットに接続し、PC の状態を確認する。
事後：次回講義開始前に、第 1 回に関するポストテストを行う。
- 第 2 回：事前：学内でインターネットに接続し、PC の状態を確認する。
図書館のホームページに関する質問を行い、理解度を確認する。
事後：次回講義開始前に、第 2 回に関する質問を行い、理解度を確認する。
- 第 3, 4, 5 回：
事前：Word, Excel が正常に使用できているか確認する。
事後：次回講義開始前に第 3, 4, 5 回に関する質問を行い、理解度を確認する。
- 第 6, 7 回：
事前：講義当日の開始時にプレテストで確認する。
事後：次回講義の開始時にポストテストで確認する。
- 第 8 回：事前：当日の発表の様子で評価する。
事後：次回講義開始前に、第 8 回に関する質問を行い、理解度を確認する。
- 第 9 回：事前：Excel が正常に使用できているか確認する。
事後：次回講義開始時に、第 9 回に関する質問を行い、理解度を確認する。
- 第 10 回：
事前：PowerPoint が正常に使用できているか確認する。
事後：次回講義開始時に第 10 回に関する質問を行い、理解度を確認する。
- 第 11 回：
事前：図書館ホームページからリンクしているデータベースに関する質問を行い、学修状況を確認する。
事後：次回講義開始時に、第 11 回に関する質問を行い、理解度を確認する。
- 第 12 回：
事前：論文検索に関する質問を行い、理解度を確認する。
事後：どのような論文を検索したかを質問する。

- 第 13, 14 回：
事前：Excel、PowerPoint が正常に使用できているか確認する。
事後：課題についての振り返り状況を質問する。
- 第 15 回：
事前：当日の発表の様子で評価する。
事後：次回講義がないため行わない。

7. 教科書

教科書は用いず、プリントを配布もしくは配信を行う。

8. 参考図書

梶 大輔 著	学生時代に学びたい情報倫理	共立出版
魚田勝臣ほか編著	IT テキスト基礎情報リテラシ	共立出版
大谷卓史編著	情報倫理入門	アイ・ケイコーポレーション
眞木吉信 監著	卒業研究 HAND BOOK	クインテッセンス出版株式会社

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目（SB0s など）	方略（LS）	場所	担当者
1	4/14	金	3	情報リテラシー・情報倫理 ・情報リテラシーについて説明する。 ・情報倫理について説明する。 ・医療情報の開示に関する注意点を説明する。 ・SNS を含めた情報発信の責任について説明する。 コンピューターの利用の基本1 ・ハードウェアの構成を説明する。 ・PC接続確認1	講義	14階教室	菅野江口
2	4/21	金	3	情報リテラシー・情報倫理 ・情報収集における図書館の役割と、その仕組み - 図書館の種類 - 図書館のサービス - 図書館蔵書検索 - 目的の図書を探し出す ・著作権について概要を説明する ・PC接続確認2	講義	14階教室	阿部菅野江口
3	4/28	金	3	コンピューターによる情報処理1 ・IDとパスワード管理・タッチタイピング ・アカウントの概念、ネットワーク・メール ・Wordでの文章ファイル作成、保存ができる。	講義	14階教室	菅野江口
4	5/12	金	3	コンピューターによる情報処理2 ・TDCポータルへの接続 ・Gmailの活用 ・Excelの説明 ・Excelによる表の作成と計算 （セル・列・行の説明、計算式の入力方法）	講義	14階教室	菅野江口

5	5/19	金	3	コンピューターによる情報処理3 ・4回目の課題実施 ・Excelによるフィルター機能の活用	講義	14階教室	菅野江口
6	5/26	金	3	コンピューターによる情報処理4 ・保健情報について ・質問紙(アンケート)の作成について	講義	14階教室	菅野江口
7	6/2	金	3	コンピューターによる情報処理5 ・グループまたは個人による質問紙作成 ・集計フォーマットの作成	講義	14階教室	菅野江口
8	6/9	金	3	コンピューターによる情報処理6 ・7回目に作成した課題の発表	講義	14階教室	菅野江口
9	6/16	金	3	コンピューターによる情報処理7 ・Excelによるグラフの作成 ・実データの活用 ・Excel による表計算やグラフ作成	講義	14階教室	菅野江口
10	6/23	金	3	コンピューターによる情報処理8 ・Excelによるグラフの作成 PowerPointでのスライド作成	講義	14階教室	菅野江口
11	6/30	金	3	コンピューターによる情報の収集1 ・図書館での情報収集や学術文献を検索する。 ・学術文献の検索 - 研究と図書館 - 学術情報データベース - インターネット情報の特徴 - 学術情報流通の現状	講義	14階教室	阿部菅野江口

12	7/7	金	3	<u>PowerPointを用いたプレゼンテーション1</u> ・選択した論文を要約する。 ・PowerPointでのスライド作成ができる。	講義	14階教室	菅野江口
13	7/14	金	3	<u>コンピューターによる情報処理まとめ</u>	講義	14階教室	菅野江口
14	9/1	金	3	<u>コンピューターの実技まとめ</u> ・基本的文章を作成することができる。 ・収集した情報、データを処理することができる。	講義	14階教室	菅野江口
15	9/8	金	3	<u>PowerPointを用いたプレゼンテーション2</u> ・PowerPointにて発表を行う。 <u>情報リテラシーまとめ</u> ・情報リテラシーについて説明する。 ・情報倫理について説明する。 ・医療情報の開示に関する注意点を説明する。 ・文章作成、図表作成、プレゼンテーションスライド作成の実際。	講義	14階教室	菅野江口

科 目 名： 経済学

担当教員： 野口 尚洋

1. 教科の特徴

経済の仕組みについて理論と現実の両面から説明しく。経済学を学ぶことは、地域社会の中で直面する様々な問題に対して、人として、また、歯科衛生士として、自律性をもって行動するための一助となるものである。(ディプロマポリシー4)

ナンバリング 【A0203-1A】

2. 一般目標 (GIO : General Instructional Objective)

将来の生活の中で起こる様々な経済的な課題に対して、その仕組みを理解し、自ら考えて行動するための経済学的な考え方の基礎が身に付けられることを目標とする。

3. 行動目標 (SBOs : Specific Behavioral Objectives)

- 1) 日常生活に関する経済に対する関心を高める。(40%)
- 2) 日常生活に関する経済の諸問題を理解する。(20%)
- 3) 日常生活に必要な経済の仕組みを理解する。(30%)
- 4) 物価、景気などの基本的事項を理解し、経済ニュースを読めるようになる。(10%)

4. 方略 (LS : Learning Strategy)

- 1) 受動的方法：
講義
- 2) 能動的方法：
ポスト・テスト
- 3) 媒体：
プリント

5. 評価 (EV : Evaluation)

- 1) 形成的評価：
各回の講義終了時にポスト・テストを行う。(20%)
- 2) 総括的評価：
定期試験については、講義内容の理解度をグラフの読み取り、計算問題、論述等の記述試験により評価する。(80%)

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

第1回： シラバスを読んでおく。(5分)

第2回以降： 前回のプリントを読み、ポスト・テストの間違えた問題を解きなおす。
(15分)

2) 事後学修

第1回以降： 配布資料を再確認し演習問題を解きなおす。(15分)

3) 事前学修・事後学修の評価

第1回以降： ポスト・テストを行う

7. 教科書

教科書は指定しません。

8. 参考図書

参考書は適宜、指示します。

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目（SB0s など）	方略（LS）	場所	担当者
1	4/13	木	4	オリエンテーション ・経済学を学ぶ理由は？ ・授業内容と進め方について 経済学独特の考え方（１） ・インセンティブ	講義	14階教室	野口
2	4/20	木	4	経済学独特の考え方（２） 経済学独特の考え方を理解する。 ① 機会費用 ② トレード・オフ ③ 比較優位 ④ 交換の利益	講義	14階教室	野口
3	4/27	木	4	経済学独特の考え方（３） 「限界」の考え方を理解する。 ① 限界費用 ② 企業の生産量の決め方	講義	14階教室	野口
4	5/11	木	4	企業の利潤最大化 企業の利潤最大化について理解する。 ① 利潤最大化の条件 ② 損益分岐点と操業停止点 ③ 企業分析（オリエンタルランド）	講義	14階教室	野口
5	5/18	木	4	需要と供給 需要と供給の関係と余剰を理解する。 ① 均衡と余剰 ② 課税の効果（価格弾力性と負担）	講義	14階教室	野口
6	5/25	木	4	情報の経済学 情報の非対称性について理解する。 ① 保険について ② モラル・ハザードと逆選択	講義	14階教室	野口
7	6/1	木	4	ゲーム理論 ゲーム理論について理解する。 ① ゲーム理論の仕組み ② 囚人のジレンマ ③ 色々なゲーム	講義	14階教室	野口

8	6/8	木	4	日本経済 日本経済の現状を理解する。 ① GDP と戦後日本経済 ② 産業連関表と経済効果	講義	14階教室	野口
9	6/15	木	4	財市場 財市場と財政政策の効果を理解する。 ① GDP の決め方 ② 乗数効果と財源	講義	14階教室	野口
10	6/22	木	4	金融政策（１） 金融市場の仕組みを理解する。 ① 貨幣とは？ ② 銀行の役割 ③ 金利について	講義	14階教室	野口
11	6/29	木	4	金融市場（２） 金融政策について理解する ① 日本銀行について ② 金融政策	講義	14階教室	野口
12	7/6	木	4	金融市場（３） 資産について理解する。 ① 割引考え方 ② 債券と株式	講義	14階教室	野口
13	7/13	木	4	労働市場 労働市場について理解する。 ① 失業について ② 日本の労働市場 ③ 歯科衛生士の労働市場	講義	14階教室	野口
14	7/20	木	4	為替 日本と海外の経済的な関係を理解する。 ① 円安とGDPの関係 ② 為替レートの決定	講義	14階教室	野口
15	9/7	木	4	国の財政と社会保障 財政状態と社会保障について理解する。 ① 現在の財政状況 ② 社会保障制度について	講義	14階教室	野口

科 目 名： 国際保健学
担当教員： 小川 祐司

1. 教科の特徴

教養と自己開発能力を有する自律性を持ち、地域（国際）社会の種々な場に対応できる人材を養成する(4)。

ナンバリング 【A0204-1A】

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

- 1) 先進国や途上国の人々の健康に関する現状や問題を把握する
- 2) 国際目標や国際協力の仕組みを理解して、それぞれの課題と解決策を学修する

3. 行動目標（SBGs：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 世界の人々の歯科も含めた健康の現状を説明できる 30%
- 2) 健康問題改善のための課題と取り組みを説明できる 40%
- 3) 国際協力の仕組みと活動を説明できる 30%

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方法：
講義
- 2) 能動的方法：
ディスカッションおよびポストテスト
- 3) 媒体：
スライドおよびプリント

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：
各回の講義終了時にポストテストを行う
- 2) 総括的評価：
講義内容の理解度を、空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する(100%)

6. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修
各回、必要に応じて適宜指示する
- 2) 事後学修

毎回、当日配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする

3) 事前学修・事後学修の評価

原則として、講義終了時にポストテストを行う

7. 教科書

特に指定しない		
---------	--	--

8. 参考図書

田村やよひ 編	国際看護学	メヂカルフレンド社
日本国際保健医療学会 編	国際保健医療学 第3版	杏林書院
泉福英信 編	デンタルスタッフの口腔衛生学・歯科衛生統計	医歯薬出版
安井利一ほか 編	口腔保健・予防歯科学	医歯薬出版
安井利一ほか 編	新編衛生学・公衆衛生学	医歯薬出版
一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学第4版	医歯薬出版

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時 限	内容項目（SB0s など）	方略 (LS)	場 所	担当者
1	6/9	金	4	オリエンテーション 講義概要について 国際保健の定義とその役割	講義 ポス トテ スト	14 階 教 室	小川
2	6/16	金	4	世界が抱える健康問題とその対応① こどもの健康 女性と健康	講義 ポス トテ スト	14 階 教 室	遠藤
3	6/23	金	4	世界が抱える健康問題とその対応② 非感染性疾患と口腔疾患 コモンリスクファクター	講義 ポス トテ スト	14 階 教 室	小川
4	6/30	金	4	世界が抱える健康問題とその対応③ 感染性疾患 (COVID-19含めて)	講義 ポス トテ スト	14 階 教 室	小川
5	7/7	金	4	日本の国際協力の仕組みと保健活動 IADR政府開発援助、二国間協力、多国 間協力 JICAの貢献	講義 ポス トテ スト	14 階 教 室	小野
6	7/14	金	4	世界が抱える健康問題に対処するための 主な国際機関やパートナー UN WHO UNICEF UNEP FDI	講義 ポス トテ スト	14 階 教 室	小川
7	9/1	金	4	国際社会で活躍できる歯科衛生士を目指 して 国際歯科保健における歯科衛生士の役割	講義 ポス トテ スト	14 階 教 室	安達
8	9/8	金	4	国際歯科保健の展望と歯科衛生士への期 待 2030 年に向けての歯科保健の潮流のな かで、国際的に活躍するために解決すべ き課題と目標の設定	講義 ポス トテ スト	14 階 教 室	小川

科目名： 統計学

担当教員： 高際 睦

1. 教科の特徴

どのような分野においても、データを活用することは必要不可欠な技能の一つとなりつつある。もちろん、歯科衛生士にとっても、様々な場面において、データを活用しなくてはならない状況がありうるであろう。この統計学の授業においては、データを扱うために必要な最低限の知識、例えば、データの抽出、データの要約、データからの推論などの基本を学修する。この教科を通して、教養と自己開発能力を有する自立性が身につくであろう（ディプロマポリシー 4.）。

ナンバリング 【A0205-1B】

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

統計学の基礎知識を修得し、歯科医療の現場や研究において、その知識を応用できる能力を身につける。

3. 行動目標（SBOs：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 度数分布表、ヒストグラムを使って、データをまとめることができる。(10%)
- 2) 中心、広がりを表す代表値について説明し、それらに関する計算ができる。(20%)
- 3) 確率や確率分布の概念を説明し、それらに関する計算ができる。(20%)
- 4) 二項分布、正規分布を説明できる。(10%)
- 5) 区間推定、仮説検定の概念を説明し、その結果を解釈できる。(40%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方略：講義
- 2) 能動的方略：ディスカッション、ポストテスト
- 3) 媒体：プリント、スライド

5. 評価（EV：Evaluation）

1) 形成的評価：

各回の講義終了時にポストテストを行う。

2) 総括的評価：

定期試験については、講義内容の理解度を記述試験で評価する。(80%)
また、ポストテストなどの提出状況も評価する。(20%)

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

- 第1回： 「統計学」について調べる。(15分)
- 第2回： 「度数分布表」について調べる。(15分)
- 第3回： 「ヒストグラム」について調べる。(15分)
- 第4回： 「代表値」について調べる。(15分)
- 第5回： 「散らばりの代表値」について調べる。(15分)
- 第6回： 「相関関係」について調べる。(15分)
- 第7回： 「回帰直線」について調べる。(15分)
- 第8回： 「確率」について調べる。(15分)
- 第9回： 「二項分布」について調べる。(15分)
- 第10回： 「正規分布」について調べる。(15分)
- 第11回： 「中心極限定理」について調べる。(15分)
- 第12回： 「標本抽出」について調べる。(15分)
- 第13回： 「信頼区間について調べる。(15分)
- 第14回： 「検定」について調べる。(15分)
- 第15回： 「検定の過誤」について調べる。(15分)

2) 事後学修

- 第1回： 当日配付資料を読み返し、自分用のノートにまとめる。(15分)
- 第2回： 当日配付資料を読み返し、自分用のノートにまとめる。(15分)
- 第3回： 当日配付資料を読み返し、自分用のノートにまとめる。(15分)
- 第4回： 当日配付資料を読み返し、自分用のノートにまとめる。(15分)
- 第5回： 当日配付資料を読み返し、自分用のノートにまとめる。(15分)
- 第6回： 当日配付資料を読み返し、自分用のノートにまとめる。(15分)
- 第7回： 当日配付資料を読み返し、自分用のノートにまとめる。(15分)
- 第8回： 当日配付資料を読み返し、自分用のノートにまとめる。(15分)
- 第9回： 当日配付資料を読み返し、自分用のノートにまとめる。(15分)
- 第10回： 当日配付資料を読み返し、自分用のノートにまとめる。(15分)
- 第11回： 当日配付資料を読み返し、自分用のノートにまとめる。(15分)
- 第12回： 当日配付資料を読み返し、自分用のノートにまとめる。(15分)
- 第13回： 当日配付資料を読み返し、自分用のノートにまとめる。(15分)
- 第14回： 当日配付資料を読み返し、自分用のノートにまとめる。(15分)
- 第15回： 当日配付資料を読み返し、自分用のノートにまとめる。(15分)

3) 事前学修・事後学修の評価

事前学習、事後学修は毎回のポストテストで確認する。

7. 教科書

指定しない（毎回、プリントを用意する）。

8. 参考図書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と 社会の仕組み 3 保健情報統計学	医歯薬出版
--------------------	--	-------

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時 限	内容項目（SBOs など）	方略 (LS)	場 所	担当者
1	10/6	金	2	ガイダンス	講義	14 階 教室	高際
2	10/13	金	2	度数分布表 ・統計学の基本用語を説明できる。 ・度数分布表を説明し、作成することができる。	講義	14 階 教室	高際
3	10/20	金	2	ヒストグラム ・ヒストグラムを説明し、作成することができる。 ・データの分布の特徴を説明できる。	講義	14 階 教室	高際
4	10/25	水	2	中心を表す代表値 ・中心を表す代表値を説明し、計算することができる。	講義	14 階 教室	高際
5	10/27	金	2	広がりを表す代表値（散布度） ・広がりを表す代表値を説明し、計算することができる。	講義	14 階 教室	高際
6	11/10	金	2	相関係数 ・散布図を説明し、作成できる。 ・相関係数を説明し、計算することができる。	講義	14 階 教室	高際
7	11/17	金	2	線形回帰 ・回帰直線を説明し、計算することができる。	講義	14 階 教室	高際
8	11/24	金	2	確率論 ・確率論の基礎的な概念を説明できる。	講義	14 階 教室	高際

9	12/1	金	2	二項分布 ・離散型確率分布を説明できる。 ・二項分布を説明できる。	講義	14 階 教 室	高 際
10	12/8	金	2	正規分布（その1） ・連続型確率分布を説明できる。 ・正規分布を説明できる。	講義	14 階 教 室	高 際
11	12/15	金	2	正規分布（その2） ・正規分布の確率計算ができる。 ・中心極限定理が説明できる。	講義	14 階 教 室	高 際
12	12/22	金	2	標本抽出と点推定 ・母集団と標本を説明できる。 ・標本抽出について説明できる。 ・点推定の概念を説明できる。	講義	14 階 教 室	高 際
13	1/12	金	2	区間推定 ・区間推定の概念を説明できる。 ・母平均の信頼区間を計算できる。	講義	14 階 教 室	高 際
14	1/19	金	2	仮説検定（その1） ・仮説検定の概念を説明できる。 ・帰無仮説、対立仮説を説明できる。 ・片側検定、両側検定を説明できる。	講義	14 階 教 室	高 際
15	1/26	金	2	仮説検定（その2） ・検定結果を適切に解釈できる。 ・検定における過誤を説明できる。	講義	14 階 教 室	高 際

科 目 名： 食育論

担当教員： ※ 鈴木亜夕帆

1. 教科の特徴

食育は、子供だけでなく、大人にも重要な活動です。歯科衛生士が、専門性を生かしながら他（多）職種と協働して行う楽しい食育を考え、食育で利用できる教材作成を目標に授業を行います。そのために「食育とは何か」から始まり、食事についての基礎、食育の実践方法に加えて、実際に「食育」を体験しながら学びます。（ディプロマポリシー1 および 3）

ナンバリング 【A0206-1B】

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

歯科衛生士の専門性を生かし他（多）職種と連携した食育を理解し実践できることを目的に、食育、食の現状、健康との関わり、食の背景・文化、日本人の食べ物（食品成分表）及び食べる基準（食事摂取基準）について基礎的な内容を理解し、専門性を生かした食育を考え、伝えることができる。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

- 1）食育とは何かを説明できる。（15%）
- 2）食習慣の現状、食と健康の関わりを説明できる。（15%）
- 3）食の背景を説明できる。（15%）
- 4）日本人の食べ物（食品成分表）及び食べる基準（食事摂取基準）を説明できる。（15%）
- 5）自分自身に必要な食育を考え伝えることができる。（20%）
- 6）専門性を生かし他（多）職種と連携した食育を考え伝えることができる。（20%）

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1）受動的方法：講義
- 2）能動的方法：個人研究、グループ討議、発表
- 3）媒体：スライド、プリント、テキスト

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1）形成的評価（40%）
各回の学びの振り返り及び授業態度。各回の講義終了時に自己の学びの振り返りを行う。次回授業時にフィードバック等を行う。授業態度は、授業に向かう意欲、討議への参加の様子等について評価を行う。

2）総括的評価（60%）

定期試験及び最終課題。定期試験は、講義内容の理解度を空欄補充、論述等で評価する。最終課題は、授業内容を踏まえた取り組みについて評価する。

6. 事前学修・事後学修

1）事前学修

各回のテーマを確認し、授業前の自分の考え、知識等を整理しておく。（第1回授業時に手順を説明します）

2）事後学修

各回の授業で事前学修と授業内容を踏まえた自分の学びについて整理する。

3）事前学修・事後学修の評価

各回の学びの振り返りの記述内容で評価する。

7. 教科書

香川明夫 監修	八訂 食品成分表 2023	女子栄養大学出版部
---------	---------------	-----------

8. 参考図書

国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 監修	食べ物と健康 食事設計と栄養・調理	南江堂
伊藤 貞嘉、佐々木 敏 監修	日本人の食事摂取基準 2020 年版	第一出版
文部科学省科学技術・学術審議会資源調査分科会	日本食品標準成分表 2020 年（八訂）	全国官報販売協同組合
渡邊智子、鈴木亜夕帆	ちば型食生活実践ガイドブック	千葉県
渡邊智子、鈴木亜夕帆	ちば型食生活実践ガイドブック資料編	千葉県
渡邊智子、鈴木亜夕帆	ちば型食生活実践ガイドブック概要版	千葉県

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類（遅延証明書等）を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目（SB0s など）	方略（LS）	場所	担当者
1	10/6	金	4	ガイダンス ●食育とは何か ●この授業の目標 □自分の食習慣を分析する	講義	14階教室	鈴木
2	10/13	金	4	食習慣の現状 ●日本の現状 ●自分の現状 □箸、割りばしの扱い	講義	14階教室	鈴木
3	10/20	金	4	食育と健康 ●健康日本21 ●SDGs □茶碗、椀の扱い	講義	14階教室	鈴木
4	10/25	水	4	食の文化的背景 ●世界、日本、地域の食文化 □食事のマナーを考えよう①	講義	14階教室	鈴木
5	10/27	金	4	和食と食育 ●「和食」の特徴 ●和食の理解と食育への応用 □日本・地域の食事	講義	14階教室	鈴木
6	11/10	金	4	現在とこれからの食と健康Ⅰ ●「日本人の食事摂取基準」と食育 □食事のマナーを考えよう②	講義	14階教室	鈴木
7	11/17	金	4	現在とこれからの食と健康Ⅱ ●「日本食品標準成分表」と食育 □食品成分表の観察	講義	14階教室	鈴木
8	11/24	金	4	他（多）職種が協働する食育 ●食育で行う自己紹介（★） ●「食」を通して考えたいこと □食育教材の観察	講義	14階教室	鈴木

9	12/1	金	4	他（多）職種が連携する食育を考える ●連携するとは何か ●食育教材作成のポイント □食品表示の観察	講義	14階教室	鈴木
10	12/8	金	4	健康に過ごすための食育の実際Ⅰ ●食事バランスガイド ●ゲー・パー食生活 □食育教材の体験	講義	14階教室	鈴木
11	12/15	金	4	健康に過ごすための食育の実際Ⅱ ●ダイエットデザインハウス ●その他の食事アドバイスの方法 □食育教材の体験	講義	14階教室	鈴木
12	12/22	金	4	他（多）職種が協働する食育Ⅰ ●自分への食育を考える（★） □教材のテーマを考え、具体的な教材をイメージする	講義	14階教室	鈴木
13	1/12	金	4	他（多）職種が協働する食育Ⅱ ●食育教材の視点の整理 □教材を作成する	講義	14階教室	鈴木
14	1/19	金	4	他（多）職種が協働する食育Ⅲ ●発表ガイダンス □食育の実践	講義	14階教室	鈴木
15	1/26	金	4	食育教材の発表、まとめ □食育教材発表（★） ●まとめ	講義	14階教室	鈴木

科 目 名： 英語 I（基礎英語）

担当教員： 森田 雅義

1. 教科の特徴

英語の4技能の向上を図る総合英語の学習を通じて、日本や多様な外国の言語・文化を尊重する心を養いながら、医療人としての高い倫理観や人間性・協調性を身につける。
(ディプロマポリシー4)

ナンバリング 【A0301-1C】

2. 一般目標 (GIO : General Instructional Objective)

中学校・高等学校で学習した英語を基礎として、聞くこと・話すこと・読むこと・書くことの英語の4技能の伸長を目指し、英語でのコミュニケーション能力の向上を図る。

3. 行動目標 (SBGs : Specific Behavioral Objectives)

- 1) 様々な英語の文章を聞いたり、読んだりして、その内容を正しく理解できる。(40%)
- 2) 英語を書いたり、話したりすることを通じて、自分の考え等を伝えることができる。(40%)
- 3) 日本や外国の言語や文化に興味をもち、大切にする。(5%)
- 4) プリント等を使った活動において、積極的に取り組んでいる。(15%)
- 5) ペアやグループ活動において、積極的に取り組んでいる。(5%)

4. 方略 (LS : Learning Strategy)

- 1) 受動的方法 : 講義
- 2) 能動的方法 : ディスカッション、ペアワーク、グループワーク
- 3) 媒体 : 教科書、プリント、スライド、ビデオ

5. 評価 (EV : Evaluation)

- 1) 定期試験及び中間試験等（総括的評価）70～80%
講義内容の空欄補充、多肢選択、記述式問題等で評価する。
中間テスト（1回実施）5～10%、定期試験 65～70%
- 2) 平常点評価（総括的評価）5～10%
課題提出状況、実技テスト、授業出席状況

6. 事前学修・事後学修

事前学修：瞬間英作文の教科書の、当日実施する部分を確認しておくこと。
事後学修：授業で使ったプリント等を確実に仕上げること。

7. 教科書

山崎祐一著 瞬時に話せる英会話フレーズ大特訓 Jリサーチ出版
自主作成教材（プリント）

8. 参考図書

必要に応じて授業にて紹介

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目（SB0s など）	方略（LS）	場所	担当者
1	4/14	金	2	Introduction	講義 演習	14階教室	森田
2	4/21	金	2	英語レベルチェックテスト	講義 演習	14階教室	森田
3	4/28	金	2	瞬間英作文についての説明 発音記号演習	講義 演習	14階教室	森田
4	5/12	金	2	瞬間英作文 演習（1）	講義 演習	14階教室	森田
5	5/19	金	2	瞬間英作文 演習（2）	講義 演習	14階教室	森田
6	5/26	金	2	瞬間英作文 演習（3）	講義 演習	14階教室	森田
7	6/2	金	2	瞬間英作文 演習（4）	講義 演習	14階教室	森田
8	6/9	金	2	瞬間英作文 演習（5）	講義 演習	14階教室	森田

9	6/16	金	2	瞬間英作文 演習（6）	講義 演習	14階教室	森田
10	6/23	金	2	瞬間英作文 前期中間テスト	講義 演習	14階教室	森田
11	6/30	金	2	自己紹介文を作ろう（1）	講義 演習	14階教室	森田
12	7/7	金	2	自己紹介文を作ろう（2）	講義 演習	14階教室	森田
13	7/14	金	2	実技テスト（1） 課題作成 グループ内発表について	演習 演習	14階教室	森田
14	9/1	金	2	実技テスト（2） グループ内発表	演習 演習	14階教室	森田
15	9/8	金	2	前期のまとめ 定期試験について	講義 演習	14階教室	森田
16	10/4	水	2	日本の昔話の英訳に挑戦！	講義 演習	14階教室	森田
17	10/11	水	2	瞬間英作文 演習（7）	講義 演習	14階教室	森田

18	10/18	水	2	瞬間英作文 演習（8）	講義 演習	14 階 教室	森田
19	11/1	水	2	瞬間英作文 演習（9）	講義 演習	14 階 教室	森田
20	11/8	水	2	瞬間英作文 演習（10）	講義 演習	14 階 教室	森田
21	11/15	水	2	瞬間英作文 演習（11）	講義 演習	14 階 教室	森田
22	11/22	水	2	瞬間英作文 後期中間テスト	講義 演習	14 階 教室	森田
23	11/29	水	2	Special Program	講義 演習	14 階 教室	森田
24	12/6	水	2	Special Program	講義 演習	14 階 教室	森田
25	12/13	水	2	課題作成演習	講義 演習	14 階 教室	森田
26	12/20	水	2	Christmas Songs	講義 演習	14 階 教室	森田

27	1/10	水	2	実技テスト 課題	講義 演習	14 階 教室	森田
28	1/17	水	2	実技テスト（続き） リスニング演習	講義 演習	14 階 教室	森田
29	1/24	水	2	課題グループ内発表	講義 演習	14 階 教室	森田
30	1/31	水	2	後期のまとめ 定期試験について	講義 演習	14 階 教室	森田

科目名: 中国語

担当教員: 盧 曉敏

1. 教科の特徴

短期間で、中国語の正確な発音ができ、簡単な日常会話ができるようになることを目指します。中国語学習の基本を身につけます。

教養ある歯科衛生士としてグローバルに活躍できる人材を目指します。

ナンバリング 【A0303-1A】

2. 一般目標 (GIO: General Instructional Objective)

中国語の発音の基本となるピンインと 4 つの声調および初歩的な文法をしっかりと身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指します。

3. 行動目標 (SBOs: Specific Behavioral Objectives)

1) 子音、母音、4 つの声調を学び、正確な発音ができるようにする。 (10%)

2) 複雑なピンインのつづり方を学び、正確に書けるようにする。 (20%)

習得したピンインを使って辞書を調べられるようにする。

3) 基本的な文法を習得し、簡単な会話ができるようにする。 (70%)

4. 方略 (LS: Learning Strategy)

1) 受動的方法:

正確な発音ができるように、授業中に繰り返し発音練習をし、ピンインのつづりを反復練習する。

2) 能動的方法:

簡単なセンテンスが書けるようにし、言えるようにする。

3) 媒体:

教材に付いている CD を聞いて、正しい発音に慣れる。

5. 評価 (EV: Evaluation)

1) 形成的評価

各回の講義開始時と終了時にプレテスト・ポストテストを行う。

2) 総括的評価

定期試験については、講義内容の理解度を、空欄補充、真偽選択、論述等の記述 試験で評価する。(90%) なお、中間試験については、シラバスに記載した範囲で行い、評価する。

(10%)

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

第 1 回: 第 1 課と第 2 課を予習する。

2) 事後学修

第 1 回: 授業中の内容を復習する。

3) 事前学修・事後学修の評価

第 1 回: 2 回目の授業中で、小テストする。

第 2 回以後は: 授業中で指示する。基本的に、新しいレッスンを予習し、当日学習した内容を復習する。毎回新しいレッスンを始める前に、小テストを行い、学習した内容を身につけたかどうかをチェックする。

7. 教科書

大石智良・凌志偉ほか 『ポイント学習 中国語初級』 東方書店

8. 参考図書

必要に応じて辞典などを授業中に紹介する。

9. オフィスアワー

講義実施日の講義前後、それぞれ 30 分程度

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目（SB0s など）	方略（LS）	場所	担当者
1	4/12	水	3	第1課 発音 単母音、4つの声調	講義	14階教室	盧
2	4/19	水	3	第2課 発音(2) 子音	講義	14階教室	盧
3	4/26	水	3	第3課 発音(3) 複合母音	講義	14階教室	盧
4	5/10	水	3	第3課 発音(3) ピンインのつづり方	講義	14階教室	盧
5	5/17	水	3	第4課 発音(4) 二音節の 20 パターン	講義	14階教室	盧
6	5/24	水	3	第5課 自己紹介 人称代名詞、名字の尋ね方、答え方	講義	14階教室	盧
7	5/31	水	3	発音の総復習をする 小テストを行う	講義	14階教室	盧
8	6/7	水	3	第6課 何を勉強していますか 中国語の4文型1 動詞述語文	講義	14階教室	盧

9	6/14	水	3	第7課 北京大学はとても大きい 中国語の4文型2 形容詞述語文	講義	14階教室	盧
10	6/21	水	3	第8課 わたしは18歳 中国語の4文型3 名詞述語文	講義	14階教室	盧
11	6/28	水	3	第9課 どこが具合が悪いですか？ 中国語の4文型4 主述述語文	講義	14階教室	盧
12	7/5	水	3	第10課 一年生は皆外国語を勉強する 連体修飾語と構造助詞「的」	講義	14階教室	盧
13	7/12	水	3	第11課 テレビを毎日何時間見ますか 補語の使い方	講義	14階教室	盧
14	7/19	水	3	第12課 彼女は誰ですか？ 反復疑問文	講義	14階教室	盧
15	9/6	水	3	総復習:今まで習ったものをすべて 練習、 復習する	講義	14階教室	盧

科目名： 韓国語

担当教員： 富所 明秀

1. 教科の特徴

韓国語も他の言語同様、習得には暗記が必須であるが、個々の事項との関連を意識することで暗記はより定着する。このことは韓国語の習得のみならず、他の教科においても必要とされるスキルなので、事項を単体として捉えるより先に全体を見通して、各事項の関連付けや知識の整理をおこないながら学習することが望ましい。
(ディプロマポリシー 4)

ナンバリング 【A0304-1B】

2. 一般目標 (GIO : General Instructional Objective)

韓国語の正確な発音と基本的な文法を習得すること。

3. 行動目標 (SBOs : Specific Behavioral Objectives)

- 1) 韓国語の文字を読み書きできること。(20%)
- 2) 発音の変化を理解し、正確に発音できること。(20%)
- 3) 韓国語で氏名が書けるようになること。(10%)
- 4) 基本的な文法を理解し、簡単な文が作れるようになること。(50%)

4. 方略 (LS : Learning Strategy)

- 1) 受動的方法：講義
- 2) 能動的方法：講義中に学生を指名して、答えさせるなど。
- 3) 媒体：教科書

5. 評価 (EV : Evaluation)

- 1) 形成的評価：各回の講義開始時に前回学んだ部分について的小テストを行い 20% で評価する。
- 2) 総括的評価：定期試験については空欄補充、和訳、韓国語訳などの記述試験をもって 50% で評価する。
なお、中間試験については、30% で評価する。

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

第1回：教科書第1課、第2課の前半を読んでおく。(15分)

2) 事後学修

第1回：その日に学んだ部分をノートに書いて音読し、小テストに備える。(20分)

3) 事前学修・事後学修の評価

第1回：次回講義の開始時に小テストを行う。

1) 事前学修

第2回：教科書第2課の後半を読んでおく。(15分)

2) 事後学修

第2回：その日に学んだ部分をノートに書いて音読し、小テストに備える。(20分)

3) 事前学修・事後学修の評価

第2回：次回講義の開始時に小テストを行う。

1) 事前学修

第3回：教科書第3課の前半を読んでおく。(15分)

2) 事後学修

第3回：その日に学んだ部分をノートに書いて音読し、小テストに備える。(20分)

3) 事前学修・事後学修の評価

第3回：次回講義の開始時に小テストを行う。

1) 事前学修

第4回：教科書第4課の前半を読んでおく。(15分)

2) 事後学修

第4回：その日に学んだ部分をノートに書いて音読し、小テストに備える。(20分)

3) 事前学修・事後学修の評価

第4回：次回講義の開始時に小テストを行う。

1) 事前学修

第5回：教科書第4課の後半を読んでおく。(15分)

2) 事後学修

第5回：その日に学んだ部分をノートに書いて音読し、小テストに備える。(20分)

3) 事前学修・事後学修の評価

第5回：次回講義の開始時に小テストを行う。

- 1) 事前学修
第6回：教科書第5課を読んでおく。(15分)
- 2) 事後学修
第6回：その日に学んだ部分をノートに書いて音読し、小テストに備える。(20分)
- 3) 事前学修・事後学修の評価
第6回：次回講義の開始時に小テストを行う。

- 1) 事前学修
第7回：教科書第6課を読んでおく。(15分)
- 2) 事後学修
第7回：その日に学んだ部分をノートに書いて音読し、小テストに備える。(20分)
- 3) 事前学修・事後学修の評価
第7回：次回講義の開始時に小テストを行う。

- 1) 事前学修
第8回：教科書第7課を読んでおく。(15分)
- 2) 事後学修
第8回：その日に学んだ部分をノートに書いて音読し、小テストに備える。(20分)
- 3) 事前学修・事後学修の評価
第8回：次回講義の開始時に小テストを行う。

- 1) 事前学修
第9回：教科書第8課の前半を読んでおく。(15分)
- 2) 事後学修
第9回：その日に学んだ部分をノートに書いて音読し、小テストに備える。(20分)
- 3) 事前学修・事後学修の評価
第9回：次回講義の開始時に小テストを行う。

- 1) 事前学修
第10回：教科書第8課の後半を読んでおく。(15分)
- 2) 事後学修
第10回：その日に学んだ部分をノートに書いて音読し、小テストに備える。(20分)
- 3) 事前学修・事後学修の評価
第10回：次回講義の開始時に小テストを行う。

- 1) 事前学修
第11回：教科書第9課を読んでおく。(15分)
- 2) 事後学修
第11回：その日に学んだ部分をノートに書いて音読し、小テストに備える。(20分)
- 3) 事前学修・事後学修の評価
第11回：次回講義の開始時に小テストを行う。

- 1) 事前学修
第12回：教科書第10課の前半を読んでおく。(15分)
- 2) 事後学修
第12回：その日に学んだ部分をノートに書いて音読し、小テストに備える。(20分)
- 3) 事前学修・事後学修の評価
第12回：次回講義の開始時に小テストを行う。

- 1) 事前学修
第13回：教科書第10課の後半を読んでおく。(15分)
- 2) 事後学修
第13回：その日に学んだ部分をノートに書いて音読し、小テストに備える。(20分)
- 3) 事前学修・事後学修の評価
第13回：次回講義の開始時に小テストを行う。

- 1) 事前学修
第14回：教科書第1課～第5課を復習しておく。(15分)
- 2) 事後学修
第14回：その日に学んだ部分をノートに書いて音読し、小テストに備える。(20分)
- 3) 事前学修・事後学修の評価
第14回：次回講義の開始時に小テストを行う。

- 1) 事前学修
第15回：教科書第6課～第10課を復習しておく。(15分)
- 2) 事後学修
第15回：その日に学んだ部分をノートに書いて音読し、小テストに備える。(20分)
- 3) 事前学修・事後学修の評価
第15回：講義当日の終了時に小テストを行う。

7. 教科書

内山 政春	しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版	白水社
-------	-----------------	-----

8. 参考図書

油谷 幸利ほか	韓日辞典	小学館
---------	------	-----

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SB0s など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	10/5	木	2	第 1 課 基本母音字 第 2 課 子音字・その 1 (前半)	講義	14 階教室	富所
2	10/12	木	2	第 2 課 子音字・その 1 (後半)	講義	14 階教室	富所
3	10/19	木	2	第 3 課 子音字・その 2	講義	14 階教室	富所
4	10/26	木	2	第 4 課 子音字・その 3 (前半)	講義	14 階教室	富所
5	11/2	木	2	第 4 課 子音字・その 3 (後半)	講義	14 階教室	富所
6	11/9	木	2	第 5 課 用言の「ですます形」	講義	14 階教室	富所
7	11/16	木	2	第 6 課 7 つの終声	講義	14 階教室	富所
8	11/30	木	2	第 7 課 激音	講義	14 階教室	富所

9	12/7	木	2	第8課 合成母音字（前半）	講義	14 階 教室	富所
10	12/14	木	2	第8課 合成母音字（後半）	講義	14 階 教室	富所
11	12/21	木	2	第9課 濃音	講義	14 階 教室	富所
12	1/11	木	2	第10課 連音・指定詞（前半）	講義	14 階 教室	富所
13	1/18	木	2	第10課 連音・指定詞（後半）	講義	14 階 教室	富所
14	1/25	木	2	第1課～第5課の復習	講義	14 階 教室	富所
15	2/1	木	2	第6課～第10課の復習	講義	14 階 教室	富所

科目名：解剖・口腔解剖学

担当教員：※阿部 伸一 ※井出 吉信 ※廣内 英智

※(実務経験教員による授業科目)

1. 教科の特徴

歯科衛生士が対象とする顎・顔面・口腔および歯の形態と組織構造を学ぶことにより、歯科予防処置・歯科診療補助・歯科保健指導などの臨床において理論的な裏付けに基づき理解することを目的とする。(本授業はオムニバス方式により行い、主に廣内 英智が担当するが、頭蓋を構成する骨および、摂食・嚥下の解剖については実務経験に基づき阿部 伸一が担当する。)

ディプロマポリシー：1, 2, 3

ナンバリング 【B0401-1A】

2. 一般目標 (GIO : General Instructional Objective)

歯科衛生士の役割を的確に果たすために、顎・顔面・口腔・歯の形態および構造を理解することを目的とし、①顎・顔面の骨・筋・神経・脈管・口腔内臓および摂食嚥下の解剖 ②歯の形態 ③歯・歯周組織の構造について理解する。

3. 行動目標 (SBGs : Specific Behavioral Objectives)

- 1) 頭蓋を構成する骨について説明する。(10%)
- 2) 顎顔面を構成する骨の各部の名称について説明する。(10%)
- 3) 顎・顔面の筋(顔面筋・咀嚼筋・舌骨上筋)について説明する。(10%)
- 4) 顎・顔面に分布する脈管について説明する。(10%)
- 5) 顎・顔面に分布する神経について説明する。(10%)
- 6) これまで学んだ頭部の構造について統合的に説明する。
- 7) 口腔内臓について説明する。(10%)
- 8) 歯の基本的名称について説明する。(10%)
- 9) 永久歯の形態について説明する。(10%)
- 10) 乳歯の形態について説明する。(10%)
- 11) 口腔・咽頭の構造、摂食・嚥下のメカニズムについて説明する。(10%)
- 12) これまで学んだ解剖学的構造についてご遺体を用いて統合的に説明する。

4. 方略 (LS : Learning Strategy)

- 1) 受動的方法：
講義

2) 能動的方法：

ディスカッション

3) 媒体：

教科書、スライド

5. 評価 (EV : Evaluation)

1) 形成的評価：

ポストテスト

2) 総括的評価：

中間試験 (50%)、期末試験 (50%)

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

予習としてテキストを熟読のこと。

2) 事後学修

復習にはノートおよび、テキストの見直しを推奨

3) 事前学修・事後学修の評価

次回講義の開始時に、ディスカッションを行う。

7. 教科書

①一般社団法人 全国 歯科 衛生士教育協議会 監修 ②井出吉信 監修	①歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・ 口腔組織発生学・口腔生理学 第1版 ②口腔顎顔面解剖ノート 第2版	①医歯薬出版 株式会社 ②株式会社 学建書院
--	---	---------------------------------

8. 参考図書

阿部伸一 著	基本のきほん 摂食嚥下の機能解剖 第1版	医歯薬出版株 式会社
--------	-------------------------	---------------

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目（SB0s など）	方略（LS）	場所	担当者
1	4/10	月	2	歯の総論 歯の基本的名称 歯の交換	講義	14階教室	井出
2	4/17	月	2	骨（1） 頭蓋を構成する骨	講義	14階教室	廣内
3	4/24	月	2	骨（2） 頭蓋骨の各部の名称（上顎骨）	講義	14階教室	廣内
4	5/8	月	2	骨（2） 頭蓋骨の各部の名称（副鼻腔・下顎骨）	講義	14階教室	廣内
5	5/15	月	2	筋 顎顔面の筋（咀嚼筋）	講義	14階教室	廣内
6	5/22	月	2	筋 顎顔面の筋（舌骨上筋・顔面筋）	講義	14階教室	廣内
7	5/29	月	2	脈管 顎顔面に分布する脈管	講義	14階教室	廣内
8	6/5	月	2	神経 顎顔面に分布する神経 （脳神経12対と通る孔の名称）	講義	14階教室	廣内

9	6/12	月	2	中間試験	講義	14階教室	廣内
10	6/19	月	2	口腔内臓 口腔前庭・固有口腔 唾液腺・舌	講義	14階教室	廣内
11	6/26	月	2	永久歯の形態 前歯・臼歯の形態	講義	14階教室	山本（将）
12	7/3	月	2	乳歯の形態 乳歯総論	講義	14階教室	廣内
13	7/10	月	2	乳歯の形態 乳前歯・乳臼歯の形態	講義	14階教室	廣内
14	9/4	月	2	総復習 口腔内臓、永久歯・乳歯の形態および 血管神経の走行に関する総復習	講義	14階教室	廣内
15	9/11	月	2	摂食・嚥下の解剖 口腔・咽頭の構造 摂食・嚥下のメカニズム	講義	14階教室	阿部

科 目 名： 組織・口腔組織学
担当教員： ＊山本 仁

1. 教科の特徴

組織学・口腔組織学は、人体の構造と機能の単位である細胞、細胞と細胞間物質からなる諸組織、さらにそれらが組み合わさった人体諸器官について、肉眼では見極めることの出来ない微細な形態と構造を顕微鏡（光学顕微鏡、電子顕微鏡）を用いて明らかにする学問で、特に正常構造を対象とする。本教科は他の基礎科目だけではなく臨床科目とも関連し、歯科衛生士として歯科疾患の予防及び口腔衛生の向上を図り（ディプロマポリシー1）、かつ高齢社会の進展に伴い必要とされる歯科医療の変化を把握、対応するために必要な基礎的な知識の根幹となるものである（ディプロマポリシー2）。

ナンバリング 【B0402-1A】

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

人体の構造と機能、特に口腔領域の構造物の構造と機能を理解するために、4大組織および歯と歯周組織を含む口腔顎顔面領域の構造と発生に関する基本的な知識を修得する。

3. 行動目標（SBOs：Specific Behavioral Objectives）

- 1）4大組織を列挙することができる。（5%）
- 2）上皮組織を分類し、それぞれの特徴を説明できる。（10%）
- 3）支持組織を分類し、それぞれの特徴や構成する細胞などを説明できる。（10%）
- 4）筋組織を分類し、それぞれの特徴と神経細胞の構造を説明できる。（5%）
- 5）歯を構成する組織を列挙し、それぞれの特徴を説明できる。（35%）
- 6）唾液腺を分類し、それぞれの特徴を説明できる。（5%）
- 7）口腔粘膜を機能的に分類し、それぞれの特徴を説明できる。（5%）
- 8）顔面と口蓋の発生について説明できる。（15%）
- 9）歯と歯周組織の発生過程を説明できる。（10%）

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1）受動的方法：
講義
- 2）能動的方法：
プレテスト（事前・事後学修の確認を含む）
ディスカッション

- 3）媒体：
教科書、参考図書、スライド、プリントなど

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1）形成的評価：
各回の講義開始時にプレテストを行う。
- 2）総括的評価：
 - ①定期試験（90～100%）
定期試験では講義内容の理解度を空欄補充、真偽選択、多肢選択、論述などの記述試験で評価する。
 - ②平常点評価（0～10%）
日常的な授業中の態度、質問事項に対する回答状況や授業の出席状況などを評価する。

6. 事前学修・事後学修

7. 事前学習

- 第1回：教科書「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」
22～25 ページを読んでおくこと（10分）
- 第2回：教科書「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」
25、28、116～118 ページを読んでおくこと（10分）
- 第3回：教科書「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」
25～27 ページを読んでおくこと（10分）
- 第4回：教科書「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」
28～31 ページ と教科書「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学、口腔生理学」 218～225 ページを読んでおくこと（15分）
- 第5回：教科書「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学、口腔生理学」 225～239 ページを読んでおくこと（15分）
- 第6回：教科書「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学、口腔生理学」 240～249 ページを読んでおくこと（15分）
- 第7回：教科書「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学、口腔生理学」 136、250～251 ページを読んでおくこと（10分）
- 第8回：教科書「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学、口腔生理学」 2～6、208～217 ページを読んでおくこと（15分）

2）事後学修

- 第1回：講義内容（教科書、ノート、プリントなど）を見直し、重要なポイントを

- 整理する（15 分）
- 第 2 回：講義内容（教科書、ノート、プリントなど）を見直し、重要なポイントを整
理する（15 分）
- 第 3 回：講義内容（教科書、ノート、プリントなど）を見直し、重要なポイントを整
理する（15 分）
- 第 4 回：講義内容（教科書、ノート、プリントなど）を見直し、重要なポイントを整
理する（15 分）
- 第 5 回：講義内容（教科書、ノート、プリントなど）を見直し、重要なポイントを整
理する（15 分）
- 第 6 回：講義内容（教科書、ノート、プリントなど）を見直し、重要なポイントを整
理する（15 分）
- 第 7 回：講義内容（教科書、ノート、プリントなど）を見直し、重要なポイントを整
理する（15 分）
- 第 8 回：講義内容（教科書、ノート、プリントなど）を見直し、重要なポイントを整
理する（15 分）

3) 事前学修・事後学修の評価

- 第 1 回：プレテストで第 1 回の事前学修を評価する。
- 第 2 回：プレテストで第 2 回の事前学修と第 1 回の事後学修を評価する。
- 第 3 回：プレテストで第 3 回の事前学修と第 2 回の事後学修を評価する。
- 第 4 回：プレテストで第 4 回の事前学修と第 3 回の事後学修を評価する。
- 第 5 回：プレテストで第 5 回の事前学修と第 4 回の事後学修を評価する。
- 第 6 回：プレテストで第 6 回の事前学修と第 5 回の事後学修を評価する。
- 第 7 回：プレテストで第 7 回の事前学修と第 6 回の事後学修を評価する。
- 第 8 回：プレテストで第 8 回の事前学修と第 7 回の事後学修を評価する。

8. 教科書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 1 解剖学・組織発生学・生理学	医歯薬出版
全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生 理学	医歯薬出版

9. 参考図書

田畑 純	口腔の発生と組織（改訂第 4 版）	南山堂
------	-------------------	-----

10. オフィシアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時 本館 10 階組織・発生学講座で行う。

11. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または
終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅
延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目（SB0s など）	方略（LS）	場所	担当者
1	6/13	火	2	組織学総論、上皮組織 ・組織学の特徴を説明できる。 ・4大組織を列挙できる。 ・上皮組織を分類し、それぞれの特徴を説明できる。	講義 ・ディ スカッ ショ ン・ブ レテス ト	14階教室	山本 仁
2	6/20	火	2	支持組織1（結合組織、血液） ・支持組織の特徴を説明できる。 ・結合組織の細胞成分を列挙し、それぞれの特徴を説明できる。 ・結合組織の線維成分を列挙し、それぞれの特徴を説明できる。 ・血液の成分を説明できる。 ・血球の種類を列挙し、それぞれの特徴を説明できる。	講義 ・ディ スカッ ショ ン・ブ レテス ト	14階教室	山本 仁
3	6/27	火	2	支持組織2（軟骨組織、骨組織） ・軟骨の種類を列挙し、それぞれの特徴と分布について説明できる。 ・骨組織の構造を説明できる。 ・骨組織の細胞成分を列挙し、それぞれの特徴を説明できる。	講義 ・ディ スカッ ショ ン・ブ レテス ト	14階教室	山本 仁
4	7/4	火	2	筋組織 ・筋組織を分類し、その特徴を説明できる。 神経組織 ・神経細胞の構造を説明できる。 口腔組織学総論、エナメル質 ・口腔組織学の特徴を説明できる。 ・エナメル質の特徴を説明できる。 ・エナメル質に観察される構造を列挙し、その特徴を説明できる。	講義 ・ディ スカッ ショ ン・ブ レテス ト	14階教室	山本 仁

5	7/11	火	2	象牙質・歯髄複合体 ・象牙質の特徴を説明できる。 ・象牙質を分類し、その特徴を説明できる。 ・歯髄に存在する細胞を列挙し、それぞれの特徴を説明できる。 歯周組織1（セメント質） ・セメント質の特徴を説明できる。 ・セメント質に観察される構造を説明できる。	講義 ・ディ スカッ ショ ン・ブ レテス ト	14階教室	山本 仁
6	7/18	火	2	歯周組織2（歯肉、歯根膜、歯槽骨） ・歯肉の構造を説明できる。 ・歯根膜の構造と機能について説明できる。 ・歯槽骨を分類し、その特徴を説明できる。	講義 ・ディ スカッ ショ ン・ブ レテス ト	14階教室	山本 仁
7	9/5	火	2	唾液腺、口腔粘膜 ・大唾液腺を列挙し、それぞれの特徴を説明できる。 ・口腔粘膜の構造を説明できる。 ・口腔粘膜を機能的に分類して、それぞれの特徴を説明できる。	講義 ・ディ スカッ ショ ン・ブ レテス ト	14階教室	山本 仁
8	9/5	火	4	顔面の発生、口蓋の発生、歯と歯周組織の発生 ・顔面の発生の概要を説明できる。 ・口蓋の発生過程を説明できる。 ・歯と歯周組織の発生過程を説明できる。	講義 ・ディ スカッ ショ ン・ブ レテス ト	14階教室	山本 仁

科 目 名： 生理・口腔生理学

担当教員： ※安松 啓子

※(実務経験教員による授業科目)

1. 教科の特徴

生理学とは人体の機能とその仕組みを明らかにする学問で、主に物理的手法が用いられる。正常な機能を知ること、機能異常とバランスの破綻による疾患や、治療薬・治療法についての専門的知識の基礎となる。この知識は、本学のディプロマポリシー1の、歯科衛生士として歯科疾患の予防及び口腔衛生の向上に寄与し、ディプロマポリシー3の中で特に多職種と協働して歯科保健医療を提供するために不可欠である。

ナンバリング 【B0403-1A】

2. 一般目標 (GIO : General Instructional Objective)

臨床専門科目の学習効果を上げるために、人体内で行われている生命現象と、人体を構成する器官の構造とその機能を理解する。

3. 行動目標 (SB0s : Specific Behavioral Objectives)

- 1) 体を構成する細胞と組織の機能を説明できる。(5%)
- 2) 運動・感覚とそれらの統合について説明できる。(5%)
- 3) 自律機能(循環, 呼吸, 消化, 排泄, 分泌, 体温, 生殖など)を説明できる。(35%)
- 4) 生体の情報伝達(神経系、内分泌系)の機能を説明できる。(10%)
- 5) 顔面・口腔・咽頭の構造と機能を説明できる。(7%)
- 6) 咀嚼・嚥下時の諸器官の運動およびその調節機構を説明できる。(10%)
- 7) 口腔感覚・味覚・嗅覚の機能を説明できる。(10%)
- 8) 唾液分泌機序およびその機能を説明できる。(10%)
- 9) 発声・発音の原理および口腔諸器官の関連を説明できる。(5%)
- 10) 高齢化の影響について説明できる。(3%)

4. 方略 (LS : Learning Strategy)

1) 受動的方法 :

講義の実施

教科書の図に対する説明文のつながりの理解とノートの作成

2) 能動的方法 :

講義始めに疑問点を明確にするディスカッション

講義内容のポイントについてディスカッション

3) 媒体 :

教科書、スライド、ノート

5. 評価 (EV : Evaluation)

1) 形成的評価 : ポストテスト

2) 総括的評価 : 総括的評価 定期試験については、講義内容の理解度を、空欄補充、真偽選択、論述等の記述 試験で評価する。(100%)

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

第1回:教科書(解剖学・組織発生学・生理学) P1-10, 114 を読み、疑問点にアンダーラインを記すこと。(15分)

第2回:教科書(解剖学・組織発生学・生理学) P64-82(筋と運動), 204-212(神経系)を読み、疑問点にアンダーラインを記すこと。(15分)

第3回:教科書(解剖学・組織発生学・生理学) P84-108(消化・吸収)を読み、疑問点にアンダーラインを記すこと。(15分)

第4回:教科書(解剖学・組織発生学・生理学) P109-140(循環)を読み、疑問点にアンダーラインを記すこと。(15分)

第5回:教科書(解剖学・組織発生学・生理学) P179-203(神経系)を読み、疑問点にアンダーラインを記すこと。(15分)

第6回:教科書(解剖学・組織発生学・生理学) P213-233(呼吸)を読み、疑問点にアンダーラインを記すこと。(15分)

第7回:教科書(解剖学・組織発生学・生理学) P156-177(感覚)を読み、疑問点にアンダーラインを記すこと。(15分)

第8回:教科書(解剖学・組織発生学・生理学) P234-245(腎機能と排尿), 269-278(体温)を読み、疑問点にアンダーラインを記すこと。(15分)

第9回:教科書(解剖学・組織発生学・生理学) P246-258(内分泌), 259-268(生殖)を読み、疑問点にアンダーラインを記すこと。(15分)

第10回:教科書(口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学) P192-199(歯・口腔, 顔面の感覚), 200-212(味覚と嗅覚)を読み、疑問点にアンダーラインを記すこと。(15分)

第11回:教科書(口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学) P213-230(咬合と咀嚼・吸啜)を読み、疑問点にアンダーラインを記すこと。(15分)

第12回:教科書(口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学) P230-232(咬合と咀嚼・吸啜), 233-242(嚥下と嘔吐)を読み、疑問点にアンダーラインを記すこと。(15分)

第13回:教科書(口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学) P242-247(嚥下と嘔

吐), 248-259 (発声・発語) を読み、疑問点にアンダーラインを記すこと。(15 分)
 第 14 回: 教科書 (口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学) P260-269 (唾液) を読み、疑問点にアンダーラインを記すこと。(15 分)
 第 15 回: 14 回までの教科書やノートを読み、疑問点や覚えていない箇所を記して質問できるようにすること。(15 分)

2) 事後学修

第 1-15 回: 教科書とノートを再確認し、重要ポイントを整理する。(15 分)

3) 事前学修・事後学修の評価

事前学修: 講義始めのディスカッション

事後学修: 次回講義開始時のポストテスト

7. 教科書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ ①人体の構造と機能 1 解剖学・組織発生学・生理学 ②歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学	医歯薬出版
--------------------	---	-------

8. 参考図書

岩田幸一、井上富雄、船橋誠、加藤隆史 編著	基礎歯科生理学 第 7 版 http://life-science-edu.net/	医歯薬出版
「一步一步学ぶ生命科学」		生命科学教育 シェアリング グループ

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時(メールによる質問も可)

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SBOs など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	4/11	火	3	生理学とは 内部環境とホメオスタシス (恒常性) バイタルサイン	講義	14 階教室	安松
2	4/18	火	3	筋と運動 筋の構造・機能・収縮メカニズム 運動・筋電図	講義	14 階教室	安松
3	4/25	火	3	消化・吸収 唾液腺・唾液 胃、小腸、大腸の機能 消化液の役割・消化管運動	講義	14 階教室	安松
4	5/9	火	3	循環 血管の機能 血液凝固・血液型 循環の生理	講義	14 階教室	安松
5	5/16	火	3	神経系 神経の基本的機能 中枢神経系・末梢神経系 神経の伝導路	講義	14 階教室	安松
6	5/23	火	3	呼吸 換気の仕組み、肺気量と換気量 体内のガス交換、O ₂ と CO ₂ の運搬 呼吸の調節	講義	14 階教室	安松
7	5/30	火	3	感覚 感覚の性質と種類 感覚情報の伝達、感覚野、感覚器 特殊感覚	講義	14 階教室	安松
8	6/6	火	3	腎機能と排尿・体温 腎臓の働き、排尿の仕組み 体熱の産生と放散 体温調節・体温変動	講義	14 階教室	安松

9	6/13	火	3	内分泌 内分泌器官の機能 ホルモンの作用機序・分泌調節 生殖	講義	14 階 教室	安松
10	6/20	火	3	歯・口腔、顔面の感覚・味覚と嗅覚 感覚神経・口腔顔面痛 触圧覚・温度感覚 味覚と嗅覚	講義	14 階 教室	安松
11	6/27	火	3	咬合と咀嚼 下顎位・下顎運動 顎反射 咀嚼能力	講義	14 階 教室	安松
12	7/4	火	3	吸啜・嚥下 吸啜 嚥下時の筋・食塊・神経	講義	14 階 教室	安松
13	7/11	火	3	嘔吐・発声・発語 嘔吐の機序と神経 声の生成、構音のメカニズム 歯・口腔の病態と構音	講義	14 階 教室	安松
14	7/18	火	3	唾液 唾液の分泌機構 唾液の性状・成分と機能 唾液と疾患	講義	14 階 教室	安松
15	9/5	火	3	まとめと追加 高齢化への対応 全体の復習	講義	14 階 教室	安松

科 目 名： 病理・口腔病理学

担当教員： ※松坂賢一、※國分克寿、※中島 啓、※明石良彦

1. 教科の特徴

病理・口腔病理学は、疾患を正しく認識するために、その原因と病態を解明する学問である。前半の病理学では、病理学総論として臓器の違いを超えて共通にみられる疾患について、その原因、発病、経過、転帰という一連の変化を学ぶ。後半の口腔病理学では、口腔疾患を病理学総論に基づいて確認するとともに、口腔疾患特有の病態を理解する。本科目は、歯科衛生士として歯科疾患の予防及び口腔衛生の向上を図ることを通じて、個人の健康を増進させ、人々の健康づくりを支援できる能力をもつ人材となるための根幹となるものである。(ディプロマポリシー1)

ナンバリング 【B0404-1A】

2. 一般目標 (GIO : General Instructional Objective)

全身および口腔の疾患がどのような原因で発現し、どんな変化、経過をとっていくのか、そして最終的にはどのような転帰を取るのかについて、自分から積極的に考えていくための知識を習得する。

3. 行動目標 (SBOs : Specific Behavioral Objectives)

I 編 病理学総論

- 1) 病気の原因について、外因と内因から説明できる。(5%)
- 2) 遺伝性疾患や先天異常について説明できる。(5%)
- 3) 循環障害が関与する疾患について、血液・リンパ液・組織液の循環障害から病態を説明できる。(5%)
- 4) 代謝障害 (退行性病変) が関連する疾患について説明できる。(5%)
- 5) 増殖と修復が関連する疾患について説明できる。(5%)
- 6) 抜歯創の治癒機転とその異常について説明できる。(5%)
- 7) 炎症と免疫応答異常の概念、分類、病態および関連する疾患について説明できる。(7%)
- 8) 腫瘍の概念、分類、病態について説明できる。(7%)

II 編 口腔病理学

- 9) 歯の発育異常の種類、原因、好発部位、特徴について説明できる。(5%)
- 10) 歯の損傷の分類と原因について説明できる。(5%)
- 11) う蝕の発生機序、原因、分類、好発部位について説明できる。(5%)
- 12) 象牙質・歯髄複合体における疾患の特殊性を理解し、原因、分類、

病理所見について説明できる。(7%)

- 13) 歯周組織に生じる疾患の原因、分類、病理所見について説明できる。(7%)
- 14) 口腔粘膜疾患の種類と好発部位、臨床所見、病理像について説明できる。(7%)
- 15) 口腔領域の嚢胞と腫瘍の分類、臨床所見、成り立ち、病理所見について説明できる。(10%)
- 16) 唾液腺の病変について説明できる。(5%)
- 17) 顎骨の病変や口腔領域の奇形について説明できる。(5%)

4. 方略 (LS : Learning Strategy)

- 1) 受動的方法：
板書を中心とした講義
- 2) 能動的方法：
ディスカッション
プレテスト、ポストテスト
- 3) 媒体：
教科書、スライド、プリント

5. 評価 (EV : Evaluation)

- 1) 形成的評価：
各回の授業における重要ポイントを把握するため、学生自身が自己の理解度を把握するために行う。次回授業開始時にフィードバックを行う。
- 2) 総括的評価：
(1) 定期試験 (90~100%)
講義内容の理解度を、空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する。
(2) 平常点評価 (0~10%)
日常的な授業中の態度、質問事項に対する回答状況、授業の出欠状況等を評価する。

6. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修 (10~15 分)
各回の講義内容について教科書の該当部分を読んでおく。
第1回 (4/12) : I 編 病理学総論 1章 病理学序論と病因論
2章 遺伝性疾患と先天異常
第2回 (4/19) : I 編 病理学総論 3章 循環障害
第3回 (4/26) : I 編 病理学総論 4章 代謝障害と退行性病変
第4回 (5/10) : I 編 病理学総論 5章 増殖と修復

第5回(5/17)、第6回(5/24):I編 病理学総論 6章 炎症と免疫応答異常
第7回(5/31)、第8回(6/7):I編 病理学総論 7章 腫瘍

II編 口腔病理学 8章 口腔癌

第9回(6/14):II編 口腔病理学 6章 口腔粘膜の病変

第10回(6/21):II編 口腔病理学 11章 口腔領域の奇形(形成異常)

第11回(6/28):II編 口腔病理学 1章 歯の発育異常

2章 歯の損傷と着色・付着物

第12回(7/5):II編 口腔病理学 3章 う蝕

4章 象牙質・歯髄複合体の病態

第13回(7/12):II編 口腔病理学 5章 歯周組織の病態

第14回(7/19):II編 口腔病理学 7章 口腔領域の嚢胞と腫瘍

9章 顎骨の病変

第15回(9/6):II編 口腔病理学 10章 唾液腺の病変

2)事後学修(10~15分)

教科書、当日配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする。

3)事前学修・事後学修の評価

事前学修:講義当日の開始時にプレテストで確認する。

事後学修:次回講義の開始時に、事前学修のプレテストと共にポストテストを行う。

7. 教科書

一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 監修 前田健康・眞木吉信・松田裕子 編集	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 1 病理学・口腔病理学	医歯薬出版
--	---	-------

8. 参考図書

特に指定なし		
--------	--	--

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時/本館9階 病理学講座内

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目(SBOsなど)	方略(LS)	場所	担当者
1	4/12	水	1	I編 病理学総論 1章 病理学序論と病因論 内因、外因 2章 遺伝性疾患と先天異常 遺伝性疾患、先天異常、奇形	講義	14階教室	松坂明石
2	4/19	水	1	I編 病理学総論 3章 循環障害 虚血、充血とうっ血、出血、浮腫(水腫)、ショック、血栓症、塞栓症と梗塞、動脈硬化症	講義	14階教室	明石
3	4/26	水	1	I編 病理学総論 4章 代謝障害と退行性病変 変性と物質代謝障害、萎縮、細胞死	講義	14階教室	明石
4	5/10	水	1	I編 病理学総論 5章 増殖と修復 肥大と増生(過形成)、化生、再生と修復、創傷治癒、異物処理	講義	14階教室	明石
5	5/17	水	1	I編 病理学総論 6章 炎症と免疫応答1 総論(定義、経過、分類)、滲出性炎	講義	14階教室	明石
6	5/24	水	1	I編 病理学総論 6章 炎症と免疫応答2 特異性炎、免疫応答、免疫応答異常	講義	14階教室	明石
7	5/31	水	1	I編 病理学総論 7章 腫瘍1 総論(定義、発生機序と原因)、発生母組織と腫瘍の各型	講義	14階教室	明石

8	6/7	水	1	I 編 病理学総論 7 章 腫瘍2 悪性度による分類、前がん病変 II 編 口腔病理学 8 章 口腔癌 口腔潜在的悪性疾患、 口腔上皮性異形成と上皮内癌、 扁平上皮癌	講義	14 階 教室	明 石
9	6/14	水	1	II 編 口腔病理学 6 章 口腔粘膜の病変 白色病変、黒色病変、 水疱形成病変、潰瘍形成病変	講義	14 階 教室	明 石
10	6/21	水	1	II 編 口腔病理学 1 1 章 口腔領域の奇形（形成異常） 顔面と口腔の披裂、口腔の發育異常、 口腔顎顔面に異常を来す奇形症候群	講義	14 階 教室	明 石
11	6/28	水	1	II 編 口腔病理学 1 章 歯の發育異常 歯の大きさ・数・形・構造・ 萌出時期・位置の異常、咬合の異常 2 章 歯の損傷と着色・付着物 物理的損傷、化学的損傷、 歯の着色、ブランクと歯石	講義	14 階 教室	明 石
12	7/5	水	1	II 編 口腔病理学 3 章 う 蝕 う蝕の病因、分類、組織学的変化 4 章 象牙質・歯髄複合体の病態 歯髄炎、歯髄の退行性変化、 象牙質の増生、象牙質知覚過敏症	講義	14 階 教室	明 石
13	7/12	水	1	II 編 口腔病理学 5 章 歯周組織の病態 根尖部歯周組織の病変、 辺縁部歯周組織の病変、 エプーリス、 セメント質増生、セメント（質）粒	講義	14 階 教室	明 石

14	7/19	水	1	II 編 口腔病理学 7 章 口腔領域の嚢胞と腫瘍 口腔領域の嚢胞、 口腔領域の腫瘍 （歯源性腫瘍、非歯源性腫瘍） 9 章 顎骨の病変 顎骨骨髓炎、腫瘍様病変、 顎関節の疾患	講義	14 階 教室	明 石
15	9/6	水	1	II 編 口腔病理学 第 1 0 章 唾液腺の病変 流行性耳下腺炎、 シェーグレン症候群、唾石症、 粘液嚢胞、唾液腺腫瘍	講義	14 階 教室	明 石

科目名：微生物・口腔微生物学

担当教員： 石原 和幸

1. 教科の特徴

感染症の病原体は小さく目に見えない。しかしその感染を防御する必要がある。微生物学では、病原体の特徴・病原性を知りそれに対してどのように対処するのかについて習得する。(ディプロマポリシー 1)

ナンバリング 【B0405-1A】

2. 一般目標 (GIO : General Instructional Objective)

歯科衛生士は、臨床の現場でスケーリング、ルートプレーニング等の予防処置や診療介助で感染性のサンプルへの接触が多く、実践的な感染予防の知識が必要である。これを満たすために、一般病原微生物学と免疫学の基礎知識から感染成立とその予防についての知識を習得する。さらに、日常的に治療に携わる齲蝕や歯周病について、適切な予防処置を行うため、その原因となる齲蝕原性細菌および歯周病原性細菌とバイオフィルム形成に関する知識を習得する。

3. 行動目標 (SB0s : Specific Behavioral Objectives)

- 1) 細菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、真菌、原虫、ウイルスの特徴を説明する。(5%)
- 2) 微生物起こす疾患とその病原因子を説明する。(20%)
- 3) 生体の防御機構、細胞性免疫、体液性免疫、アレルギーについて説明する。(25%)
- 4) 消毒と滅菌の定義、および具体的な方法を説明する。(5%)
- 5) 化学療法薬の種類とその作用機序について説明する。(5%)
- 6) 齲蝕とその原因細菌について説明する。(15%)
- 7) 歯周病とその原因細菌について説明する。(15%)
- 8) デンタルプラークバイオフィルムの特性やそのコントロールの意義を説明する。(10%)

4. 方略 (LS : Learning Strategy)

- 1) 受動的方法：講義
- 2) 能動的方法：講義中のディスカッション
- 3) 媒体：教科書、スライド

5. 評価 (EV : Evaluation)

- 1) 形成的評価：
行わない
- 2) 総括的評価：
定期試験による総括的評価 (100%)

6. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修
第1回： 1-12 ページを読んでおく。(10 分)
- 2) 事後学修
第1回： 講義内容の重要ポイントを教科書からまとめる。(1 5 分)
- 3) 事前学修
第2回： 13-21 ページを読んでおく。(10 分)
- 4) 事後学修
第2回： 講義内容の重要ポイントを教科書からまとめる。(1 5 分)
- 5) 事前学修
第3回： 21-28 ページを読んでおく。(10 分)
- 6) 事後学修
第3回： 講義内容の重要ポイントを教科書からまとめる。(1 5 分)
- 7) 事前学修
第4回： 74-81 ページを読んでおく。(10 分)
- 8) 事後学修
第4回： 講義内容の重要ポイントを教科書からまとめる。(1 5 分)
- 9) 事前学修
第5回： 82-91 ページを読んでおく。(10 分)
- 1 0) 事後学修
第5回： 講義内容の重要ポイントを教科書からまとめる。(1 5 分)
- 1 1) 事前学修
第6回： 92-103 ページを読んでおく。(10 分)
- 1 2) 事後学修
第6回： 講義内容の重要ポイントを教科書からまとめる。(1 5 分)
- 1 3) 事前学修
第7回： 103-109 ページを読んでおく。(10 分)
- 1 4) 事後学修
第7回： 講義内容の重要ポイントを教科書からまとめる。(1 5 分)

1 5) 事前学修

第 8 回： 28-48 ページを読んでおく。(10 分)

1 6) 事後学修

第 8 回：講義内容の重要ポイントを教科書からまとめる。(1 5 分)

1 7) 事前学修

第 9 回： 48-73 ページを読んでおく。(10 分)

1 8) 事後学修

第 9 回：講義内容の重要ポイントを教科書からまとめる。(1 5 分)

1 9) 事前学修

第 1 0 回： 145-177 ページを読んでおく。(10 分)

2 0) 事後学修

第 1 0 回：講義内容の重要ポイントを教科書からまとめる。(1 5 分)

2 1) 事前学修

第 1 1 回： 110-122 ページを読んでおく。(10 分)

2 2) 事後学修

第 1 1 回：講義内容の重要ポイントを教科書からまとめる。(1 5 分)

2 3) 事前学修

第 1 2 回： 123-130 ページを読んでおく。(10 分)

2 4) 事後学修

第 1 2 回：講義内容の重要ポイントを教科書からまとめる。(1 5 分)

2 5) 事前学修

第 1 3 回： 130-137 ページを読んでおく。(10 分)

2 6) 事後学修

第 1 3 回：講義内容の重要ポイントを教科書からまとめる。(1 5 分)

2 7) 事前学修

第 1 4 回： 137-143 ページを読んでおく。(10 分)。

3 8) 事後学修

第 1 4 回：講義内容の重要ポイントを教科書からまとめる。(1 5 分)

3 9) 事前学修

第 1 5 回： 講義全体から内容を把握できてない領域について確認する。(10 分)

4 0) 事後学修

第 1 5 回：講義内容の重要ポイントを教科書からまとめる。(1 5 分)

3) 事前学修・事後学修の評価

事前学修： 講義当日の開始時にディスカッションで確認する。

事後学修： 次回講義の開始時に、ディスカッションで確認する。

7. 教科書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 2 微生物学	医歯薬出版
--------------------	---	-------

8. 参考図書

石原和幸 他編	口腔微生物学 第 5 版	学建書院
---------	--------------	------

9. オフィスアワー

毎週月曜の授業終了から 18 時まで

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目（SB0s など）	方略（LS）	場所	担当者
1	4/13	木	2	微生物学総論 ・微生物の分類と一般性状について学習する。 ・感染の成り立ちについて学習する。	講義	14階教室	石原
2	4/20	木	2	微生物の構造と病原性(1) ・微生物の形態と構造、病原性について学習する。	講義	14階教室	石原
3	4/27	木	2	微生物の構造と病原性(2) ・細菌の分類、代謝・増殖について学習する。 ・細菌培養・顕微鏡観察について学習する。	講義	14階教室	石原
4	5/11	木	2	免疫(1) ・生体の防御機構の概略を学習する。 ・免疫担当細胞、抗原、抗体、補体について学習する。	講義	14階教室	石原
5	5/18	木	2	免疫(2) ・体液性免疫について学習する。 ・抗体の種類と産生機構を学習する。 ・抗原抗体反応を利用した感染症の診断について学習する。	講義	14階教室	石原
6	5/25	木	2	免疫(3) ・細胞性免疫について学習する。	講義	14階教室	石原
7	6/1	木	2	アレルギー ・アレルギーの分類と成立機序について学習する。	講義	14階教室	石原
8	6/8	木	2	感染症(1) ・細菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアによる感染症について学習する。	講義	14階教室	石原

9	6/15	木	2	感染症(2) ・真菌、原虫、ウイルスによる感染症について学習する。	講義	14階教室	石原
10	6/22	木	2	消毒と滅菌 ・スタンダードプレコーションについて学習する。 ・消毒と滅菌の定義、方法を学習する。 化学療法 ・化学療法薬の種類と作用機序、副作用について学習する。 ・耐性菌について学習する。	講義	14階教室	石原
11	6/29	木	2	口腔微生物学概論 ・口腔感染症の特性について学習する。 ・口腔微生物叢の成立と生態について学習する。	講義	14階教室	石原
12	7/6	木	2	齦蝕の細菌学・免疫学 ・齦蝕症の細菌学について学習する。 ・口腔レンサ球菌について学習する。	講義	14階教室	石原
13	7/13	木	2	歯周病の細菌学・免疫学 ・歯周病原細菌について学習する。 ・歯周病原細菌の諸因子・宿主の抵抗性について学習する。 ・歯周組織破壊の機序・歯周病のリスクファクターについて学習する。	講義	14階教室	石原
14	7/20	木	2	口腔感染症 ・口腔内ウイルス感染症について学習する。 ・口腔領域を中心とした宿主の抵抗性について学習する。 ・口腔ケアの意義について学習する。	講義	14階教室	石原
15	9/7	木	2	全体のまとめ	講義	14階教室	石原

科 目 名： 公衆衛生学

担当教員： ※杉原直樹

※(実務経験教員による授業科目)

1. 教科の特徴

公衆衛生学は、医学・歯科医学を統合的に理解して全人的な歯科医療を提供するために必要な基本的な知識の根幹となり、歯科衛生士として公衆衛生活動および福祉活動を実践するために必須である。(ディプロマポリシー 1, 3, 4)

2. 一般目標 (GIO : General Instructional Objective)

健康と環境についての関係や地球規模の環境保全、感染症や食中毒の予防や栄養学の重要性を理解する。人間の健康の科学である衛生学の知識を身につけ、歯科衛生士として歯科医療の現場や公衆衛生活動の中で、たえず思考し、広い視野と社会的洞察力で展開できる能力を修得する。

ナンバリング 【B0406-1A】

3. 行動目標 (SB0s : Specific Behavioral Objectives)

- 1) 健康および予防医学の概念について説明できる。(20%)
- 2) 疫学の定義および目的について理解し、研究方法について説明する。(10%)
- 3) 人口について人口動態、人口動態および生命表を説明する。(10%)
- 4) 健康と環境についての関係および地球規模の環境保全を理解する。(20%)
- 5) 感染症の3要因を理解し、その予防について説明する。(10%)
- 6) 食中毒の疫学、分類および予防について説明する。(10%)
- 7) 歯科保健医療分野における栄養学の重要性を理解する。(20%)

4. 方略 (LS : Learning Strategy)

- 1) 受動的方法：講義
- 2) 能動的方法：プレテスト・ポストテスト、ディスカッション
- 3) 媒体：教科書、参考図書、プリント、コンピュータ画像

5. 評価 (EV : Evaluation)

- 1) 形成的評価：
プレテスト・ポストテストを行う。
- 2) 総括的評価：
定期試験については、講義内容の理解度を空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験

で評価する。(90%)

課題の提出状況、授業の出欠状況、日常的な授業の取組状況などを評価する。(10%)

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

- 第1回:教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと(15分)
- 第2回:教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと(15分)
- 第3回:教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと(15分)
- 第4回:教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと(15分)
- 第5回:教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと(15分)
- 第6回:教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと(15分)
- 第7回:教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと(15分)
- 第8回:教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと(15分)

2) 事後学修

- 第1回:授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する(15分)
- 第2回:授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する(15分)
- 第3回:授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する(15分)
- 第4回:授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する(15分)
- 第5回:授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する(15分)
- 第6回:授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する(15分)
- 第7回:授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する(15分)
- 第8回:授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する(15分)

3) 事前学修・事後学修の評価

事前学修:講義当日の開始時にプレテストで確認する。

事後学修:次回講義の開始時に、事前学修のプレテストと共にポストテストを行う。

7. 教科書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と 社会の仕組み 1 保健生態学	医歯薬出版
松久保 隆、八重垣 健、前 野正夫、那須郁夫、小松崎 明、杉原直樹 監修・執筆	口腔衛生学 2022	一世出版

8. 参考図書

一般財団法人 厚生労働統計協会	国民衛生の動向・厚生 の指標 2022/2023	厚生労働統計 協会
--------------------	--------------------------------	--------------

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時／本館 10 階衛生学講座

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時 限	内容項目 (SB0s など)	方略 (LS)	場 所	担当者
1	4/11	火	2	(1) 公衆衛生総論 公衆衛生学とは 健康の概念 疾病の自然史と疾病予防 健康政策の概念	講義	14 階 教 室	杉原
2	4/18	火	2	(2) 疫学 定義および概念 疾病や異常の発生要因 有病と罹患 (発病) 疫学の調査方法 疫学研究の時間的流れによる分類 疫学の研究方法 疫学で用いられる用語	講義	14 階 教 室	杉原
3	4/25	火	2	(3) 人口統計 人口静態 人口動態 生命表	講義	14 階 教 室	杉原
4	5/9	火	2	(4) - 1 健康と環境 I 環境の概念 空気・水と健康 放射線と健康 住居・衣服と健康	講義	14 階 教 室	杉原
5	5/16	火	2	(4) - 2 健康と環境 II 地球環境の変化と健康への影響 公害と健康への影響 廃棄物処理	講義	14 階 教 室	杉原
6	5/23	火	2	(5) 感染症 感染症の成り立ち 感染症の予防 主な感染症の動向 感染症の医療体制	講義	14 階 教 室	杉原
7	5/30	火	2	(6) - 1 食品と健康 I 食中毒とは 食中毒の分類	講義	14 階 教	杉原

				食中毒の統計（食中毒の疫学） 食中毒の予防 食中毒の安全性確保		室	
8	6/6	火	2	(6) - 2 食品と健康Ⅱ 日本人の食事摂取量 食事摂取基準の基準値と現状 食生活指針と食事バランスガイド 「食育」の推進	講義	14 階 教室	杉原

科目名：口腔衛生学

担当教員：※杉原 直樹

※(実務経験教員による授業科目)

1. 教科の特徴

口腔衛生学は、医学・歯科医学を統合的に理解して全人的な歯科医療を提供するために必要な基本的な知識の根幹となるものであり、歯科疾患予防のためのセルフケア、パブリックケア、プロフェッショナルケアを実践するために必須である。(ディプロマポリシー 1、2、3)

2. 一般目標 (GIO : General Instructional Objective)

歯科疾患を予防するために、個人における口腔の健康と機能の維持増進のための全身的要因、生活習慣、社会経済的要因および環境要因のリスク評価について理解し、リスク評価およびライフステージに基づいた保健指導および予防処置を修得する。

ナンバリング 【B0407-1A】

3. 行動目標 (SBOs : Specific Behavioral Objectives)

- 1) 口腔衛生学および口腔ケアを概説する。(10%)
- 2) 歯・口腔の健康について概説する。(10%)
- 3) 齲蝕の疫学と根拠に基づいた予防法について概説する。(10%)
- 4) 齲蝕の発病要因を説明する。(10%)
- 5) 齲蝕の発病要因の評価方法(齲蝕活動性試験)を説明する。(10%)
- 6) 齲蝕の保健指導と予防処置を説明する。(10%)
- 7) 歯周疾患の保健指導と予防処置を説明する。(10%)
- 8) 口腔清掃の方法を説明する。(10%)
- 9) その他の歯科疾患の予防方法を説明する。(10%)
- 10) ライフステージにおける口腔保健管理について理解する。(10%)

4. 方略 (LS : Learning Strategy)

- 1) 受動的方法：講義
- 2) 能動的方法：プレテスト・ポストテスト、ディスカッション
- 3) 媒体：教科書、参考図書、プリント、コンピュータ画像

5. 評価 (EV : Evaluation)

- 1) 形成的評価：
プレテスト・ポストテストを行う。
- 2) 総括的評価：
定期試験については、講義内容の理解度を空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する。(90%)
課題の提出状況、授業の出欠状況、日常的な授業の取組状況などを評価する。(10%)

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

- 第1回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと (15 分)
- 第2回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと (15 分)
- 第3回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと (15 分)

- 第4回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと (15 分)
- 第5回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと (15 分)
- 第6回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと (15 分)
- 第7回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと (15 分)
- 第8回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと (15 分)
- 第9回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと (15 分)
- 第10回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと (15 分)
- 第11回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと (15 分)
- 第12回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと (15 分)
- 第13回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと (15 分)
- 第14回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと (15 分)
- 第15回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと (15 分)

2) 事後学修

- 第1回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する (15 分)
- 第2回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する (15 分)
- 第3回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する (15 分)
- 第4回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する (15 分)
- 第5回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する (15 分)
- 第6回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する (15 分)
- 第7回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する (15 分)
- 第8回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する (15 分)
- 第9回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する (15 分)
- 第10回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する (15 分)
- 第11回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する (15 分)
- 第12回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する (15 分)
- 第13回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する (15 分) 第1回：
- 第14回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する (15 分)
- 第15回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する (15 分)

3) 事前学修・事後学修の評価

事前学修：講義当日の開始時にプレテストで確認する。
事後学修：次回講義の開始時に、事前学修のプレテストと共にポストテストを行う。

7. 教科書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間 と社会の仕組み 1 保健生態学	医歯薬出版
松久保 隆、八重垣 健、 前野正夫、那須郁夫、小松 崎 明、杉原直樹 監修・執筆	口腔衛生学 2022	一世出版

8. 参考図書

一般財団法人 厚生労働統計協会	国民衛生の動向・厚生 の指標 2022/2023	厚生労働統計 協会
--------------------	--------------------------------	--------------

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時／本館 10 階衛生学講座

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SBOs など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	4/11	火	1	(1) - 1 口腔衛生学 総論 講義の概要について 口腔衛生学の定義 口腔ケアの概念と分類	講義	14 階教室	杉原
2	4/18	火	1	(1) - 2 口腔衛生学 総論 疾病の自然史と疾病予防 ハイリスクストラテジーとポピュレーションストラテジー 健康日本 21(第 2 次)と歯・口腔の健康 歯科口腔保健の推進に関する法律	講義	14 階教室	杉原
3	4/25	火	1	(2)歯・口腔の健康についての基本的知識 歯・口腔の健康 (歯・口腔の構造、歯・口腔の発生と成長・発育、歯・口腔の機能) 口腔の健康と全身の健康 歯・口腔の付着物・沈着物	講義	14 階教室	杉原
4	5/9	火	1	(3)口腔清掃法と口腔清掃指導 口腔清掃と口腔清掃法の分類 人工的清掃法 口腔清掃による為害作用 歯磨剤と洗口剤	講義	14 階教室	杉原
5	5/16	火	1	(4)歯科疾患の疫学 歯科疾患に対する疫学的アプローチの意義 齲蝕の疫学 歯周疾患の疫学 その他の疾患の疫学	講義	14 階教室	杉原
6	5/23	火	1	(5)齲蝕の病因論 齲蝕発生のメカニズム 齲蝕の発生要因 齲蝕の第一次予防、第二次予防、第三次予防	講義	14 階教室	杉原
7	5/30	火	1	(6)齲蝕発病因子の評価法 齲蝕活動性とは 齲蝕活動性試験の目的 齲蝕活動性試験の具備すべき条件 齲蝕活動性試験の臨床における使用目的 齲蝕活動性試験の分類と種類	講義	14 階教室	杉原
8	6/6	火	1	(7) - 1 齲蝕予防 ・非齲蝕誘発性甘味料と間食指導・ 齲蝕発病と食事要因との関係 糖質の種類と齲蝕発病性 Stephan's curve (ステファン・カーブ) 非齲蝕誘発性甘味料の種類と特徴	講義	14 階教室	杉原

9	6/13	火	1	(7) - 2 齲蝕予防 ・小窩裂溝填塞法(齲蝕予防填塞法)・ 小窩裂溝填塞法(齲蝕予防填塞法)とは 填塞材の種類と特徴 填塞術式 酸処理	講義	14 階 教室	杉原
10	6/20	火	1	(7) - 3 齲蝕予防 ・フッ化物による齲蝕予防法Ⅰ・ フッ化物の基本知識 フッ化物の計算問題 1 フッ化物摂取量とその基準 フッ素の代謝 オーラル・ケアの分類とフッ化物応用	講義	14 階 教室	杉原
11	6/27	火	1	(7) - 4 齲蝕予防 ・フッ化物による齲蝕予防法Ⅱ・ フッ化物応用における齲蝕予防方法 フッ化物の局所応用 フッ化物の全身応用 フッ化物の計算問題 2	講義	14 階 教室	杉原
12	7/4	火	1	(7) - 5 齲蝕予防 ・フッ化物による齲蝕予防法Ⅲ・ フッ化物による齲蝕予防メカニズム フッ化物の毒性 フッ化物の計算問題 3 ライフステージに応じたフッ化物応用	講義	14 階 教室	杉原
13	7/11	火	1	(8)歯周疾患の予防 歯周疾患の症状と分類 歯周疾患の発症機序 歯周疾患の全身に与える影響 歯周疾患の予防手段と処置	講義	14 階 教室	杉原
14	7/18	火	1	(9)その他の歯科疾患の予防 歯の酸蝕症の予防 口内炎の予防 口腔癌の予防 不正咬合の予防 顎関節症の予防 歯の形成不全の予防 口臭症の予防 口腔乾燥症の予防	講義	14 階 教室	杉原
15	9/5	火	1	(10)ライフステージごとの口腔保健管理 口腔保健管理の目標 母子口腔保健 小児の口腔保健 成人期・老年期の口腔保健 まとめ	講義	14 階 教室	杉原

科目名： 生化学

担当教員： 荒井 昭雄

1. 教科の特徴

本学ディプロマシー 1 にある個人の健康を増進させ、人々の健康づくりを支援するのに必要な人体と栄養の理解を可能にする。

ナンバリング 【B0408-1A】

2. 一般目標 (GIO : General Instructional Objective)

人の健康と食事との関係を理解するために、まず人の体を構成する物質の分子構造や化学反応の基礎、次にそれらの代謝過程と調節機構、恒常性、遺伝子発現、細胞内情報伝達まで生命現象を理解する。さらに口腔に特徴的な歯、歯周組織、唾液、プラークの構成成分やそこに生じるう蝕と歯周病を生化学側面から学ぶ。最後に 3 大栄養素とビタミン、ミネラル、水の働きを学ぶことで、健康と食生活の関係を物質、化学反応、エネルギーのレベルで体系的に習得する。

3. 行動目標 (SB0s : Specific Behavioral Objectives)

- 1) 物質、溶液、酸・アルカリ、酸化・還元について説明できる。(20%)
- 2) 生体内の化学反応や酵素作用、緩衝作用について説明できる。(5%)
- 3) 糖質、脂質、タンパク質、遺伝子の代謝や機能について説明できる。(30%)
- 4) 結合組織の特徴と代謝を説明できる。(10%)
- 5) 歯の構造と組成、カルシウム代謝について説明できる。(10%)
- 6) 歯の脱灰・再石灰化について説明できる。(5%)
- 7) 唾液の組成と機能について説明できる。(5%)
- 8) プラークの形成と菌体外多糖について説明できる。(5%)
- 9) 糖質、脂質、タンパク質、ビタミンなどの栄養的意味を説明できる。(10%)

4. 方略 (LS : Learning Strategy)

- 1) 受動的方法 :
講義
- 2) 能動的方法 :
ディスカッション、ポストテスト
- 3) 媒体 :
教科書、パワーポイント、プリント

5. 評価 (EV : Evaluation)

1) 形成的評価 :

各回の講義開始時にポストテストを行う。

2) 総括的評価 :

定期試験については、講義内容の理解度を、空欄補充、真偽選択、図を書かせる試験で評価する。ポストテストの内容は試験範囲に入る。

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

- 第 1 回 : 事前配布プリントを読んでおくこと。(20 分)
- 第 2 回 : 事前配布プリントを読んでおくこと。(20 分)
- 第 3 回 : 事前配布プリントを読んでおくこと。(20 分)
- 第 4 回 : 事前配布プリントを読んでおくこと。(20 分)
- 第 5 回 : 教科書 12~16, 23~24, 26, 28 ページを読んでおく。(30 分)
- 第 6 回 : 教科書 27, 29~35, 44, 45 ページを読んでおく。(30 分)
- 第 7 回 : 教科書 16~18, 36, 37, 153, 154 ページを読んでおく。(30 分)
- 第 8 回 : 教科書 18~22, 38~40, 145, 146 ページを読んでおく。(30 分)
- 第 9 回 : 教科書 41, 42 ページ、事前配布プリントを読んでおく。(30 分)
- 第 10 回 : 教科書 50~57 ページを読んでおく。(30 分)
- 第 11 回 : 教科書 57~70 ページを読んでおく。(40 分)
- 第 12 回 : 教科書 70~79 ページを読んでおく。(30 分)
- 第 13 回 : 教科書 81~96, 102, 103 ページを読んでおく。(40 分)
- 第 14 回 : 教科書 140~152 ページを読んでおく。(30 分)
- 第 15 回 : 教科書 153~175 ページを読んでおく。(40 分)

2) 事後学修

- 第 1 回 : 元素記号、イオン式、分子式、構造式をリストアップする。(30 分)
- 第 2 回 : 指数・単位に留意して、物質質量や濃度計算と化学反応式を作る練習をする。(40 分)
- 第 3 回 : 酸と塩基の電離式を作り、水素イオン濃度から pH を求める。中和反応の化学式をリストアップする。(30 分)
- 第 4 回 : 酸化還元反応の定義を確認、酸化剤と還元剤、官能基をリストアップする。(30 分)
- 第 5 回 : グルコース、スクロース、アミロースなどの構造を書き出し、消化酵素と基質・生成物をリストアップする。(40 分)

第6回：解糖、クエン酸回路、電子伝達系の代謝経路や ATP の構造を図式化する。
血糖調節に関与するホルモンをリストアップする。(40 分)

第7回：単純脂肪と生体膜の構造、飽和・不飽和脂肪酸をリストアップする。(30 分)

第8回：アミノ酸の構造とペプチド結合、タンパク質の構造を図式化する。(30 分)

第9回：転写・翻訳の仕組みを理解して DNA を鋳型として mRNA を作る。(40 分)

第10回：コラーゲン分子種をリストアップする。コラーゲンの原線維から α 鎖までの構造を確認する。(40 分)

第11回：ヒドロキシアパタイトの組成と石灰化の仕組みを理解する。(30 分)

第12回：骨芽細胞と破骨細胞、血清カルシウム調節ホルモンの役割をリストアップする。(30 分)

第13回：唾液の組成と機能、グルカンとフルクタンの生成反応、人工甘味料をリストアップする。(40 分)

第14回：糖質・タンパク質の種類と栄養的意味をリストアップする。(40 分)

第15回：脂質・ビタミン・ミネラルの種類、脂質・ビタミン・ミネラル・水・食物繊維の栄養的意味をリストアップする。(40 分)

3) 事前学修・事後学修の評価

事前学修：講義時間にディスカッションで理解度を確認する。

事後学修：次回講義の開始時に前回の講義内容のポストテストを行う。

7. 教科書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 栄養と代謝	医歯薬出版
--------------------	------------------------------	-------

8. 参考図書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 化学	医歯薬出版
	高校での 化学基礎、生物基礎、生物の教科書	

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SBOs など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	4/12	水	2	化学基礎 (I) 物質の構成 (混合物と純物質、元素と原子、原子構造、価電子、イオン) 化学結合 (イオン結合、共有結合、配位結合)、極性	講義	14 階教室	荒井
2	4/19	水	2	化学基礎 (II) アボガドロ定数・物質質量 (原子量、分子量、モル)、溶液の濃度 (質量%濃度とモル濃度)、化学反応式の係数とモル比、浸透圧	講義	14 階教室	荒井
3	4/26	水	2	化学基礎 (III) 電離 (電解質と非電解質)、酸と塩基、水の電離と水素イオン濃度、中和反応と塩、体液の緩衝作用と重炭酸イオン	講義	14 階教室	荒井
4	5/10	水	2	化学基礎 (IV) 酸化と還元 (定義 (酸素、水素、電子の享受)、還元剤と脱水素酵素、官能基 (水酸基、アルデヒド基、アミノ基、カルボキシ基))	講義	14 階教室	荒井
5	5/17	水	2	糖質の代謝 (I) 生体構成成分、糖質の構造・消化吸収 (単糖類、二糖類、多糖類、消化酵素とその基質・生成物、酵素の基質特異性)	講義	14 階教室	荒井
6	5/24	水	2	糖質の代謝 (II) 糖質の分解と代謝、ATP、血糖値 (エネルギー代謝の全体像、解糖、クエン酸回路、電子伝達系、ホメオスタシス)	講義	14 階教室	荒井
7	5/31	水	2	脂質の代謝 脂質の構造、消化吸収、脂質の分解・代謝 (中性脂肪、リン脂質、ステロール、脂肪酸の酸化、飽和脂肪酸、必須脂肪酸)	講義	14 階教室	荒井
8	6/7	水	2	タンパク質の代謝 タンパク質の構造・消化吸収、タンパク質の分解・代謝 (アミノ酸の基本構造、ペプチド結合、脱アミノ反応、脱炭酸反応)	講義	14 階教室	荒井

9	6/14	水	2	タンパク質の合成 核酸・遺伝子 (DNA・RNA の基本構造、複製)、 タンパク質合成 (転写・翻訳)、二重らせん 構造、コドン表、ペプチド鎖、PCR の原理	講義	14 階 教 室	荒井
10	6/21	水	2	歯・口腔生化学 (Ⅰ) 結合組織、線維状タンパク質、コラーゲン 分子と線維の構造、エラスチン、プロテオ グリカン、コラーゲンの合成	講義	14 階 教 室	荒井
11	6/28	水	2	歯・口腔生化学 (Ⅱ) 歯の構造と組成 (ヒドロキシアパタイト、 単位胞)、石灰化の仕組み (基質小胞による コラーゲン性石灰化)、リモデリング	講義	14 階 教 室	荒井
12	7/5	水	2	歯・口腔生化学 (Ⅲ) 骨の生成と吸収 (骨芽細胞と破骨細胞、血 清カルシウム調節ホルモン) 歯の脱灰と再石灰化	講義	14 階 教 室	荒井
13	7/12	水	2	歯・口腔生化学 (Ⅳ) 唾液の組成と機能 (無機質と有機質) プラークの形成、菌体外多糖 (グルカンと フルクタンの生成反応)、代用甘味料	講義	14 階 教 室	荒井
14	7/19	水	2	栄養素の働き (Ⅰ) 糖質・タンパク質の栄養的意味 (種類、働き、必要量と給源、必須アミノ 酸、アミノ酸プール)	講義	14 階 教 室	荒井
15	9/6	水	2	栄養素の働き (Ⅱ) 脂質・ビタミン・ミネラル・水・食物繊維 の栄養的意味 (飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸、 欠乏と過剰、水の働きと代謝)	講義	14 階 教 室	荒井

科目名：薬理・歯科薬理学

担当教員：※笠原 正貴、※高橋 有希、※石束 徹、※伊藤 慎一郎
※(実務経験教員による授業科目)

1. 教科の特徴

歯科衛生士として歯科疾患の予防及び口腔衛生の向上を図ることを通じて、個人の健康を増進させ、人々の健康づくりを支援できる能力をもつ人材を育成する。

ナンバリング 【B0409-1B】

2. 一般目標 (GIO : General Instructional Objective)

歯科医師の行う薬物療法について、その指示に適切に対応でき、かつ、適切な薬物の取り扱いを行えるように、薬物および生体の反応について基本的な知識を習得する。

3. 行動目標 (SBOs : Specific Behavioral Objectives)

- 1) 薬物の作用形式を説明できる。(8%)
- 2) 生体内での薬物の動態を説明できる。(8%)
- 3) 薬物の併用によって生ずる現象を説明できる。(8%)
- 4) 薬物の連用によって生ずる現象を説明できる。(8%)
- 5) 薬物の管理の方法を説明できる。(8%)
- 6) 中枢神経系に作用する薬物を説明できる。(8%)
- 7) 自律神経系に作用する薬物を説明できる。(8%)
- 8) 局所麻酔薬の種類と特徴を説明できる。(8%)
- 9) 鎮痛薬の種類と作用を説明できる。(8%)
- 10) 抗炎症薬の種類と使用目的を説明できる。(8%)
- 11) 抗菌薬の種類と使用目的を説明できる。(8%)
- 12) 歯科専用薬物について説明できる。(8%)
- 13) 主要疾患に用いられる代表的な治療薬を説明できる。(4%)

4. 方略 (LS : Learning Strategy)

- 1) 受動的方法：
講義
- 2) 能動的方法：
ディスカッション
- 3) 媒体：
教科書、スライド、プリント

5. 評価 (EV : Evaluation)

- 1) 形成的評価：
ポストテスト
- 2) 総括的評価：
筆記試験 (100%)

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

- 第1回：教科書 18～27 ページを読んでおく。(15 分)
第2回：教科書 28～37 ページを読んでおく。(15 分)
第3回：教科書 44～52 ページを読んでおく。(15 分)
第4回：教科書 4～17 ページを読んでおく。(10 分)
第5回：教科書 64～70 ページを読んでおく。(10 分)
第6回：教科書 71～75 ページを読んでおく。(10 分)
第7回：教科書 54～63 ページを読んでおく。(10 分)
第8回：教科書 98～103 ページを読んでおく。(10 分)
第9回：教科書 110～113 ページを読んでおく。(10 分)
第10回：教科書 114～121 ページを読んでおく。(10 分)
第11回：教科書 104～109 ページを読んでおく。(10 分)
第12回：教科書 130～138 ページを読んでおく。(10 分)
第13回：教科書 138～138 ページを読んでおく。(10 分)
第14回：教科書 76～83 ページを読んでおく。(10 分)
第15回：配布資料を読んでおく。(60 分)

2) 事後学修

- 第1～15回：教科書、当日配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする(15 分)

3) 事前学修・事後学修の評価

- 事前学修：講義当日の開始時にブレテストで確認する。
事後学修：次回講義の開始時に、事前学修のブレテストと共にポストテストを行う。

7. 教科書

大浦清、戸苅彰史 編著	歯科衛生士テキスト 最新薬理学	学建書院
-------------	-----------------	------

講義資料として、プリント (カラー印刷) 配布も行う。

8. 参考図書

医療情報科学研究所 編	薬がみえる vol.1	メディックメディア
医療情報科学研究所 編	薬がみえる vol.2	メディックメディア
医療情報科学研究所 編	薬がみえる vol.3	メディックメディア

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時（事前アポイントが望ましい） / 新館 6 回薬理学講座

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類（遅延証明書等）を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目（SB0sなど）	方略（LS）	場所	担当者
1	10/6	金	3	総論（1） ・薬理作用の考え方 ・薬物の作用形式（受容体、トランスポーター、酵素など） ・薬理作用に影響する因子	講義	14 階教室	笠原
2	10/13	金	3	総論（2） ・薬物動態（吸収・分布・代謝・排泄）	講義	14 階教室	笠原
3	10/20	金	3	総論（3） ・薬物連用 ・薬物併用（協力作用・拮抗作用） ・副作用（有害作用）	講義	14 階教室	笠原
4	10/25	水	3	総論（4） ・医薬品管理（毒薬・劇薬・麻薬・覚せい剤） ・剤形	講義	14 階教室	笠原
5	10/27	金	3	中枢神経系に作用する薬物（1） ・中枢神経系のまとめ ・全身麻酔薬、催眠薬	講義	14 階教室	笠原

6	11/10	金	3	中枢神経系に作用する薬物（2） ・向精神薬、抗精神病薬、抗不安薬、 抗うつ薬、抗けいれん薬 ・中枢神経興奮薬	講義	14 階 教室	笠原
7	11/17	金	3	末梢神経系に作用する薬物（1） ・神経伝達物質 ・自律神経系に作用する薬物	講義	14 階 教室	高橋
8	11/24	金	3	末梢神経系に作用する薬物（2） ・局所麻酔薬	講義	14 階 教室	石東
9	12/1	金	3	鎮痛薬 ・麻薬性鎮痛薬 ・非麻薬性鎮痛薬 ・解熱性鎮痛薬	講義	14 階 教室	笠原
10	12/8	金	3	抗炎症薬 ・ステロイド性抗炎症薬 ・非ステロイド性抗炎症薬 ・抗アレルギー薬	講義	14 階 教室	伊藤
11	12/15	金	3	血液に作用する薬物・消毒薬 ・止血薬 ・抗凝固薬 ・消毒薬	講義	14 階 教室	伊藤

12	12/22	金	3	感染と薬物（1） ・抗菌薬	講義	14 階 教室	石東
13	1/12	金	3	感染と薬物（2） ・抗ウイルス薬 ・歯科専用薬物	講義	14 階 教室	高橋
14	1/19	金	3	呼吸・循環に作用する薬物 ・呼吸器に作用する薬物 ・循環器に作用する薬物	講義	14 階 教室	笠原
15	1/26	金	3	まとめ	講義	14 階 教室	笠原

科 目 名： 歯科感染予防学

担当教員： ※平田 創一郎

1. 教科の特徴

歯科衛生士は、歯科予防処置、歯科診療補助および歯科予防処置を業務とし、歯科診療、公衆衛生、検診、介護等様々な状況において乳幼児・妊産婦から高齢者まで有病者から健康な者まで多様な人々を相手とする＊1，2。その際にチームとして感染予防に努める＊3 ことは医療従事者として必須の能力であり、感染予防の手法のみならずその法的規制から科学的背景まで、現場に即して応用可能な能力＊4 として修得する。

＊ディプロマポリシー番号

ナンバリング 【B0410-1B】

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

主に外来において、観血的小外科処置を中心に行う歯科医療現場における感染症の伝播を予防・管理し、患者および医療従事者の健康・安全上の問題に対処するため、安全管理・感染予防に関する知識・技能・態度を身につける。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 安全管理の考え方を説明する。(5%)
- 2) 標準予防策を説明する。(15%)
- 3) 感染経路別予防策を説明する。(15%)
- 4) 接触感染のリスクを低減する。(10%)
- 5) 飛沫感染のリスクを低減する。(10%)
- 6) 歯科医療機器と環境表面の清掃、消毒、滅菌法を説明する。(20%)
- 7) 抗菌薬の適正使用を説明する。(10%)
- 8) 歯科医療現場における安全管理の具体的手法を列举する。(5%)
- 9) 廃棄物の処理を説明する。(10%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方法：
講義
- 2) 能動的方法：
ブレ・ポストテスト
- 3) 媒体：
教科書、配付資料、スライド、Web サイト

5. 評価（EV：Evaluation）

1) 形成的評価：

各回の講義開始時に前回のポストテストのフィードバックとその回のブレテスト、終了時にポストテストを行う。

2) 総括的評価：

定期試験については、講義内容の理解度を、空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する。(100%)

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

- 第1回：講義範囲の教科書を読み、疑問点を整理する。(15分)
- 第2回：講義範囲の教科書を読み、疑問点を整理する。(15分)
- 第3回：講義範囲の教科書を読み、疑問点を整理する。(15分)
- 第4回：講義範囲の教科書を読み、疑問点を整理する。(15分)
- 第5回：講義範囲の教科書を読み、疑問点を整理する。(15分)
- 第6回：講義範囲の教科書を読み、疑問点を整理する。(15分)
- 第7回：講義範囲の教科書を読み、疑問点を整理する。(15分)
- 第8回：講義範囲の教科書を読み、疑問点を整理する。(15分)

2) 事後学修

- 第1回：講義資料、ブレ・ポストテストを参考に重要事項を覚える。(15分)
- 第2回：講義資料、ブレ・ポストテストを参考に重要事項を覚える。(15分)
- 第3回：講義資料、ブレ・ポストテストを参考に重要事項を覚える。(15分)
- 第4回：講義資料、ブレ・ポストテストを参考に重要事項を覚える。(15分)
- 第5回：講義資料、ブレ・ポストテストを参考に重要事項を覚える。(15分)
- 第6回：講義資料、ブレ・ポストテストを参考に重要事項を覚える。(15分)
- 第7回：講義資料、ブレ・ポストテストを参考に重要事項を覚える。(15分)
- 第8回：講義資料、ブレ・ポストテストを参考に重要事項を覚える。(15分)

3) 事前学修・事後学修の評価

第1回

事前学修：第1回のブレ・ポストテストによる形成的評価を行う。

事後学修：第2回講義開始時に第1回のポストテストのフィードバックを行う。

第2回

事前学修：第2回のブレ・ポストテストによる形成的評価を行う。

事後学修：第3回講義開始時に第2回のポストテストのフィードバックを行う。

第3回

事前学修：第3回のブレ・ポストテストによる形成的評価を行う。

事後学修：第4回講義開始時に第3回のポストテストのフィードバックを行う。

第4回

事前学修：第4回のブレ・ポストテストによる形成的評価を行う。

事後学修：第5回講義開始時に第4回のポストテストのフィードバックを行う。

第5回

事前学修：第5回のブレ・ポストテストによる形成的評価を行う。

事後学修：第6回講義開始時に第5回のポストテストのフィードバックを行う。

第6回

事前学修：第6回のブレ・ポストテストによる形成的評価を行う。

事後学修：第7回講義開始時に第6回のポストテストのフィードバックを行う。

第7回

事前学修：第7回のブレ・ポストテストによる形成的評価を行う。

事後学修：第8回講義開始時に第7回のポストテストのフィードバックを行う。

第8回

事前学修：第8回のブレ・ポストテストによる形成的評価を行う。

事後学修：第8回講義終了時に第8回のポストテストのフィードバックを行う。

7. 教科書

ICHG 研究会編	歯科医療における国際標準 感染予防対策テキスト滅菌・消毒・洗浄	医歯薬出版
-----------	---------------------------------	-------

8. 参考図書

石川雅彦・平田創一郎・中島丘 編著	すぐに使える！ 歯科診療室での医療安全実践ガイド 起こりやすいエラーの予防と対応策	医歯薬出版
一般社団法人日本環境感染学会教育委員会	日本環境感染学会教育ツール Ver. 3(感染対策の基本項目改訂版) http://www.kankyokansen.org/modules/education/index.php?content_id=5	一般社団法人日本環境感染学会
満田年宏、丸森英史 監訳	歯科医療における感染管理のための CDC ガイドライン https://med.saraya.com/gakujutsu/guideline/pdf/dentalcdc.pdf	サラヤ株式会社
Centers for Disease Control and Prevention	Infection Prevention & Control Guidelines & Recommendations	Centers for Disease Control and Prevention

	https://www.cdc.gov/oralhealth/infectioncontrol/guidelines/index.htm
--	---

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時／本館 10 階社会歯科学講座

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SBOs など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	10/3	火	2	1) 安全管理の考え方を説明する。 ・事故の発生要因	ブレテスト・講義・ポストテスト	14 階教室	平田
2	10/10	火	2	8) 歯科医療現場における安全管理の具体的手法を列挙する。 ・事故の防止対策	ブレテスト・講義・ポストテスト	14 階教室	平田
3	10/17	火	2	2) 標準予防策を説明する。 3) 感染経路別予防策を説明する。	ブレテスト・講義・ポストテスト	14 階教室	平田

					スト		
4	10/24	火	2	4) 接触感染のリスクを低減する。 5) 飛沫感染のリスクを低減する。	プレ テスト・ 講 義・ ポス トテ スト	14 階 教 室	平田
5	10/31	火	2	6) 歯科医療機器と環境表面の清掃、消毒、滅菌法を説明する。 ・滅菌・消毒・洗浄の基本	プレ テスト・ 講 義・ ポス トテ スト	14 階 教 室	平田
6	11/7	火	2	6) 歯科医療機器と環境表面の清掃、消毒、滅菌法を説明する。 ・器具・器械の滅菌・消毒・洗浄の実 際	プレ テスト・ 講 義・ ポス トテ スト	14 階 教 室	平田
7	11/14	火	2	7) 抗菌薬の適正使用を説明する。	プレ テスト・ 講 義・ ポス トテ スト	14 階 教 室	平田

8	11/21	火	2	8) 歯科医療現場における安全管理の具 体的手法を列举する。 ・医療従事者の感染予防対策 9) 廃棄物の処理を説明する。 ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律	プレ テスト・ 講 義・ ポス トテ スト	14 階 教 室	平田
---	-------	---	---	--	---	-------------------	----

科 目 名： 歯科放射線学
担当教員： ※佐藤 仁美

定期試験にて、講義内容の理解度を空欄補充、真偽選択、論述などの記述試験で評価する。(100%)

1. 教科の特徴

放射線学は近年、画像診断学ともよばれている。エックス線などの放射線をはじめとして、超音波、磁気などのように被曝を伴わないものも歯学部で活躍している。学修内容はエックス線画像、CT、CBCT、MRI、超音波検査、嚥下造影、唾液腺造影、核医学検査、放射線治療、と多彩で、歯科のほぼ全ての科に関わる。

画像診断を通じて、放射線に関する幅広い教養と自律性を培い（ディプロマポリシー 4）、高齢化の進展する我が国における歯科疾患の特徴を理解したうえで（ディプロマポリシー 2）、画像検査を含むチーム医療における歯科衛生士の役割を確認することで（ディプロマポリシー 3）、画像検査を活用して人々の健康づくりを支援できる専門的能力を修得する（ディプロマポリシー 1）。

ナンバリング 【B0411-1B】

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

歯科診療補助を適切に行うために、画像検査に必要な知識と技術およびその背景となる科学を理解する。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 歯科診療においてエックス線検査が果たす役割を概説する。(10%)
- 2) エックス線画像の形成について概説する。(10%)
- 3) 歯科における画像線検査の種類と方法について概説する。(30%)
- 4) 歯科のエックス線撮影における歯科衛生士の役割について概説する。(30%)
- 5) 歯科診療における放射線防護について概説する。(20%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方略：講義
- 2) 能動的方略：ディスカッション、ポストテスト
- 3) 媒体：教科書：最新歯科衛生士教本 歯科放射線学

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：
各回の講義中にディスカッションを、講義終了後にポストテストを行う。
- 2) 総括的評価：

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

- 第1回：教科書 1～19 ページを読んでおく。(10 分)
- 第2回：教科書 20～26、108-120 ページを読んでおく。(10 分)
- 第3回：教科書 27～44 ページを読んでおく。(10 分)
- 第4回：教科書 45～61 ページを読んでおく。(10 分)
- 第5回：教科書 62～96 ページを読んでおく。(10 分)
- 第6回：教科書 97～107 ページを読んでおく。(10 分)
- 第7回：教科書 121～126 ページを読んでおく。(10 分)
- 第8回：全範囲の復習をしておく。(30 分)

2) 事後学修

- 第1回：教科書、配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする。(15 分)
- 第2回：教科書、配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする。(15 分)
- 第3回：教科書、配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする。(15 分)
- 第4回：教科書、配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする。(15 分)
- 第5回：教科書、配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする。(15 分)
- 第6回：教科書、配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする。(15 分)
- 第7回：教科書、配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする。(15 分)
- 第8回：講義中に説明した内容について理解し、整理する。(15 分)

3) 事前学修・事後学修の評価

事前学習：講義中のディスカッションで確認する。

事後学修：講義後のポストテストで確認し、次回フィードバックを行う。

1. 教科書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯科放射線	医歯薬出版
--------------------	--------------------	-------

2. 参考図書

有地榮一郎、笹野高嗣、馬嶋秀行、湯浅賢治、代居 敬 監修	歯科衛生士テキスト わかりやすい歯科放射線学 第2版	学建書院
------------------------------	-------------------------------	------

3. オフィスアワー

月曜日の講義終了後、教室にて／平日 本館9階 歯科放射線学講座 医局にて

4. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時 限	内容項目 (SB0sなど)	方略(LS)	場 所	担当者
1	12/1	金	1	歯科医療と放射線 ・歯科診療においてエックス線検査が果たす役割を概説する。 ・エックス線の性質と生体への影響を概説する。 ・歯科診療における放射線防護を概説する。	講義	14階教室	佐藤
2	12/7	木	4	エックス線画像の形成 ・エックス線画像の成り立ちを概説する。 ・エックス線と生体物質との相互作用を概説する。 ・エックス線フィルムとエックス線センサーを概説する。	講義	14階教室	佐藤
3	12/8	金	1	歯科におけるエックス線検査1 ・口内法エックス線撮影に用いる装置の構造とフィルムの種類を述べる。 ・口内法エックス線撮影法の種類を列挙し、それぞれの特徴を述べる。	講義	14階教室	佐藤
4	12/15	金	1	歯科におけるエックス線検査2 ・パノラマエックス線撮影を概説する。 ・歯科・口腔外科領域で用いる画像検査法を概説する。	講義	14階教室	佐藤
5	12/22	金	1	口内法エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割 ・口内法エックス線撮影の準備手順と留意点を述べる。 ・口内法エックス線撮影のフィルムの位置づけ方法を説明する。 ・口内法エックス線撮影および写真処理時の失敗原因を説明する。	講義	14階教室	佐藤

6	1/12	金	1	パノラマエックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割 ・パノラマエックス線撮影の準備手順と留意点を述べる。 ・パノラマエックス線撮影の患者の位置づけを説明する。 ・正常なパノラマエックス線像について概説する。	講義	14階教室	佐藤
7	1/19	金	1	写真処理と画像保管の実際 ・写真処理の方法と手順を説明する。 ・写真処理をする。 ・画像保管を説明する。 放射線治療と口腔管理 ・口腔癌の放射線治療について説明する。 ・放射線治療患者の口腔管理について説明する。	講義	14階教室	佐藤
8	1/26	金	1	放射線の生物学的作用と術者・患者の防護 ・放射線の生物学的作用について概説する。 ・歯科診療における放射線防護を概説する。 ・歯科医療における放射線被曝を概説する。	講義	14階教室	佐藤

科目名： 歯科材料学

担当教員： ※服部雅之、※武本真治、※笠原正彰、※染屋智子

1. 教科の特徴

歯科疾患を予防または治療する過程では、種々の道具・器材を使用し、金属、セラミックス、レジンなど多種類の材料を駆使して歯の欠損を補い、口腔機能の回復を図る。その治療に用いられる種々の歯科材料は、口腔内で短時間に使用するものから、口腔内で長期に機能を維持するものまである。これに使用される材料の理論と応用に関する学問が歯科材料学である。(ディプロマポリシー 1)

ナンバリング 【B0412-1B】

2. 一般目標 (GIO : General Instructional Objective)

歯科衛生士として歯科予防処置や歯科診療の補助を行う上で必要な歯科材料の基礎的知識を身につけ、その材料が最も有効に利用でき、正しい選択と取り扱い方法を修得することを目標とする。

3. 行動目標 (SB0s : Specific Behavioral Objectives)

- 1) 一連の歯科診療補助で扱う歯科材料の種類と用途を説明する。(5%)
- 2) 歯科材料と生体材料の機械的、物理的、化学的及び生物学的所要性質ならびに安全性の評価を説明する。(5%)
- 3) 印象材の種類と所要性質、用途を説明する。(20%)
- 4) 模型材の種類と所要性質、用途を説明する。(5%)
- 5) ワックスの種類と用途を説明する。(5%)
- 6) 歯科用レジン、成形修復材、予防填塞材の種類と用途、使用方法を説明する。(20%)
- 7) 歯冠修復材料の種類と成分及び特性を説明する。(15%)
- 8) 歯科用セメントの種類と成分および特性を説明する。(15%)
- 9) 歯科用インプラント材料の種類と構造を説明する。(5%)
- 10) 切削・研磨用材料の種類、用途を説明する。(5%)

4. 方略 (LS : Learning Strategy)

- 1) 受動的方法：講義
- 2) 能動的方法：ディスカッション、ポストテスト
- 3) 媒体：スライド、プリント、教科書

5. 評価 (EV : Evaluation)

- 1) 形成的評価：
日常的な授業における取組状況
各回の講義開始時と終了時にプレテスト・ポストテストを行うことがある。
- 2) 総括的評価：
講義内容の理解度を、空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する。(100%)

6. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修
毎回：該当する教科書部分を読んで、ポイントを掴んだ上で授業に臨むこと。(1回10分)
- 2) 事後学修
毎回：教科書、当日配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする。(1回15分)
- 3) 事前学修・事後学修の評価
毎回：
事前学修:講義当日の開始時にプレテストで確認することもある。
事後学修:講義当日の終了時にポストテストを行うこともある。

7. 教科書

一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 監修／末瀬一彦・松井恭平・福島正義 編集	歯科衛生学シリーズ「歯科材料」	医歯薬出版
---	-----------------	-------

8. 参考図書

編集 服部雅之／武本真治	新編歯科理工学 第6版	学建書院
--------------	-------------	------

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SBOs など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	10/2	月	2	歯科材料科学概論／修復物・補綴装置の製作過程 ・ 歯科材料の種類、歯科材料がどのような目的で、どのように用いられているかを説明する。 ・ 修復物・補綴装置の製作過程を説明する。	講義	14階教室	服部
2	10/16	月	2	歯科材料の科学 ・ 歯科材料の理解に必要な諸性質を説明する。	講義	14階教室	服部
3	10/23	月	2	印象材 1 ・ 印象材の種類と組成、特性を説明する。	講義	14階教室	笠原
4	10/30	月	2	印象材 2／模型材／ワックス ・ 印象材の用途を説明する。 ・ 模型材の種類と特性、用途を説明する。 ・ 歯科用ワックスの種類、性質、取り扱い法を説明する。	講義	14階教室	笠原
5	11/6	月	2	歯冠修復材料 ・ 歯冠修復材料の種類を説明する。 ・ 歯科用合金の種類と組成、用途を説明する。 ・ 歯科用セラミックスの種類と組成、用途を説明する。	講義	14階教室	武本
6	11/13	月	2	歯科用セメント／接着材 ・ 歯科用セメントの種類、組成、性質、取り扱い法を説明する。	講義	14階教室	染屋
7	11/20	月	2	切削・研磨／歯科インプラント材 ・ 切削・研磨に用いる道具、器具の種類と取り扱い法を説明する。 ・ 歯科インプラント材の種類と構造を説明する。	講義	14階教室	武本
8	11/27	月	2	歯科用レジン／成形修復材／予防填塞材／ ・ 歯科用レジン／成形修復材／予防填塞材の種類、組成、性質、取り扱い法を説明する。	講義	14階教室	染屋

科 目 名： 歯内療法学

担当教員： 古澤 成博、佐古 亮、鈴木 穂、中里 晴香

1. 教科の特徴

歯内療法学は、髄腔・根管・根尖部周囲組織という肉眼では直視できない領域を処置対象とする、臨床歯学の一分野である。一般歯科医師や歯科衛生士が、日常臨床で遭遇する確率は極めて高く、歯科治療の中心であると言っても過言ではない。また、使用する器材も細かく多岐にわたるため、十分な知識を身につけておく必要がある教科である。(ディプロマポリシー 1)

ナンバリング 【B0413-1B】

2. 一般目標 (GIO : General Instructional Objective)

歯内療法領域疾患の診察、検査および治療において適切な介補業務を実施するために必要な関連事項の知識を修得する。

3. 行動目標 (SB0s : Specific Behavioral Objectives)

- 1) 歯内療法領域疾患の分類を説明する。(20%)
- 2) 歯内療法における診察、検査に必要な項目を説明する。(20%)
- 3) 歯髄疾患の原因・症状・処置方針を説明する。(20%)
- 4) 根尖性歯周組織疾患の原因・症状・処置方針を説明する。(20%)
- 5) 歯内療法領域疾患の治療に必要な器具を説明する。(20%)

4. 方略 (LS : Learning Strategy)

- 1) 受動的方法：
講義
- 2) 能動的方法：
ポストテスト
- 3) 媒体：
教科書、スライド、配布資料

5. 評価 (EV : Evaluation)

- 1) 形成的評価：
各講義で実施するポストテスト (20%)
- 2) 総括的評価：
定期試験で実施する空欄補充、論述などの筆記試験 (80%)

事前学修・事後学修

1) 事前学修

各回に行う内容について、講義前に教科書を読むこと。(20分)

2) 事後学修

講義終了後に教科書・配布資料を読み、講義内容を整理、必要があればノートに追加記載しておくこと。(20分)

3) 事前学修・事後学修の評価

講義終了前にポストテストを行うことがある。

6. 教科書

古澤成博、村松敬、菅野亜紀 ら編	歯科衛生士講座 保存修復学・歯内療 法学	永末書店
---------------------	-------------------------	------

7. 参考図書

勝海一郎・興地隆史・石井信 之・中田和彦 [編著]	歯内治療学第5版	医歯薬出版
------------------------------	----------	-------

8. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時まで

9. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目（SB0s など）	方略（LS）	場所	担当者
1	11/30	木	1	歯内療法概論 歯内療法の歴史 対象となる疾患 歯内療法と歯科衛生士	講義	14階教室	古澤
2	12/7	木	1	歯内療法の概要Ⅰ 歯髄疾患 分類と症状・処置方針	講義	14階教室	佐古
3	12/14	木	1	歯内療法の概要Ⅱ 根尖性歯周疾患 分類と症状・処置方針	講義	14階教室	佐古
4	12/21	木	1	処置の前準備・歯髄保存療法 除痛法 防湿法 仮封法 歯髄鎮痛消炎療法 覆髄法各種	講義	14階教室	佐古
5	1/11	木	1	歯髄除去療法 生活断髄法 直接抜髄法	講義	14階教室	佐古
6	1/18	木	1	根管処置Ⅰ 感染根管治療 根管処置用器具 根管治療用薬剤	講義	14階教室	中里
7	1/25	木	1	根管処置Ⅱ 根管形成法 根管充填法	講義	14階教室	鈴木
8	2/1	木	1	外科的歯内療法・偶発症 外科的歯内療法処置の目的と種類 偶発症の種類とその対応 外傷歯の治療 歯内療法学総まとめ	講義	14階教室	古澤

科目名：保存修復学

担当教員：※村松 敬、※石塚久子

※(実務経験教員による授業科目)

1. 教科の特徴

歯の硬組織は一度欠損を生じると自然治癒が困難なため、人為的に回復させる必要がある。歯の硬組織疾患や形態異常、および外傷などによって生じた歯の硬組織欠損部に対して疾病の進行を抑止し、病的なものには治療を施し、解剖学的、機能的、審美的に回復させるための学問、技術の体系が保存修復学である。本教科では齲蝕や非齲蝕性硬組織疾患に対する歯科治療に必要な基本的知識を身につけるとともに論理的思考および問題解決ができるようにする（ディプロマポリシー4）。また、これにより歯科衛生士として歯科疾患の予防及び口腔衛生の向上、さらには高齢者の保存修復治療について理解できることが特徴である（ディプロマポリシー1、2）。

ナンバリング 【B0414-1B】

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

歯科診療の補助と歯科保健指導を行うために、歯の硬組織疾患、非う蝕性硬組織疾患の病因、病態ならびに治療法を理解する。

3. 行動目標（SBOs：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 歯の硬組織の常態を説明する。(5%)
- 2) 歯の硬組織疾患の病因・病態について説明する。(10%)
- 3) 歯の硬組織疾患の診断および治療計画の立案に必要な診査項目を説明する。(15%)
- 4) 修復処置における歯科衛生士の役割と業務を説明する。(15%)
- 5) 修復処置の臨床的意義と方法について説明する。(15%)
- 6) 修復処置に必要な器具の使用方法および目的を説明する。(15%)
- 7) 修復処置に必要な歯科材料の特性、成分および構造を説明する。(15%)
- 8) 修復処置後の口腔内の健康管理と健康づくり支援の方法について説明する。(10%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

1) 受動的方法：

講義

2) 能動的方法：

課題、前回の講義内容の質問

3) 媒体：

教科書、参考図書、スライド、プリント、コンピューター画像、動画など

5. 評価（EV：Evaluation）

1) 形成的評価：

各回の講義開始時に前回の講義内容について質問する。

2) 総括的評価：

定期試験（100%）：記述、穴埋め、図示などで行う。

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

各回、授業内容項目について、教科書を読んでおくこと（15分）。

2) 事後学修

毎回、前回の講義の復習をしておくこと（15分）

3) 事前学修・事後学修の評価

毎回、講義の開始時に前回の講義内容について質問する。（5-10分程度）

7. 教科書

古澤成博、村松敬、菅野亜紀 ら編	歯科衛生士講座 保存修復学・歯内療 法学	永末書店
---------------------	-------------------------	------

8. 参考図書

片山 直、小松正志、松尾敬 志 編著	新・歯科衛生士教育マニュアル 保存 修復（初版）	クインテッセ ンス出版
-----------------------	-----------------------------	----------------

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類（遅延証明書等）を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目（SBOs など）	方略（LS）	場所	担当者
1 ・ 2 ・ 3	10/6 10/13 10/20	金	1	保存修復学概論 目的、意義、対象疾患 保存修復学総論 診断のための検査 歯の硬組織疾患 分類 う蝕（分類、病因、病態、好発部位、進行、リスクファクター） 非う蝕性の硬組織疾患（分類、病因、病態） 窩洞（構成、分類、条件） 歯の切削 歯の切削とう蝕除去 ミニマルインターベンション デンティストリー（MID） 象牙質・歯髄複合体の保護	講義	14階教室	村松
4	10/25	水	1	保存修復学各論①（直接修復） コンポジットレジン修復 特徴、適応症と禁忌症 臨床術式と補助 歯質との接着メカニズム	講義	14階教室	石塚
5	10/27	金	1	保存修復学各論①（直接修復） グラスアイオノマーセメント修復 特徴、適応症と禁忌症 臨床術式と補助 アマルガム修復 水銀と余剰アマルガムの取り扱い	講義	14階教室	石塚
6	11/9	木	4	保存修復学各論②（間接修復） メタルインレー修復 特徴、適応症と禁忌症 臨床術式と補助 製作方法とその特徴	講義	14階教室	石塚

7	11/17	金	1	保存修復学各論②（間接修復） セラミックインレー修復、コンポジットレジンインレー修復 特徴、適応症と禁忌症 臨床術式と補助 製作方法とその特徴 合着・接着と修復物の仕上げ、研磨	講義	14階教室	石塚
8	11/24	金	1	保存修復学各論③（変色歯への対応） ベニア修復、歯の漂白法 分類、特徴、適応症と禁忌症 臨床術式と補助	講義	14階教室	石塚

科目名： 歯周病学
担当教員： ※杉戸 博記

1. 教科の特徴

歯周病は、歯科の2大疾患の一つであり、歯の喪失の大きな原因となるばかりでなく、患者の全身の健康や生活の質に影響を及ぼす。歯周病学では、歯周病の発症と進行の理論を理解し、歯周治療の基本的考え方を学修する。さらに歯周治療に対する診療補助業務、歯周治療に伴い変化する口腔内環境に対応できる口腔衛生指導と健康づくり支援に必要な知識を学修する。(ディプロマポリシー1、2)

ナンバリング 【B0415-1B】

2. 一般目標 (GIO : General Instructional Objective)

歯科衛生士として実施する歯周病に係る歯科予防処置を理解するために、歯周治療の考え方に関する基本的な知識を修得する。

3. 行動目標 (SBOs : Specific Behavioral Objectives)

- 1) 歯周組織の構造と機能を説明する。(10%)
- 2) 歯周病の発症機序と進行を説明する。(10%)
- 3) 歯周病の症状を説明する。(10%)
- 4) 歯周病の分類を説明する。(10%)
- 5) 歯周病の原因を説明する。(10%)
- 6) 歯周病の流れを説明する。(10%)
- 7) 歯周基本治療の目的と内容を説明する。(10%)
- 8) 歯周外科治療の目的と内容を説明する。(10%)
- 9) メインテナンスと SPT を説明する。(10%)
- 10) 歯周治療における歯科衛生士の役割と業務を説明する。(10%)

4. 方略 (LS : Learning Strategy)

- 1) 受動的方法： 講義
- 2) 能動的方法： ディスカッション(講義中に指名して回答を求める)
- 3) 媒体： 講義プリント、教科書、スライド

5. 評価 (EV : Evaluation)

- 1) 形成的評価：
各回の講義時に、講義内容に関するディスカッションを行う。
- 2) 総括的評価：
定期試験については、講義内容の理解度を空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する。(100%)

6. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修
各回に行う講義内容項目に該当する教科書を読み、学修ポイント「おぼえよう」を把握しておく。(10分)
- 2) 事後学修
講義プリント等の見直しを行い、該当する教科書の章末練習問題「やってみよう」を行う。(10分)
- 3) 事前学修・事後学修の評価

各回の講義時に、講義内容に関するディスカッションを行う。

7. 教科書

沼部幸博、齋藤 淳、梅田 誠 編集主幹	歯科衛生士講座 歯周病学 第5版	永末書店
------------------------	------------------	------

8. 参考図書

一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯周病学	医歯薬出版
村上伸也、申 基喆、齋藤 淳、山田 聡 編	臨床歯周病学 第3版	医歯薬出版
沼部幸博、梅田 誠、齋藤 淳、山本松男 編集主幹	ザ・ペリオドントロジー 第4版	永末書店

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時／本館 14 階教員室

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目（SBOs など）	方略 (LS)	場所	担当者
1 ・ 2 ・ 3	10/5 ・ 10/16 ・ 10/19	木 ・ 月 ・ 木	1 ・ 4 ・ 1	【歯周病学概論】 歯周病の現状 【歯周病学総論】 正常な歯周組織の構造と機能 歯周病の病態 歯周病の発症機序と進行 歯周病の病因、リスクファクター 歯周病の症状 歯周病の分類 歯周病と全身疾患との関連 (ペリオドンタルメディシン)	講義	14 階 教室	杉戸
4	10/26	木	1	【歯周病学各論】 歯周治療の流れ 歯周病の検査 歯周病の診断 歯周病の予後の判定 歯周病の治療計画の立案	講義	14 階 教室	杉戸
5	11/2/	木	1	歯周基本治療 意義・目的 内容 ブラークコントロール スクーリング・ルートプレーニン グ 歯周ポケット搔爬 その他 再評価	講義	14 階 教室	杉戸

6 ・ 7	11/9 ・ 11/16	木 ・ 木	1 ・ 1	歯周外科治療 目的、要件 歯周外科治療後の創傷治癒 歯周外科治療に用いる器具 組織付着療法 歯周ポケット搔爬術、 新付着術、 フラップ手術 歯周組織再生療法 組織再生誘導法、 増殖因子等を用いた再生療法 切除療法 歯肉切除術、 歯肉弁根尖側移動術、 歯槽骨の処置 歯周形成手術 有茎弁歯肉移植術（歯肉移動術）、 遊離軟組織移植術、 小帯切除術、 口腔前庭拡張術 根分岐部病変の処置 原因、分類、検査、処置方針 処置法 歯根の保存療法、 歯根の分割抜去（切断除去）療法	講義	14 階 教室	杉戸
8	11/16	木	4	口腔機能回復治療 目的、処置法 メンテナンス・SPT 意義・目的、実施内容、移行時期 メンテナンスと SPT の違い 実施間隔（リコール） 薬物療法 使用薬剤とその目的 投与方法（局所的／全身的投与） （局所薬物配送システムを含む） 口臭 口臭症の国際分類、検査法、治療法	講義	14 階 教室	杉戸

科目名： 歯科補綴学

担当教員： ※関根秀志、※野本俊太郎、※四ツ谷護

1. 教科の特徴

補綴とは、歯・歯列・顎骨・顔面の一部あるいはすべての欠損を人工物で補い、低下または失われた機能（咀嚼、嚥下、構音）と、口元および顔貌の審美性（見た目）を改善・回復することである。これに用いる人工物を「補綴装置」といい、補綴装置を口の中あるいは顔面の装着する治療を「補綴歯科治療」という。「歯科補綴学」とは、このような治療を考究する学問のことである。この歯科治療学Ⅲ（歯科補綴学）の履修により、補綴歯科治療を受けた患者に対して、歯科疾患の予防および口腔衛生の向上を図り、正常な咀嚼・嚥下機能により個人の健康を増進させ、健康づくりを支援できる能力を確実なものとする（ディプロマポリシー１）、またあわせて、医療、介護の部分においても、医師、看護師などの多職種と協調して歯科保健医療が提供できる能力を確実なものとする（ディプロマポリシー３）。

ナンバリング 【B0416-1B】

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

適切な口腔保健指導および円滑な歯科診療補助、正常な咀嚼・嚥下機能により個人の健康を増進させ健康づくりを支援、医師や看護師などの多職種と協調した歯科保健医療、を行うために、補綴治療に関する基礎的な知識を修得する。

3. 行動目標（SBOs：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 補綴歯科治療の目的を概説できる（2%）
- 2) 歯の欠損に伴う生理的变化を説明できる（3%）
- 3) 補綴装置の種類とその特徴を概説できる（4%）
- 4) 補綴歯科治療における歯科衛生士の役割を概説できる（3%）
- 5) 補綴歯科治療における咬合と歯列にかかわる基本的な用語を概説できる（3%）
- 6) 補綴歯科治療で重要な基準平面を説明できる（3%）
- 7) 口腔機能の特徴を説明できる（3%）
- 8) 顎関節の構造と機能を説明できる（2%）
- 9) 顎関節症の特徴を説明できる（2%）
- 10) 医療面接の意義を概説できる（3%）
- 11) 口腔内の検査を説明できる（3%）
- 12) 画像検査の種類と特徴を説明できる（2%）
- 13) 咬合と顎機能検査の種類と特徴を説明できる（3%）
- 14) クラウン・ブリッジ治療の特徴を概説できる（2%）
- 15) クラウン・ブリッジ治療の流れを説明できる（4%）
- 16) クラウン・ブリッジ治療の流れに沿った器材を準備できる（4%）
- 17) クラウン・ブリッジ治療の患者への説明と指導が実施できる（3%）
- 18) クラウン・ブリッジ治療に伴うトラブルとその対応が説明できる（2%）
- 19) 全部床義歯治療の特徴を説明できる（2%）
- 20) 全部床義歯治療の流れを説明できる（4%）
- 21) 全部床義歯治療の流れに沿った器材を準備できる（4%）
- 22) 全部床義歯治療の患者への説明と指導が実施できる（3%）
- 23) 全部床義歯治療に伴うトラブルとその対応が説明できる（2%）
- 24) 部分床義歯治療の特徴を概説できる（2%）
- 25) 部分床義歯治療の流れを説明できる（4%）

- 26) 部分床義歯治療の流れに沿った器材を準備できる（4%）
- 27) 部分床義歯治療の患者への説明と指導を実施できる（3%）
- 28) 部分床義歯治療に伴うトラブルとその対応を説明できる（2%）
- 29) 顎顔面補綴治療の特徴を概説できる（2%）
- 30) 構音・嚥下機能の補綴治療の特徴を概説できる（2%）
- 31) 顎関節症と歯ぎしりの治療の特徴を概説できる（2%）
- 32) スポーツ外傷の特徴を概説できる（2%）
- 33) 睡眠時無呼吸症候群の治療を概説できる（2%）
- 34) 特殊な補綴歯科治療での歯科衛生士の役割を概説できる（2%）
- 35) 補綴歯科治療における器材管理の概要を説明できる（2%）
- 36) 器具・器材別の滅菌、消毒、洗浄、保管を実施できる（3%）
- 37) 歯科技工士との連携を説明できる（2%）

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方法：
講義
- 2) 能動的方法：
ディスカッション
- 3) 媒体：
教科書・スライド・プリント

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：
各回の講義内で、無作為に学生を指名して質問して解答させる
- 2) 総括的評価：
定期試験については、講義内容の理解度を、空欄補充、真偽選択、論述等の記述で評価する（100%）

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

- | | | | | |
|-------|-----|-----------|---------|-------------|
| 第1回： | 教科書 | P 2～P11 | P26～28 | を読んでおく（20分） |
| 第2回： | 教科書 | P29～P47 | | を読んでおく（20分） |
| 第3回： | 教科書 | P48～P67 | | を読んでおく（20分） |
| 第4回： | 教科書 | P68～P78 | P12～16 | を読んでおく（20分） |
| 第5回： | 教科書 | P78～P88 | | を読んでおく（20分） |
| 第6回： | 教科書 | P88～P93 | | を読んでおく（20分） |
| 第7回： | 教科書 | P95～P108 | | を読んでおく（20分） |
| 第8回： | 教科書 | P109～P114 | P16～P18 | を読んでおく（20分） |
| 第9回： | 教科書 | P114～P131 | | を読んでおく（20分） |
| 第10回： | 教科書 | P131～P141 | | を読んでおく（20分） |
| 第11回： | 教科書 | P141～P146 | P18～P23 | を読んでおく（20分） |
| 第12回： | 教科書 | P146～P161 | | を読んでおく（20分） |
| 第13回： | 教科書 | P161～P174 | | を読んでおく（20分） |
| 第14回： | 教科書 | P209～P219 | | を読んでおく（20分） |
| 第15回： | 教科書 | P220～P225 | | を読んでおく（20分） |

2) 事後学修

- 第1回： 教科書、配布資料を再確認し、重要なポイントを確認する（30分）

- 第2回：教科書、配布資料を再確認し、重要なポイントを確認する（30分）
 第3回：教科書、配布資料を再確認し、重要なポイントを確認する（30分）
 第4回：教科書、配布資料を再確認し、重要なポイントを確認する（30分）
 第5回：教科書、配布資料を再確認し、重要なポイントを確認する（30分）
 第6回：教科書、配布資料を再確認し、重要なポイントを確認する（30分）
 第7回：教科書、配布資料を再確認し、重要なポイントを確認する（30分）
 第8回：教科書、配布資料を再確認し、重要なポイントを確認する（30分）
 第9回：教科書、配布資料を再確認し、重要なポイントを確認する（30分）
 第10回：教科書、配布資料を再確認し、重要なポイントを確認する（30分）
 第11回：教科書、配布資料を再確認し、重要なポイントを確認する（30分）
 第12回：教科書、配布資料を再確認し、重要なポイントを確認する（30分）
 第13回：教科書、配布資料を再確認し、重要なポイントを確認する（30分）
 第14回：教科書、配布資料を再確認し、重要なポイントを確認する（30分）
 第15回：教科書、配布資料を再確認し、重要なポイントを確認する（30分）

3) 事前学修・事後学修の評価

事前学修： 各回の講義内で、無作為に学生を指名して当日の講義に関する質問を解答させ、事前学修の確認をする。

事後学修： 次回の講義開始時に、無作為に学生を指名して前回の授業に関する質問を解答させ、その理解度と事後学修の確認をする。

7. 教科書

一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学	医歯薬出版社
-----------------------	-----------------	--------

8. 参考図書

(公社)日本補綴歯科学会 編	歯科補綴学専門用語集 第5版	医歯薬出版
----------------	----------------	-------

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時 限	内容項目（SBOs など）	方略 (LS)	場 所	担 当 者
1	10/2	月	1	i. 補綴歯科治療の基礎知識 1. 補綴治療の概要 ① 補綴とは ② 補綴歯科治療の意義と目的 ③ 歯の欠損に伴う生理的变化 ⑤ 補綴歯科治療における 歯科衛生士の役割	講義	14 階 教室	関根
2	10/16	月	1	i. 補綴歯科治療の基礎知識 2. 補綴歯科治療の基礎知識 ① 歯列と咬合 ② 補綴学的基準平面 ③ 口腔の機能 ④ 顎関節の構造・機能と病態	講義	14 階 教室	野本
3	10/23	月	1	II. 補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割 1. 補綴歯科治療における検査 ① 医療面接と診察 ② 口腔内の検査 ③ 画像検査 ④ 咬合と顎口腔機能の検査	講義	14 階 教室	野本
4	10/30	月	1	II. 補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割 2. クラウン・ブリッジ治療 ① クラウン・ブリッジ治療の概要 i. 補綴歯科治療の基礎知識 1. 補綴治療の概要 ④ 補綴歯科治療の方法と補綴装置	講義	14 階 教室	野本
5	11/6	月	1	II. 補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割 2. クラウン・ブリッジ治療 ② クラウン・ブリッジ治療の流れと 診療の補助	講義	14 階 教室	野本
6	11/13	月	1	II. 補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割 2. クラウン・ブリッジ治療 ② クラウン・ブリッジ治療の流れと 診療の補助	講義	14 階 教室	野本
7	11/20	月	1	II. 補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割 2. クラウン・ブリッジ治療 ② クラウン・ブリッジ治療の流れと 診療の補助 ③ クラウン・ブリッジ治療に伴う	講義	14 階 教室	野本

				トラブルとその対応			
8	11/27	月	1	II. 補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割 3. 有床義歯治療 ① 全部床義歯治療の概要 ② 全部床義歯治療の流れと診療の補助 i. 補綴歯科治療の基礎知識 1. 補綴治療の概要 ④ 補綴歯科治療の方法と補綴装置	講義	14階教室	四ッ谷
9	12/4	月	1	II. 補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割 3. 有床義歯治療 ② 全部床義歯治療の流れと診療の補助	講義	14階教室	四ッ谷
10	12/11	月	1	II. 補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割 3. 有床義歯治療 ② 全部床義歯治療の流れと診療の補助	講義	14階教室	四ッ谷
11	12/18	月	1	II. 補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割 3. 有床義歯治療 ③ 全部床義歯治療に伴うトラブルとその対応 ④ 部分床義歯治療の概要 i. 補綴歯科治療の基礎知識 1. 補綴治療の概要 ④ 補綴歯科治療の方法と補綴装置	講義	14階教室	四ッ谷
12	1/9	火	1	II. 補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割 3. 有床義歯治療 ④ 部分床義歯治療の概要 ⑤ 部分床義歯治療の流れと診療の補助	講義	14階教室	四ッ谷
13	1/15	月	1	II. 補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割 3. 有床義歯治療 ⑤ 部分床義歯治療の流れと診療の補助	講義	14階教室	四ッ谷
14	1/22	月	1	II. 補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割 5. 特殊な口腔内装置を用いる治療 ① 顎顔面補綴治療 ② 構音・嚥下機能の補助治療 ③ 顎関節症と歯ぎしりの治療	講義	14階教室	四ッ谷

				④ スポーツ外傷の予防 ⑤ 睡眠時無呼吸症候群の歯科的治療			
15	1/29	月	1	II. 補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割 6. 補綴歯科治療における器材の管理 ① 器具・器材別滅菌、消毒、洗浄保管 ② 歯科技工士との連携	講義	14階教室	関根

科 目 名： 歯科衛生学概論

担当教員： 鳥山佳則

1. 教科の特徴

歯科衛生学概論は、4つのディプロマポリシーをすべて含み、歯科衛生士になるための第一歩に相当する科目です。歯科衛生士は歯科衛生士法を根拠とする国家資格であり、歯科衛生士の業務の理解には、まず、歯科衛生士法を正しく理解することが必要です。また、地域包括ケアシステムが推進される中、多職種との協働には、各々の職種の専門性を理解することが必要であり、そのことで歯科衛生士の専門性への理解がより深まります。

法律の条文の解説など堅苦しい内容も、理解しやすいように、オリジナルテキストで学修します。また、所要所で演習シートの作成・発表を行い、能動的な学修を行います。

(ディプロマポリシー 1, 2, 3, 4)

ナンバリング 【B0501-1A】

2. 一般目標 (GIO : General Instructional Objective)

多職種連携、地域包括ケアシステムに対応できる歯科衛生士になるための第一歩として、歯科衛生士法を理解し、併せて多職種の専門性を理解する。

3. 行動目標 (SB0s : Specific Behavioral Objectives)

- 1) 超高齢社会における歯科衛生士の役割について概説できる。(10%)
- 2) 歯科衛生士法の成り立ち、業務について説明できる。(20%)
- 3) 歯科衛生士の登録、免許証の交付について説明できる。(8%)
- 4) 歯科衛生士の義務について説明できる。(12%)
- 5) 歯科衛生士と医療倫理について説明できる。(10%)
- 6) 歯科医師法と歯科技工士法について概説できる。(10%)
- 7) 医療関係職種について概説できる。(20%)
- 8) 福祉関係職種について概説できる。(10%)

4. 方略 (LS : Learning Strategy)

1) 受動的方法：

講義（新型コロナウイルス感染防止のためオンライン講義を行うことがある。）

2) 能動的方法：

演習（与えられた課題について PC を活用しシートに記入する。、指名された者は口頭発表する。）

プレテスト及びポストテスト

3) 媒体：

オリジナルテキスト、教科書、演習シート

5. 評価 (EV : Evaluation)

1) 形成的評価：

プレテスト及びポストテストの結果により理解度を把握しフィードバックする。

2) 総括的評価：

筆記試験（100%） 多肢選択、空欄補充及び短文記述の問題で構成する。

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

第1回：なし

第2回：オリジナルテキスト ①超高齢社会と歯科衛生士を読む。(10分)

第3回：オリジナルテキスト ②患者さんの立場と歯科衛生士の立場を読む。(10分)

第4回：オリジナルテキスト ③歯科衛生士法 No1-45を読む。(15分)

第5回：オリジナルテキスト ③歯科衛生士法 No49-86を読む。(15分)

第6回：オリジナルテキスト ③歯科衛生士法 No87-125、③—2 歯科衛生士補遺
を読む。(15分)

第7回：なし

第8回：オリジナルテキスト ④歯科衛生士と医療倫理を読む。(10分)

第9回：オリジナルテキスト ⑤歯科医師法を読む。(10分)

第10回：オリジナルテキスト ⑥歯科技工士法を読む。(10分)

第11回：オリジナルテキスト ⑦医療関係職種を読む。(15分)

第12回：なし

第13回：オリジナルテキスト ⑧福祉関係職種を読む。(10分)

第14回：オリジナルテキスト 復習問題①から④を見直す。(20分)

第15回：オリジナルテキスト 復習問題⑤～⑧ (20分)

2) 事後学修

第1回：なし

第2回：講義内容を見直し、整理する。(10分)

第3回：講義内容を見直し、整理する。(10分)

第4回：講義内容を見直し、整理する。(15分)

第5回：講義内容を見直し、整理する。(15分)

第6回：講義内容を見直し、整理する。(15分)

第7回：復習問題を見直し、整理する。(20分)

第8回：講義内容を見直し、整理する。(15分)

- 第9回：講義内容を見直し、整理する。(15分)
 第10回：講義内容を見直し、整理する。(15分)
 第11回：講義内容を見直し、整理する。(15分)
 第12回：復習問題を見直し、整理する。(15分)
 第13回：講義内容を見直し、整理する。(15分)
 第14回：総復習問題を見直し、整理する。(30分)
 第15回：総復習問題を見直し、整理する。(30分)

3) 事前学修・事後学修の評価

- 第1回：なし
 第2回：プレ/ポストテスト ①復習問題
 第3回：プレ/ポストテスト ②復習問題
 第4回：プレテスト ③復習問題 1-5 ポストテスト 1-16
 第5回：プレ/ポストテスト ③復習問題 17-20
 第6回：プレ/ポストテスト ③復習問題 21-28
 第5回の事後学修評価、第6回の事前学修評価
 第7回：なし
 第8回：プレ/ポストテスト ④復習問題
 第9回：プレ/ポストテスト ⑤復習問題
 第10回：なし
 第11回：プレテスト ⑥、⑦復習問題 1-6、ポストテスト 7-20
 第12回：なし
 第13回：プレ/ポストテスト ⑧復習問題
 第14回：なし
 第15回：なし

7. 教科書

鳥山佳則	歯科衛生学概論 2023	オリジナル テキスト
全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康 と予防に関わる人間と社会の仕組み 2 保健・医療・福祉の制度	医歯薬出版

8. 参考図書

特に指定しない		
---------	--	--

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目（SB0s など）	方略（LS）	場所	担当者
1	4/14	金	1	歯科衛生学概論の説明 演習 PC を活用し演習シート①「歯科衛生士の業務」を作成・発表する。	講義 演習	14 階教室	鳥山
2	4/21	金	1	超高齢社会と歯科衛生士（オリジナルテキスト①） ・超高齢社会における歯科衛生士の役割を説明できる。	講義	14 階教室	鳥山
3	4/28	金	1	患者さんの立場と歯科衛生士の立場（オリジナルテキスト②） ・患者さんの立場と歯科衛生士の立場の違いを理解する。	講義	14 階教室	鳥山
4	5/12	金	1	歯科衛生士法 1（オリジナルテキスト③1-45） ・歯科衛生士法の成り立ちを説明できる。 ・歯科衛生士法の目的を説明できる。 ・歯科予防処置を概説できる。 ・歯科診療の補助を概説できる。 ・歯科保健指導を概説できる。	講義	14 階教室	鳥山
5	5/19	金	1	歯科衛生士法 2（オリジナルテキスト③49-86） ・免許の申請と登録の手続きを説明できる。 ・名簿の訂正の手続きを説明できる。 ・法律、政令、省令を説明できる。	講義	14 階教室	鳥山
6	5/26	金	1	歯科衛生士法 3（オリジナルテキスト③87-125、④） ・業務従事届出を説明できる。 ・相対的結果事由を説明できる。 ・受験資格、受験手続を説明できる。 ・守秘義務を説明できる。 ・業務記録を説明できる。 ・指定登録/試験機関を説明できる。	講義	14 階教室	鳥山

7	6/2	金	1	演習 歯科衛生士法に関する演習問題に回答し、知識を整理定着させる。	演習	14 階教室	鳥山
8	6/9	金	1	歯科衛生士と医療倫理（オリジナルテキスト④） ・インフォームド・コンセントを概説できる。 ・ジュネーブ宣言、リスボン宣言、ヘルシンキ宣言を概説できる。 ・個人情報保護を概説できる。	講義	14 階教室	鳥山
9	6/16	金	1	歯科医師法（オリジナルテキスト⑤） 演習 ・PC を活用し演習シート②「応招義務」を作成・発表する。 講義 ・歯科医師法を概説できる。	演習 講義	14 階教室	鳥山
10	6/23	金	1	歯科技工士法（オリジナルテキスト⑥） 講義 ・歯科技工士法を概説できる。 医療関係職種 1 演習 ・PC を活用し演習シート③「医療関係職種」を作成・発表する。	講義 演習	14 階教室	鳥山
11	6/30	金	1	医療関係職種 2（オリジナルテキスト⑦） ・医療関係職種を概説できる。	講義	14 階教室	鳥山
12	7/7	金	1	医療関係職種 3 演習 ・PC を活用し演習シート④「医療関係職種」と⑤「歯科衛生士の特徴・専門性」を作成・発表する。	演習	14 階教室	鳥山

13	7/14	金	1	福祉関係職種（オリジナルテキスト⑧） ・福祉関係職種を概説できる。	講義	14 階 教室	鳥山
14	9/1	金	1	総復習 1 講義内容全般について演習問題に解答し、知識を整理定着させる。 解答後、解説を行う。	演習 講義	14 階 教室	鳥山
15	9/8	金	1	総復習 2 講義内容全般について演習問題に回答し、知識を整理定着させる。 解答後、解説を行う。	演習 講義	14 階 教室	鳥山

科 目 名： 歯科疾患予防論

担当教員： ※多田美穂子 ※永井由美子

※(実務経験教員による授業科目)

1. 教科の特徴

健康づくりの観点から口腔の健康が全身の健康につながるという社会の認識の高まりにより、問題が生じてからの対応ではなく、予防を心がけて行動することの大切さが広まっている。

歯科疾患予防論は、対象となる人の歯および口腔の疾患を予防して健康な状態を維持・増進するために、情報収集・整理・分析とニーズの判断、計画、実践、評価を繰り返すための十分な知識を身につけ、実践する専門的予防法を学ぶ教科である。

(ディプロマポリシー 1)

ナンバリング 【B0502-1A】

2. 一般目標 (GIO : General Instructional Objective)

個人の口腔の健康を維持・増進を支援するために、う蝕と歯周疾患の病因を理解し、その予防方法を学び、実践につながる能力を習得する。

3. 行動目標 (SB0s : Specific Behavioral Objectives)

- 1) 正常な歯と歯周組織の構造を説明できる (8%)
- 2) 歯の付着物、沈着物を説明できる (10%)
- 3) う蝕の病因と予防の概念を説明できる (15%)
- 4) う蝕活動性試験の臨床的意義・目的と実施方法を説明できる (5%)
- 5) カリエスリスクに応じた予防方法を説明できる (6%)
- 6) 各種指標を説明できる (6%)
- 7) 歯周疾患の病因と病態を説明できる (7%)
- 8) 歯周疾患のリスクファクターを説明できる (7%)
- 9) 歯周疾患の検査方法を説明できる (10%)
- 10) 歯石除去の方法と使用器具の特徴を説明できる (10%)
- 11) 歯周組織への洗浄・貼薬の目的と方法を説明できる (3%)
- 12) 歯面研磨の目的と方法を説明できる (10%)
- 13) 歯面清掃研磨器の目的と種類、方法を説明できる (3%)

4. 方略 (LS : Learning Strategy)

- 1) 受動的方法： 講義

- 2) 能動的方法： プレテスト、ポストテスト、ディスカッション

- 3) 媒 体： 教科書 参考図書 PowerPoint 配布資料 (プリント)

5. 評価 (EV : Evaluation)

- 1) 形成的評価：

講義終了後、ポストテストを実施する。次週講義でフィードバックを行い、ディスカッションにて学生の理解度を把握する。

ディスカッション等への積極的参加、課題提出を平常点として評価する (10~15%)

- 2) 総括的評価：

定期試験 記述式、多肢選択式による出題を行い、評価する。(85~90%)

6. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修 (各 15 分)

第1~15回：各回の内容項目に記載してある教科書ページを読んでおくこと

- 2) 事後学修 (各 15~20 分)

第1~15回：・講義内容を再度確認し、重要なポイントを配布プリントや講義ノートで教科書と確認する。

・ポストテストでフィードバック受けた内容を再確認する。

- 3) 事前学修・事後学修の評価

第1~15回：・講義内の課題提出にて評価 (形成的評価) を行う。

・提出された質問に回答、コメントする。

7. 教科書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論	医歯薬出版
--------------------	------------------------------	-------

8. 参考図書

E・M・ウィルキンス 著／遠藤圭子、中垣晴男、西 真紀子、眞木吉信、松井恭平、山根 瞳、若林則幸 監訳	ウィルキンス歯科衛生士の臨床原著第11版	医歯薬出版
荒川浩久、尾崎哲則、神原正樹、三宅達郎 編著	歯科衛生士テキスト 口腔衛生学第3版 ー口腔保健統計を含むー	学建書院
全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯周病学	医歯薬出版

沼部幸博、齋藤 淳、梅田 誠	歯科衛生士講座 歯周病学 (第5版)	永末書店
一般財団法人 日本口腔衛生 学会 フッ化物応用委員会 編	フッ化物応用の科学	一般財団法人 口腔保健協会
社会保険研究所	う蝕予防の実際 フッ化ナトリウム局所応用 実施マニュアル	日本口腔衛生 学会フッ化物 応用委員会

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時 限	内容項目 (SBOs など)	方略 (LS)	場 所	担当者
1	4/10	月	4	教科書 P2～5 11～13 16～25 28～32 132～142 正常な歯と歯周組織の構造を説明できる。 歯の付着物、沈着物を説明できる。 ①口腔細菌 ②プラーク(口腔バイオフィルム) ③歯石 ④着色 ⑤食物残渣 ⑥マテリアアルバ ⑦ペリクル	講義	14 階 教室	多田
2	4/17	月	4	教科書 P2～5 16～25 32～37 う蝕の病因を説明できる。 ①宿主因子 ②微生物因子 ③食餌因子 う蝕の予防概念を説明できる。	講義	14 階 教室	多田
3	4/24	月	4	教科書 P174～184 カリエスリスクテスト(う蝕活動性試験) の意義使用方法を説明できる。 カリエスリスク評価を概説できる。 カリエスリスクに応じた予防方法を説明 できる。	講義	14 階 教室	多田
4	5/8	月	4	教科書 P233～241 253～258 う蝕予防におけるフッ化物の応用方法を 説明できる。 ①プロフェッショナルケア 溶液の種類、術式、安全性	講義	14 階 教室	多田
5	5/15	月	4	教科書 P241～253 う蝕予防におけるフッ化物の応用方法を 説明できる。 ②ホームケア 種類、方法	講義	14 階 教室	多田
6	5/22	月	4	教科書 P258～264 う蝕予防における小窩裂溝充填法(フィッ シャーシーラント)を説明できる。 ①適応歯 ②充填剤の種類と特徴 ③術式	講義	14 階 教室	多田

7	5/29	月	4	教科書 P158～168 <u>1～3の内容をまとめておく事前課題提出</u> 1. 口腔衛生状態の指数を説明できる。 ①Plaque Control Record (PCR) ②OHI I ③OHI-S ④PDI I ⑤PHP 2. 歯周疾患 ①PMA Index ②歯周疾患指数 PI ③歯肉炎指数 GI ④GB Count ⑤地域歯周疾患指数 CPI 3. う蝕の指数: DMF, def, dmf 4. 口腔清掃状態を観察できる。 5. ブラークコントロールを実施する。	講義 演習	14 階 教 室 ・ 実 験 室	多田 永井
8	6/5	月	4	教科書 P37～43・79・350～355 1. 歯周疾患の原因と病態を説明できる ①歯周病について ②歯肉炎と歯周炎について 2. 歯周疾患のリスクファクターを説明できる ①成人期の口腔内の特徴 ②ブラークリテンションファクター	講義	14 階 教 室	永井
9	6/12	月	4	教科書 P144～153 1. 歯周疾患の検査項目を説明できる ①歯周ポケット測定 ②歯の動揺度 ③口臭	講義	14 階 教 室	永井
10	6/19	月	4	教科書 P185～186 190～201 歯石除去の方法と使用器具の特徴を説明できる (1) ①スケーラーの種類 ②手用スケーラーの種類と構成 ③手用スケーラーの操作方法	講義	14 階 教 室	永井
11	6/26	月	4	教科書 P186～201 歯石除去の方法と使用器具の特徴を説明できる (2) ①手用スケーラーの把持方法 ②ポジション	講義	14 階 教 室	永井

12	7/3	月	4	教科書 P209～220 歯石除去の方法と使用器具の特徴を説明できる (3) ①パワースケーラーの種類 ②使用時の注意事項 ③操作方法	講義	14 階 教 室	永井
13	7/10	月	4	教科書 P222～227 1. 歯周組織への洗浄・貼薬の目的と方法を説明できる ①イリゲーション 2. 歯面研磨の目的と方法を説明できる ①歯面研磨の目的 ②歯面研磨剤 ③使用器材と操作方法 ④操作時の注意事項	講義	14 階 教 室	永井
14	9/4	月	4	教科書 P228～233 歯面清掃研磨器の目的と種類、方法を説明できる ①エアブレーション ②ソニックブラシシステム	講義	14 階 教 室	永井
15	9/11	月	4	教科書 P187～201 歯石除去のポジションをファントムで実施する。 ①ポジションの確認 ②スケーリングの基本操作	講義 実習	14 階 教 室 ・ 実 験 室	永井 多田

科 目 名： 小児歯科学

担当教員： 新谷誠康 辻野啓一郎 櫻井敦朗 本間宏実

1. 教科の特徴

1. 歯科衛生士として小児の歯科疾患の予防及び口腔衛生の向上を図ることを通じて、個人の健康を増進させ、人々の健康づくりを支援できる能力を育む。
2. 高齢社会、少子化の進むなかで、おろそかにされがちな小児の健康増進に対応する。
3. 専門職として多職種と協働して小児の歯科保健医療を提供する能力を育む。
4. 成長発育の過程にある小児の歯科保健を通して、地域社会の様々な場に対応し健全な口腔器官の育成にあたることができる能力を育む。

ナンバリング 【B0503-1B】

2. 一般目標 (GIO : General Instructional Objective)

歯科衛生士として小児歯科臨床におけるチーム診療を適切に行うために、小児期の口腔疾患および異常に関する知識を修得する。

3. 行動目標 (SBOs : Specific Behavioral Objectives)

- 1) 小児の心身の成長・発達を説明できる。
- 2) 顎・顔面の成長過程を説明できる。
- 3) 歯列・咬合の成長過程を説明できる。
- 4) 歯の発育と異常を説明できる。
- 5) 小児期の口腔疾患と治療法を説明できる。
- 6) 小児の齲蝕予防の考え方を説明できる。
- 7) 小児患者への対応法を説明できる。
- 8) 小児患者の歯科保健指導と健康づくり支援に必要な知識と技能を説明できる。
- 9) 障害の概念、種類と障害児の歯科的特徴を説明できる。

4. 方略 (LS : Learning Strategy)

- 1) 受動的方法：
講義
- 2) 能動的方法：
ディスカッション
- 3) 媒体：
教科書、スライド、講義資料プリント

5. 評価 (EV : Evaluation)

- 1) 形成的評価：
講義開始時と終了時にプレテスト・ポストテストを行う。
- 2) 総括的評価：
定期試験については、講義内容の理解度を、空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する。(100%)

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

- 第1回：教科書 1～3 ページを読んでおく。(10 分)
- 第2回：教科書 4～16 ページを読んでおく。(10 分)
- 第3回：教科書 17～23 ページを読んでおく。(10 分)
- 第4回：教科書 71～88 ページを読んでおく。(10 分)
- 第5回：教科書 89～113 ページを読んでおく。(10 分)
- 第6回：教科書 24～41 ページを読んでおく。(10 分)
- 第7回：教科書 42～48 ページを読んでおく。(10 分)
- 第8回：教科書 49～59 ページを読んでおく。(10 分)
- 第9回：教科書 114～141 ページを読んでおく。(10 分)
- 第10回：教科書 142～157 ページを読んでおく。(10 分)
- 第11回：教科書 60～70 ページを読んでおく。(10 分)
- 第12回：教科書 158～178 ページを読んでおく。(10 分)
- 第13回：教科書 179～189 ページを読んでおく。(10 分)
- 第14回：教科書 190～223 ページを読んでおく。(10 分)
- 第15回：教科書 224～237 ページを読んでおく。(10 分)

2) 事後学修

- 第1～15回：教科書、当日配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする。(15 分)

3) 事前学修・事後学修の評価

- 第1回： 事前学修： 講義当日の開始時にプレテストで確認する。
事後学修： 次回講義の開始時に、事前学修のプレテストと共にポストテストを行う。

7. 教科書

編集主幹 新谷誠康	歯科衛生士講座 小児歯科学	永末書店
-----------	---------------	------

8. 参考図書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 小児歯科学	医歯薬出版
--------------------	--------------------	-------

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時 限	内容項目 (SB0s など)	方略 (LS)	場 所	担当者
1	10/4	水	1	1. 小児歯科学とは SB0s : 1), 8)	講義	14 階 教室	新谷
2	10/11	水	1	2. 心身の発育 SB0s : 1)	講義	14 階 教室	辻野
3	10/18	水	1	3. 頭蓋と顎の成長発育 SB0s : 1), 2)	講義	14 階 教室	辻野
4	11/1	水	1	4. 歯の発育と異常 SB0s : 4)	講義	14 階 教室	本間
5	11/8	水	1	5. 歯列および咬合の発育と異常 SB0s : 3)	講義	14 階 教室	本間
6	11/15	水	1	6. 歯科口腔保健管理 SB0s : 8)	講義	14 階 教室	本間
7	11/22	水	1	7. 小児の歯科的対応法 SB0s : 7)	講義	14 階 教室	本間
8	11/29	水	1	8. 小児の歯科疾患 SB0s : 5)	講義	14 階 教室	櫻井

9	12/6	水	1	9. 小児歯科診療の基本 10. 診察・診療 SB0s : 5), 7), 8)	講義	14 階 教室	櫻井
10	12/13	水	1	11. 小児における局所麻酔法 12. 小児の歯冠修復 SB0s : 5) 13. 歯内療法 SB0s : 5)	講義	14 階 教室	辻野
11	12/20	水	1	13. 歯内療法 SB0s : 5)	講義	14 階 教室	辻野
12	1/10	水	1	14. 外科的処置 15. 外傷の処置 SB0s : 5)	講義	14 階 教室	本間
13	1/17	水	1	16. 咬合誘導 SB0s : 5)	講義	14 階 教室	辻野
14	1/24	水	1	17. う蝕の予防処置と進行抑制 18. リコール (定期健診) SB0s : 5), 6), 8)	講義	14 階 教室	櫻井
15	1/31	水	1	19. 障害児の歯科治療 SB0s : 9)	講義	14 階 教室	櫻井

科 目 名： スペシャルニーズ歯科学

担当教員： ※福田謙一、※大多和由美、※野口智康

※(実務経験教員による授業科目)

1. 教科の特徴

障害などによって社会生活に障壁のある患者さんや通常の歯科治療の施行が困難なスペシャルニーズ患者さんへの歯科における対応について、学習する。

(ディプロマポリシー 1, 2)

ナンバリング 【B0504-1B】

2. 一般目標 (GIO : General Instructional Objective)

歯科診療補助行為と歯科保健指導を適切に行うために、様々な障害の病態、能力不全をよく理解し、歯科治療を安全に施す上で考慮しなければいけない知識や態度を学習する。また、口腔顔面領域の特殊な疼痛疾患や感覚障害、運動神経麻痺の病態や心理状態をよく理解し、歯科臨床における歯科衛生士として必要な知識や態度を学習する。

3. 行動目標 (SB0s : Specific Behavioral Objectives)

- 1) 障害の概念、種類とそれぞれの障害疾患の特徴を説明できる。(25%)
- 2) それぞれの障害疾患の歯科的特徴を説明できる。(25%)
- 3) 障害者の対応法を説明できる。(15%)
- 4) 障害者に対する歯科保健指導と健康づくり支援に必要な知識と技能を説明できる。(15%)
- 5) 障害者の行動調法を説明できる。(15%)
- 6) 痛みとその管理について説明できる。(5%)

4. 方略 (LS : Learning Strategy)

- 1) 受動的方法 :
講義
- 2) 能動的方法 :
講義中の討論
- 3) 媒体 :
教科書、講義資料

5. 評価 (EV : Evaluation)

- 1) 形成的評価 : 小テスト

2) 総括的評価 : 筆記試験 (100%)

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

第1回 : 教科書 1 ~ 12 ページを読んでおく。(15分)

2) 事後学修

第1回 : 講義資料から重要事項をリストアップする。(15分)

3) 事前学修・事後学修の評価

第1回 : 事前学修 : 講義当日の開始時にプレテストで確認する。

事後学修 : 次回講義の開始時に、事前学修のプレテストと共にポストテストを行う。

7. 教科書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 障害者歯科	医歯薬出版
--------------------	-----------------	-------

8. 参考図書

緒方克也、柿木保明編集	歯科衛生士講座 障害者歯科学	永末書店
-------------	----------------	------

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目（SB0s など）	方略（LS）	場所	担当者
1	11/27	月	3	障害の概念を説明できる （障害の概念、ノーマライゼーション 国際障害分類）	講義	14 階 教室	野口
2	12/4	月	3	障害の種類とそれぞれの障害疾患の特徴を説明できる。 精神発達・心理的発達と行動の障害	講義	14 階 教室	大多和
3	12/11	月	3	障害の種類とそれぞれの障害疾患の歯科的特徴を説明できる。 精神発達・心理的発達と行動の障害（2）	講義	14 階 教室	大多和
4	12/18	月	3	障害の種類と歯科的特徴を説明できる。 （感覚障害、音声言語障害、精神および行動の障害）	講義	14 階 教室	野口
5	1/9	火	3	・障害の種類と歯科的特徴を説明できる（神経・運動障害）。	講義	14 階 教室	福田
6	1/15	月	3	・行動調整、健康支援、障害者の歯科治療を説明できる	講義	14 階 教室	大多和
7	1/22	月	3	・薬を使用した行動調整を理解する ・痛みの概念と除痛法を理解する。 ・侵害受容性疼痛（歯髄炎など）発生のしくみを理解する。	講義	14 階 教室	福田
8	1/29	月	3	・慢性化した痛みの除痛法を理解する。 ・神経や筋肉の痛みを理解する。	講義	14 階 教室	野口

科 目 名： 高齢者歯科学

担当教員：※上田 貴之・※竜 正大・※中島純子・※高野智史・※太田 緑

※(実務経験教員による授業科目)

1. 教科の特徴

高齢者歯科学は、高齢者の歯科治療だけではなく、高齢期の口腔機能管理などを通じて、食べる機能、話す機能の低下を防ぐことで、全身の健康を守り、寝たきり予防し、健康長寿に歯科から支える学問である。高齢者の歯科保健・医療・福祉の分野における科学と技術を学ぶことで本学のディプロマポリシーの3と4に掲げる歯科衛生士を育成する。

ナンバリング 【B0505-1B】

2. 一般目標 (GIO : General Instructional Objective)

高齢者に対する歯科衛生士業務を適切に実施するために必要な知識を習得する。

3. 行動目標 (SBOs : Specific Behavioral Objectives)

- 1) 高齢者を取り巻く社会を説明できる。(10%)
- 2) 加齢の科学を説明できる。(10%)
- 3) 高齢者における口腔領域の疾患を説明できる。(10%)
- 4) 全身状態の把握と対応を説明できる。(10%)
- 5) 高齢者歯科医療の場を説明できる。(10%)
- 6) 口腔衛生管理を説明できる。(10%)
- 7) 摂食嚥下障害とリハビリテーションを説明できる。(10%)
- 8) 介護保険における歯科衛生士の役割を説明できる。(10%)
- 9) 高齢者の口腔機能の評価と管理を説明できる。(10%)
- 10) オーラルフレイルと口腔機能低下症を説明できる。(10%)

4. 方略 (LS : Learning Strategy)

- 1) 受動的方法：講義
- 2) 能動的方法：ポストテスト
- 3) 媒体：スライド

5. 評価 (EV : Evaluation)

1) 形成的評価：

客観試験（各回授業終了時）、レポート

2) 総括的評価：

筆記試験（100%）

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

教科書の「おぼえよう」の項目を読んでおく。(10分)

2) 事後学修

「やってみよう」の問題を再確認する。(15分)

3) 事前学修・事後学修の評価

事前学修：講義中に確認テストを行う。

事後学修：教科書の「やってみよう」の問題を回答する。

7. 教科書

森戸光彦 編集主幹	歯科衛生士講座 高齢者歯科学 第3版	永末書店
上田貴之 編著	診療室ではじめよう！口腔機能管理 と栄養指導	永末書店

8. 参考図書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学	医歯薬出版
--------------------	------------------	-------

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時／本館8階 老年歯科補綴学講座医局

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目（SB0s など）	方略（LS）	場所	担当者
1	10/3	火	1	①高齢者を取り巻く社会を説明できる。 1. 社会環境	講義	14階教室	上田
2	10/10	火	1	①高齢者を取り巻く社会を説明できる。 2. 社会保障	講義	14階教室	上田
3	10/17	火	1	②加齢の科学を説明できる。 1. 加齢と老化 2. 組織・器官の変化 3. 身体機能の変化	講義	14階教室	上田
4	10/24	火	1	②加齢の科学を説明できる。 4. 精神・心理的機能の変化 5. 口腔領域の変化 6. 口腔機能の変化	講義	14階教室	上田
5	10/31	火	1	③高齢者における口腔領域の疾患を説明できる。 1. 齲蝕 2. 歯周疾患 3. 口腔粘膜疾患	講義	14階教室	高野
6	11/7	火	1	③高齢者における口腔領域の疾患を説明できる。 4. 口腔乾燥 5. 口臭 6. その他の疾患	講義	14階教室	高野
7	11/14	火	1	④全身状態の把握と対応を説明できる。 1. 医療情報 2. 全身疾患の評価と対応	講義	14階教室	高野
8	11/21	火	1	④全身状態の把握と対応を説明できる。 3. 特別な配慮を必要とする患者への対応	講義	14階教室	高野

9	11/28	火	1	⑤高齢者歯科医療の場を説明できる。 1. 通院困難者とは 2. 外来診療 3. 往診と訪問診療	講義	14階教室	太田
10	12/5	火	1	⑥口腔衛生管理を説明できる。 1. 口腔衛生管理の視点から見た高齢者の口腔内環境 2. 口腔環境の評価法	講義	14階教室	竜
11	12/12	火	1	⑥口腔衛生管理を説明できる。 3. 口腔環境の管理の実際	講義	14階教室	竜
12	12/19	火	1	⑦摂食嚥下障害とリハビリテーションを説明できる。 1. 摂食嚥下機能のメカニズム	講義	14階教室	中島
13	1/16	火	1	⑦摂食嚥下障害とリハビリテーションを説明できる。 2. 摂食嚥下機能の評価・診断 3. 摂食嚥下障害への対応	講義	14階教室	中島
14	1/23	火	1	⑧介護保険における歯科衛生士の役割を説明できる。 1. 介護予防 2. 施設高齢者における「口腔ケア・マネジメントの実際」 3. 在宅における口腔健康管理 4. 栄養指導	講義	14階教室	太田
15	1/30	火	1	⑨高齢者の口腔機能の評価と管理を説明できる。 1. 口腔機能評価 2. 口腔機能管理 ⑩オーラルフレイルと口腔機能低下症を説明できる。 1. オーラルフレイル 2. 口腔機能低下症 *総括	講義	14階教室	上田

科 目 名： 実習Ⅰ（歯科予防処置） 1年後期

担当教員： ※永井由美子 ※杉戸博記 ※多田美穂子 ※高倉枝里子 ※岩澤菜々恵

1. 教科の特徴

健康づくりの観点から口腔の健康が全身の健康につながるという社会の認識の高まりにより、問題が生じてからの対応ではなく、予防を心がけて行動することの大切さが広まっている。

実習Ⅰでは対象者の歯および口腔の疾患を予防して健康な状態を維持・増進するために、歯科疾患予防論を受講の上、十分な技能を身につけて、実践する専門的処置を学ぶ教科である。（ディプロマポリシー１）

ナンバリング 【B0507-1B】

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

個人の口腔の健康を維持・増進を支援するために、臨床・臨地実習の場でう蝕と歯周疾患の予防処置を行うために必要な知識を踏まえたうえ、技術および態度を習得する。

3. 行動目標（SBOs：Specific Behavioral Objectives）

- 1) う蝕の特徴（リスクファクターとその予防）を説明できる（2%）
- 2) う蝕リスクテストを実施できる（8%）
- 3) 歯周組織の検査項目と方法を説明できる（2%）
- 4) 模型上で歯周ポケット測定ができる（8%）
- 5) 予防処置を実施する術部に応じたポジショニングが取れる（8%）
- 6) 各種スケーラーの特徴と把持方法・操作方法を説明できる（2%）
- 7) 模型上で各種スケーラーを操作できる（30%）
- 8) 歯面研磨（PMTC）の目的と方法を説明できる（2%）
- 9) 模型上で歯面研磨が実施できる（8%）
- 10) 歯周ポケット洗浄・貼薬の操作方法を説明できる（2%）
- 11) スケーラーシャープニングの目的と砥石の種類・使用用途を説明できる（2%）
- 12) 各種スケーラーに適した砥石でシャープニングを実施する（6%）
- 13) フッ化物応用の意義と安全性を説明できる（2%）
- 14) 模型上でフッ化物歯面塗布法を実施できる（8%）
- 15) 小窩裂溝填塞の意義と使用材料を説明できる（2%）
- 16) 模型上で小窩裂溝填塞を実施できる（8%）

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方法：講義、示説
- 2) 能動的方法：シミュレーション（マネキン）、ロールプレイ、ポストテスト
- 3) 媒 体：教科書、参考図書、PowerPoint、配布資料（プリント）、
各自の歯科疾患予防論授業ノート、実習器具・機材

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：ポストテスト・レポート課題の提出状況などをフィードバックする。
- 2) 総括的評価：筆記試験（記述・多肢選択式による出題）で評価する。（85～90%）
顎模型を用いたスケーリング実技試験で評価する。（20～35%）
ポストテスト・レポート課題の提出状況などを評価する。（5%）

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

第1～28回：（各15分）

前回の実習内容を復習し、シラバスに記載した関連教科書ページを読んでおく。

2) 事後学修

第1～28回：（各15～20分）

- ・実習内容を確認し、歯科疾患予防論で配布されたプリントや講義ノートと教科書を確認する。
- ・オフィスアワーを活用し実技で不足している点を自主練習で補う。
- ・ポストテストで受けた内容を再確認する。

3) 事前学修・事後学修の評価

第1～28回：実習前に前回の実習内容について質問する（形成的評価）

7. 教科書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論	医歯薬出版
--------------------	------------------------------	-------

8. 参考図書

E・M ウィルキンス 著／ 遠藤圭子、中垣晴男、西 真 紀子、眞木吉信、松井恭 平、山根 瞳、若林則幸 監 訳	ウィルキンス 歯科衛生士の臨床 原著 11 版	医歯薬出版
荒川浩久、尾崎哲則、神原 正樹、三宅達郎 編著	歯科衛生士テキスト 口腔衛生学 第 3 版一口腔保健統計を含むー	学建書院
一般財団法人 日本口腔衛 生学会 フッ化物応用委員 会 編	フッ化物応用の化学	一般財団法人 口腔保健協会
全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯周病学	医歯薬出版
沼部幸博、齋藤 淳、梅田 誠	歯科衛生士講座 歯周病学 （第 5 版）	永末書店

9. オフィスアワー

講義・実習実施日の終了後から 18 時

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類（遅延証明書等）を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目（SBOs など）	方略（LS）	場所	担当者
1 2	10/3 10/4	火 水	3 4	実習Ⅰオリエンテーション 歯周組織の構造を説明できる 歯周疾患の検査項目と方法 インスツルメントの把持 ミラーテクニック 術部に応じたポジショニング プローブの操作方法 スケーラーの操作方法 模型上でシックルタイプスケーラーの 4原則操作ができる	講義 ・ 実習	1 4 階 実 験 室	永井 杉戸 高倉 岩澤
3 4	10/10 10/11	火 水	3 4	SBO s 3) 4) 5) 6) 7) ・歯周ポケット測定 プローブを正しく把持している ポケット底をウォーキングストロークする 歯軸方法の操作する 15～25 g の圧で操作する 数値を読み取れる 歯根面を把握する ・シックルタイプスケーラー操作 正しい姿勢・服装である。 術部に合わせたポジションである。 スケーラーを適切に把持する。 指示された部位に適したスケーラーを選択する。 操作時固定点を求めている。	実習	1 4 階 実 験 室	永井 (杉戸) 高倉 岩澤
5 6	10/17 10/18	火 水	3 4	SBO s 5) 6) 7) ・シックルタイプスケーラー操作 スケーラーの選択が正しいか。 刃部を歯面に適合する。 適切な側方圧でスケーリングを行う。 歯軸方向に操作する。 ・機械的スケーラー 正しい姿勢・服装である。 術部に合わせたポジションである。 機械的スケーラーの準備ができる スケーラーを適切に把持する。 操作時固定点を求めている。 チップを歯面に適合する。 適切な側方圧でスケーリングを行う。 適切なポジションからバキュームテクニックを行える。	実習	1 4 階 実 験 室	永井 杉戸 高倉 岩澤

7 8	10/24	火	3 4	SBO s 5) 6) 7) 8) 9) ・キュレットタイプスケーラーの操作 スケーリング原則 歯周ポケット測定 ・歯面研磨（PMTc） 目的と方法を説明できる 模型上での機械的歯面研磨操作ができる	示説・ 実習	1 4 階 実 験 室	永井 杉戸 高倉 岩澤
9 10	10/31 11/1	火 水	3 4	SBO s 3) 4) 5) 6) 7) 全顎歯周組織検査（ブローピング） 顎模型上で歯肉縁上歯石のスケーリングを実施 13・23（唇側） スケーリング ・シックルタイプスケーラー ・キュレットスケーラーの操作 （・歯面研磨） チェックポイント ①正しい姿勢・服装である。 ②術部に合わせたポジションである。 ③スケーラーを適切に把持する。 ④指示された部位に適したスケーラーを選択する。 ⑤操作時固定点を求めている。 ⑥スケーラーの選択が正しいか。 ⑦刃部を歯面に適合する。 ⑧適切な側方圧でスケーリングを行う。 ⑨正しい方向に操作する。	実習	5 階 実 習 室	永井 杉戸 高倉 岩澤
11 12	11/7 11/8	火 水	3 4	SBO s 5) 6) 7) 顎模型上で歯肉縁上歯石のスケーリングを実施 33・43 スケーリング ・機械的スケーラー（超音波スケーリング） ・シックルタイプスケーラー ・キュレットスケーラーの操作 （・歯面研磨） チェックポイント ①正しい姿勢・服装である。 ②術部に合わせたポジションである。 ③スケーラーを適切に把持する。 ④指示された部位に適したスケーラーを選択する。 ⑤操作時固定点を求めている。	実習	5 階 実 習 室	永井 杉戸 高倉 岩澤

				⑥スケーラーの選択が正しいか。 ⑦刃部を歯面に適合する。 ⑧適切な側方圧でスケーリングを行う。 ⑨正しい方向に操作する。			
13 14	11/14 11/15	火 水	3 4	SBO s 5) 6) 7) 顎模型上で歯肉縁上・縁下スケーリングを実施する 実習 14・17 44・47 スケーリング ・機械的スケーラー（超音波スケーラー） ・シッケルタイプスケーラー ・キュレットタイプスケーラー ・歯面研磨 顎模型上で歯肉縁下スケーリングを実施する チェックポイント ①正しい姿勢・服装である。 ②術部に合わせたポジションである。 ③スケーラーを適切に把持する。 ④指示された部位に適したスケーラーを選択する。 ⑤操作時固定点を求めている。 ⑥スケーラーの選択が正しいか。 ⑦刃部を歯面に適合する。 ⑧適切な側方圧でスケーリングを行う。 ⑨正しい方向に操作する。	示説 実習	5 階 実 習 室	永井 杉戸 高倉 岩澤
15 16	11/21 11/22	水	3 4	SBO s 5) 6) 7) 顎模型上で歯肉縁上・縁下スケーリングを実施する 実習 24・27 34・37 スケーリング ・機械的スケーラー（エアスケーラー） ・シッケルタイプスケーラー ・キュレットタイプスケーラー ・歯面研磨 チェックポイント ①正しい姿勢・服装である。 ②術部に合わせたポジションである。 ③スケーラーを適切に把持する。 ④指示された部位に適したスケーラーを選択する。 ⑤操作時固定点を求めている。 ⑥スケーラーの選択が正しいか。	示説 ・実習	5 階 実 習 室	永井 杉戸 高倉 岩澤

				⑦刃部を歯面に適合する。 ⑧適切な側方圧でスケーリングを行う。 ⑨正しい方向に操作する。			
17 18	11/28 11/29	火 水	3 4	SBO s 5) 6) 7) 8) 9) 顎模型上で歯肉縁上・縁下スケーリングを実施する 実習 13・23（口蓋側） スケーリング ・シッケルタイプスケーラー ・キュレットタイプスケーラー ・歯面研磨（全顎） バックポジション（ミラーテクニック） 顎模型上で歯肉縁上・縁下スケーリングを実施する チェックポイント ①正しい姿勢・服装である。 ②術部に合わせたポジションである。 ③スケーラーを適切に把持する。 ④指示された部位に適したスケーラーを選択する。 ⑤操作時固定点を求めている。 ⑥スケーラーの選択が正しいか。 ⑦刃部を歯面に適合する。 ⑧適切な側方圧でスケーリングを行う。 ⑨正しい方向に操作する。	示説・ 実習	5 階 実 習 室	永井 杉戸 高倉 岩澤
19 20	12/5 12/6	火 水	3 4	SBO s 10) 11) 12) ・スケーラーシャープニングの目的 ・砥石の種類・使用用途 ・各種スケーラーに適した砥石を選択 ・シャープニングを実施（シッケル） ・歯周病のリスクファクター ・歯周治療のメンテナンス	示説・ 実習	1 4 階 実 験 室 ・ 教 室	永井 岩澤 高倉 杉戸
21 22	12/12 12/13	火 水	3 4	SBO s 11) 12) ・各種スケーラーに適した砥石を選択 ・シャープニングを実施（キュレット）	示説 実習	1 4 階 実 習 室	永井 高倉 岩澤
23 24	12/19 12/20	火 水	3 4	SBO s 8) 9) ・全顎の歯面研磨（PMTc） 歯面研磨に適した器具を選択できる 歯面研磨に使用する器具を取り扱える 模型上で実施できる	示説 ・実習	1 4 階 実 験	永井 杉戸 高倉 岩澤

				・歯周ポケット内の洗浄 - 使用する薬品の成分・管理を挙げる - 各種洗浄方法を実施できる		室・	
25 26	1/17	水	3 4	う蝕予防処置 SBOs 13) 14) 15) 16) ・う蝕の特徴を説明できる - う蝕のリスクファクターとその予防を説明できる - う蝕リスクテストを実施できる	実習	1 4 階 教室・実 験室	多田 杉戸 高倉 岩澤
27 28	1/24	水	3 4	う蝕予防処置 SBOs 13) 14) 15) 16) ・フッ化物応用の意義と安全性を説明できる - 模型上でフッ化物歯面塗布法を実施できる - 小窩裂溝填塞の意義と使用材料を説明できる - 模型上で小窩裂溝填塞を実施できる	講義	1 4 階 教室・実 験室	多田 杉戸 高倉 岩澤
29 30	1/31	水	3 4	試験 筆記 実技		1 4 階 教室・実 験室	永井 杉戸 多田 高倉 岩澤

科目名：実習Ⅱ〈歯科診療補助〉

担当教員：※多田美穂子 ※有友たかね ※片田 英憲
※(実務経験教員による授業科目)

1. 教科の特徴

歯科衛生士の3大業務の1つである歯科診療補助は、歯科医師の指示に従って歯科衛生士の知識と技能の範囲で行う歯科医行為を歯科診療の補助である。臨床歯科医学のさまざまな治療の場でアシスタントワークができるよう、歯科衛生士として必要な知識と技能を学修する科目である。(ディプロマポリシー 1)

ナンバリング 【B0509-1B】

2. 一般目標 (GIO: General Instructional Objective)

臨床歯科医療の場で診療の補助を実施するために必要な器具・材料の取り扱いおよび診療における補助動作の基本的知識、技術、態度を習得する

3. 行動目標 (SBOs: Specific Behavioral Objectives)

- 1) 歯科診療の補助を説明できる (5%)
- 2) 歯科治療の術式を説明できる (20%)
- 3) 歯科治療に必要な器具・材料の取り扱いができる (50%)
- 4) 歯科治療に必要な共同動作がファントムで実施できる (15%)
- 5) 医療安全と感染予防に関する説明ができる (15%)

4. 方略 (LS: Learning Strategy)

- 1) 受動的方法：講義
- 2) 能動的方法：ポストテスト、ディスカッション
- 3) 媒体：教科書、参考図書 PowerPoint プリント

5. 評価 (EV: Evaluation)

- 1) 形成的評価：
講義終了後、ポストテストを実施し、次週講義でフィードバックを実施し、ディスカッションにて学生の理解度を把握する。
実習、ディスカッション等への積極的参加、課題提出を平常点として評価する (10～15%)
- 2) 総括的評価：
定期試験 記述式、多肢選択式による出題を行い、評価する。(40～45%)
実技試験 (40～45%)

6. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修
第1～30回：2コマ続きの実習であり、各回の実習内容項目に記載してある教科書ページを参考に、配布プリントを仕上げて来ること (30分)
- 2) 事後学修
第1～30回：講義内容を再度確認し、重要なポイントを配布プリントや教科書で (20分) 確認する。
実習中にフィードバック受けた内容やポストテストを再確認する。

3) 事前学修・事後学修の評価

第1～30回：事前学習用プリント課題の評価 (形成的評価) を行う。

7. 教科書

一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論	医歯薬出版
一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯科機器	医歯薬出版

8. 参考図書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯科材料	医歯薬出版
竹澤保政 監修	イラストと写真でわかる 歯科材料の基礎 第3版	永末書店
一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学総論	医歯薬出版
全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 保存修復・歯内療法	医歯薬出版
沼部幸博 齋藤淳 梅田 誠 編集	歯科衛生士講座 歯周病学 第5版	永末書店
ICHG 研究会ほか編	新・歯科医療における感染予防対策と滅菌・消毒・洗浄	医歯薬出版

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時 (各手技の自主練習への指導を含む)
場所：14階ラウンジ、実験室にて

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。
ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目（SBOs など）	方略 (LS)	場所	担当者
1 2	10/3 ・ 10/4	火 ・ 水	3 ・ 4	歯科診療補助論 第1, 3章 P2～6, 50～56 歯科機器 第2章 P6～19 第4章 P61～63 ・ 歯科診療の補助の範囲を説明できる ・ 基本的歯科治療の流れを説明できる ・ チェアーユニットの名称と取り扱いができる ・ 基本診査用具の名称と使用目的、把持法を説明できる ・ 綿花の取扱いを実施できる	講義 実習	1 4 階 第 3 教 室 ／ 西 棟	多田 有友 片田
3 4	10/10 ・ 10/11	火 ・ 水	3 ・ 4	歯科診療補助論 第5章 P222～235 歯科材料 P72～79, P84, 85 歯科用セメント取扱い1 ・ 合着用セメントの種類、用途、取扱い、使用器具を説明できる。 ・ 合着用セメントの練和が実施できる。	講義 実習	1 4 階 第 3 教 室	多田 有友 片田
5 6	10/17 ・ 10/18	火 ・ 水	3 ・ 4	歯科診療補助論 第5章 P240～250 歯科材料 P108～119 歯科用セメント取扱い2 ・ 仮着用セメントの種類、用途、取扱い、使用器具を説明できる ・ 仮着用セメントが使用できる ・ 仮封用セメントの種類、用途、取扱い、使用器具を説明できる ・ 仮封用セメントが使用できる ・ 二重仮封が実施できる	講義 実習	1 4 階 第 3 教 室	多田 有友 片田
7 8	10/31 ・ 11/1	火 ・ 水	3 ・ 4	歯科診療補助論 第5章 P192～202 歯科材料 P43～48 印象採得1 ・ 印象材の種類、用途、使用用途を説明できる ・ アルジネート印象材を練和できる ・ アルジネート印象材を全顎トレーへ盛り付けることができる	講義 実習	1 4 階 実 験 室	有友 多田 片田

9 10	11/7 ・ 11/8	火 ・ 水	3 ・ 4	歯科診療補助論 第5章 P192～204 歯科材料 P43～50 歯科機器 P112～116 印象採得2 ・ アルジネート印象材を全顎トレーへ盛り付けることができる ・ 全顎用トレーの試適ができる （ユーティリティワックスの使用法） ・ 概形印象採得をファントームで実施できる 印象採得3 ・ 連合印象採得（寒天・アルジネート）の手順（片顎トレー）をファントームで実施できる	講義 実習	1 4 階 実 験 室	有友 多田 片田
11 12	11/14 ・ 11/15	火 ・ 水	3 ・ 4	歯科診療補助論 第5章 P204～213 第3章 P106～109 歯科材料 P50～53 歯科機器 P116, 117 印象採得4 ・ 合成ゴム質印象材の種類、用途、取扱いを説明できる ・ 歯肉圧排に必要な器材を説明できる ・ 歯肉圧排を顎模型で実施できる ・ 連合印象採得（シリコーンゴム質印象材）の手順を実施できる 印象採得5 ・ その他の印象材モデリングコンパウンドの取扱いを説明できる 酸化亜鉛ユーージノール印象材の取り扱いを説明できる	講義 実習	1 4 階 実 験 室	多田 有友 片田
13 14	11/21 ・ 11/22	火 ・ 水	3 ・ 4	歯科診療補助論 第5章 P214～221 P251～253 歯科材料 P59～71 石膏模型作製法 ・ 石膏の種類、用途、取扱いを説明できる ・ 硬石膏を用いて、模型作製ができる ・ ワックスの種類、用途を説明できる	講義 実習	1 4 階 実 験 室	多田 有友 片田
15 16	11/28 ・ 11/29	火 ・ 水	3 ・ 4	歯科診療補助論 第3章 P63～77 共同動作 ・ 歯科用チェアーユニットの取り扱いができる ・ 歯科診療の共同動作を説明できる ・ パキュームテクニックを実施できる ・ スリーウェイシリンジテクニックが実施できる ・ フォーハンデッドデンティストリーに基づく器具の受け渡しができる	講義 実習	1 4 階 実 験 室	多田 有友 片田

17 18	12/5 ・ 12/6	火 ・ 水	3 ・ 4	歯科診療補助論 第3章 P99～105 歯科機器 第4章 P88～93 歯科診療補助 ・ラバーダム防湿の種類と装着の手順を説明できる ・ファントムでラバーダム防湿を装着できる	講義 実習	1 4 階 実 験 室	有友 多田 片田
19 20	12/12 ・ 12/13	火 ・ 水	3 ・ 4	歯科診療補助論 第4章 P133～137 歯科機器 第4章 P103～111 歯周外科治療の診療補助 ・歯周外科手術の種類と術式、使用器材を説明できる ・局所麻酔器材、メス、縫合器の取扱いができる	講義 実習	1 4 階 第 3 教 室	多田 有友 片田
21 22	12/19 ・ 12/20	火 ・ 水	3 ・ 4	歯科診療補助論 第4章 P111～120 歯科機器 第4章 P86～91 P118～124 保存修復時の診療補助 ・直接修復の種類と術式、使用器材を説明できる ・間接修復の種類と術式、使用器材を説明できる ・保存修復治療時に使用する器材の取り扱いができる(切削・研磨用器具 含) ・歯間分離、歯肉排除、隔壁法の種類と方法を説明できる ・隔壁用機器のマトリックスバンドを顎模型へ装着できる	講義 実習	1 4 階 第 3 教 室	多田 有友 片田
23 24	令和 6 1/10	水	3 ・ 4	歯科診療補助論 第5章 P223～235 歯科材料 第4章 P85～89 臨床の現場から (I) ・接着性レジンセメントの種類と用途を説明できる	講義	1 4 階 実 験 室 ・ 第 3 教 室	村松 杉戸 多田 有友

25 26	1/16	火	3 ・ 4	・合着用セメント、仮封・仮着用セメントの種類、用途、取扱い、使用器具を説明できる ・合着用セメント、仮封・仮着用セメントの練和が実施できる 科目試験1 ・セメント練和に関する実技試験 ・歯科治療の術式および使用器材、共同動作等に関する筆記試験	講義	1 4 階 第 3 教 室	多田 有友 片田 試験 監督 者
27 28	1/23	火	3 ・ 4	・アルジネート印象材を練和できる ・アルジネート印象材を全顎トレーへ盛り付けられることができる 科目試験2 ・アルジネート印象練和とトレー盛り付けに関する実技試験 ・歯科治療の術式および使用器材、共同動作等に関する筆記試験	講義 実習	1 4 階 第 3 教 室 ・ 実 験 室	多田 有友 片田 試験 監督 者
29 30	1/30	火	3 ・ 4	歯科診療補助論 第2章 P7～12 P18～21 ・感染予防対策、医療安全について説明できる(身支度、グローブ、マスクの装着) ・手指消毒を手順に沿って実施できる ・スタンダードプリコーションに沿ったPPEを整えることができる 事例ディスカッション ・医療安全の報告書の書き方を説明できる(インシデント、アクシデント報告) 科目試験(追・再試験)実施予定		1 4 階 実 験 室 ・ 階 実 習 室	多田 有友 片田

科目名： 歯科保健指導論
 担当教員： ※菅野亜紀、※江口貴子

1. 教科の特徴

本科目は、対象者の健康を増進させ、人々の健康づくりを支援できる能力を習得するため、各ライフステージにおける一般的特徴や歯科衛生の意義および口腔疾患の特徴を学習する。(ディプロマポリシー1)

ナンバリング 【B0601-1B】

2. 一般目標 (GIO : General Instructional Objective)

対象者に健康づくり支援を行うために、各ライフステージの特徴を理解し、口腔衛生管理や生活習慣の指導に必要な知識・技術を身につける。

3. 行動目標 (SB0s : Specific Behavioral Objectives)

- | | | |
|--|---|-------|
| 1) 口腔衛生管理に使用する用具について説明する。(5～10%)
2) 各ライフステージの一般的特徴、口腔内の特徴を説明する。
3) 各ライフステージにおける歯科保健行動を述べる。
4) 各ライフステージに適した歯科保健指導内容(口腔衛生管理・生活習慣・食生活)を説明する。
5) 各ライフステージの特徴に合った必要な栄養素とその摂取基準を説明する。
6) 特別な配慮を要する患者の口腔衛生管理について説明する。(10～15%)
7) 禁煙指導について説明する。(10～15%)
8) 自分自身の全身状況と口腔内状況を踏まえ、自分自身の生活習慣を考察する。(5～10%) | } | (55%) |
|--|---|-------|

4. 方略 (LS : Learning Strategy)

- 1) 受動的方法：講義
- 2) 能動的方法：プレテスト、ポストテスト、PBL、ディスカッション
- 3) 媒体：教科書、スライド、プリント

5. 評価 (EV : Evaluation)

- 1) 形成的評価：
 - 講義実施時にプレテスト、ポストテストまたは中間試験を行う。
 - 提出物の内容を評価する。
- 2) 総括的評価：
 - 定期試験については、講義中に指示した範囲で行い、講義内容の理解度を空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する。(100%)

6. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修(教科書指定のページを読んでおくこと・各 10 分程度)
 - 第 1 回：Ⅰ編 1 章
 - 第 2～4 回：Ⅲ編 4 章
 - 第 5 回：Ⅳ編妊産婦期
 - 第 6 回：Ⅳ編乳幼児期
 - 第 7 回：Ⅳ編学童期、青年期
 - 第 8 回：Ⅳ編成人期

第 9 回：指定範囲を復習すること

第 10 回：Ⅳ編老年期

第 11 回：Ⅳ編要介護高齢者

第 12 回：Ⅳ編大規模災害被災者、Ⅲ編 4 章ストレスとストレスコーピング

第 13 回：Ⅲ編 4 章(喫煙者に対する指導)

第 14、15 回：食事バランスガイドについての厚生労働省の HP を確認する。

2) 事後学修(各 10 分程度)

第 1～15 回：教科書、当日配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする。

3) 事前学修・事後学修の評価

事前学習：第 1～13 回：講義当日にプレテストを行う。

第 14～15 回：提出物をもって評価する。

事後学習：第 1～13 回：

次回講義時に事前学習のプレテストとともにポストテストを行う。

第 14 回：提出物をもって評価する。

第 15 回は次回講義がないため、事後評価は行わない。

7. 教科書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論	医歯薬出版
--------------------	------------------------------	-------

8. 参考図書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置・歯科保健指導 (第 2 版)	医歯薬出版
全国歯科衛生士教育協議会 監修	最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能 2 栄養と代謝	医歯薬出版
E・M ウィルキンス 著／遠藤圭子、中垣晴男、西 真紀子、眞木吉信、松井恭平、山根 瞳、若林則幸 監訳	ウィルキンス歯科衛生士の臨床 原著 第 11 版	医歯薬出版
文部科学省	学校歯科保健参考資料 「生きる力」をはぐくむ学校での歯・口の健康づくり	社団法人 日本学校歯科医学会

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目（SB0s など）	方略（LS）	場所	担当者
1	10/2	月	3	科目の概要について説明 国家試験出題基準や他科目との関連 歯科保健指導の概要 歯科保健指導の定義について 個人と集団 健康とは 定義やヘルスプロモーション ハイリスクアプローチ ポピュレーションアプローチ	講義	14階教室	江口
2	10/16	月	3	口腔清掃方法について 1 歯ブラシ・歯磨剤・補助的清掃用具・ 口腔ケア用品（歯ブラシや電動歯ブラシ、 歯磨剤、デンタルフロスの構造、種類、 使用目的等について説明）	講義	14階教室	江口
3	10/23	月	3	口腔清掃方法について 2 歯ブラシ・歯磨剤・補助的清掃用具・ 口腔ケア用品（小歯ブラシや歯間ブラシ、 舌ブラシ、染めだし剤の構造、種類、使 用目的について説明）	講義	14階教室	江口
4	10/30	月	3	口腔清掃方法について 電動歯ブラシ	講義	14階教室	江口
5	11/6	月	3	ライフステージ別歯科保健指導 1 妊産婦期：妊娠期および授乳期を含む出 産前後の女性 一般的特徴・口腔の特徴・望ましい歯科 保健行動・栄養、食事摂取基準について	講義	14階教室	江口
6	11/13	月	3	ライフステージ別歯科保健指導 2 新生児期～幼児期：出生から 5 歳 一般的特徴・口腔の特徴・望ましい歯科 保健行動・栄養、食事摂取基準について	講義	14階教室	江口
7	11/20	月	3	ライフステージ別歯科保健指導 3 学齢期～青年期：6 歳～29 歳 一般的特徴・口腔の特徴・望ましい歯科 保健行動・栄養、食事摂取基準について	講義	14階教室	江口
8	11/27	月	4	ライフステージ別歯科保健指導 4 成人期：30 歳～64 歳 一般的特徴・口腔の特徴・望ましい歯科 保健行動・栄養、食事摂取基準について	講義	14階教室	江口
9	12/4	月	2	中間試験	講義	14階教室	江口

10	12/11	月	2	ライフステージ別歯科保健指導 5 - ① 老年期：65 歳以上 一般的特徴・口腔の特徴・望ましい歯科 保健行動・栄養、食事摂取基準について	講義	14階教室	菅野
11	12/18	月	2	ライフステージ別歯科保健指導 5 - ② 要介護高齢者 一般的特徴・口腔の特徴・望ましい歯科 保健行動・栄養、食事摂取基準について	講義	14階教室	菅野
12	1/9	火	2	配慮を要する者への指導 ：大規模災害被災者 生活習慣指導、食・生活習慣改善 ストレスマネジメント	講義	14階教室	江口
13	1/15	月	2	禁煙指導 喫煙の害と依存性について 禁煙のステージと支援について	講義	14階教室	菅野
14	1/22	月	2	食生活指導について 1 ：自分たちの食生活状況を知り、骨密度 や咀嚼状況を踏まえ、望ましい食生活を 考える	講義	14階教室	菅野 江口
15	1/29	月	2	食生活指導について 2 症例検討 食支援について食事内容（形態、量、回 数）や咀嚼の仕方・回数を踏まえ考察する	講義	14階教室	菅野 江口

課題の提出状況、授業の出欠状況、日常的な授業の取組状況などを評価する。(10%)

科目名： 歯科衛生統計学

担当教員： ※杉原 直樹

※(実務経験教員による授業科目)

1. 教科の特徴

歯科衛生統計学は、医学・歯科医学を統合的に理解して全人的な歯科医療を提供するために必要な基本的な知識の根幹となり、歯科衛生士として公衆衛生活動および福祉活動を実践するために必須である。(ディプロマポリシー 1、3)

2. 一般目標 (GIO : General Instructional Objective)

歯科衛生教育並びに歯科保健指導を実施するために、衛生統計の基礎的知識、歯科疾患の指数、および統計資料の活用法を理解し、習得する。

ナンバリング 【B0602-1B】

3. 行動目標 (SBOs : Specific Behavioral Objectives)

- 1) 歯科衛生統計学を概説する。(10%)
- 2) 疫学の定義、目的、研究デザインを列挙し、説明する。(10%)
- 3) EBM (根拠に基づく医療) を概説する (10%)。
- 4) 歯科保健調査における情報の性質および情報の取集方法について説明する。(10%)
- 5) 有病と罹患を説明し、集計方法を理解する。(10%)
- 6) 歯科疾患の指数を列挙し、集計方法を理解する。 (30%)
- 7) 歯科に関連のある国家統計調査を列挙し、概説する。(20%)

4. 方略 (LS : Learning Strategy)

- 1) 受動的方法：講義
- 2) 能動的方法：プレテスト・ポストテスト、ディスカッション
- 3) 媒体：教科書、参考図書、プリント、コンピュータ画像

5. 評価 (EV : Evaluation)

- 1) 形成的評価：
プレテスト・ポストテストを行う。
- 2) 総括的評価：
定期試験については、講義内容の理解度を空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する。(90%)

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

- 第1回:教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと (15分)
- 第2回:教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと (15分)
- 第3回:教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと (15分)
- 第4回:教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと (15分)
- 第5回:教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと (15分)
- 第6回:教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと (15分)
- 第7回:教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと (15分)
- 第8回:教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと (15分)

2) 事後学修

- 第1回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する (15分)
- 第2回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する (15分)
- 第3回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する (15分)
- 第4回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する (15分)
- 第5回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する (15分)
- 第6回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する (15分)
- 第7回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する (15分)
- 第8回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する (15分)

3) 事前学修・事後学修の評価

事前学修：講義当日の開始時にプレテストで確認する。

事後学修：次回講義の開始時に、事前学修のプレテストと共にポストテストを行う。

7. 教科書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と 社会の仕組み 3 保健情報統計学	医歯薬出版
松久保 隆、八重垣 健、前野 正夫、那須郁夫、小松崎 明、 杉原直樹 監修・執筆	口腔衛生学 2022	一世出版

8. 参考図書

一般財団法人 厚生労働統計協会	国民衛生の動向・厚生指標 2022/2023	厚生労働統計 協会
--------------------	---------------------------	--------------

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時／本館 10 階歯科学講座

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SB0s など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	11/28	火	2	(1) 歯科衛生統計と疫学 歯科衛生統計とは 歯科衛生統計の目標 歯科衛生統計で用いられる情報 疫学	講義	14 階教室	杉原
2	12/5	火	2	(2) 疫学と臨床疫学および EBM 疫学 (前回からの続き) 臨床疫学と EBM(根拠に基づく医療)	講義	14 階教室	杉原
3	12/12	火	2	(3)スクリーニング検査と保健統計の基本 スクリーニング検査 保健情報の収集 標本抽出	講義	14 階教室	杉原
4	12/19	火	2	(4) - 1 歯科疾患の指数 I (う蝕の指数) 指標と指数 一般衛生統計で用いられる主な指数 有病と罹患 齲蝕の指数 齲蝕の検出基準 齲蝕の疫学的特性 DMFを用いた指数 RID index (齲蝕増量指数) 齲蝕抑制率	講義	14 階教室	杉原

5	1/16	火	2	(4) - 2 歯科疾患の指数 II (歯周疾患の指数) 歯周疾患の検出基準 歯周疾患の疫学的特性 歯周疾患の指数 PMA Index GI (Gingival Index) GBI (Gingival Bleeding Index) CPI (Community Periodontal Index) PI (Periodontal Index) PDI (Periodontal Disease Index) GB count (Gingival Bone Count)	講義	14 階教室	杉原
6	1/18	木	4	(4) - 3 歯科疾患の指数 III (歯口清掃状態の指数) OHI (Oral Hygiene Index) OHI-S (Simplified Oral Hygiene Index)	講義	14 階教室	杉原
7	1/23	火	2	(4) - 4 歯科疾患の指数 IV (口腔清掃状態と歯のフッ素症の指数) 口腔清掃状態の指数 PCR (Plaque Control Record) PHP (Patient Hygiene Performance) PII (Plaque Index) 歯のフッ素症の指数 CFI (地域フッ素症指数)	講義	14 階教室	杉原
8	1/30	火	2	(5) 国家統計調査 国家統計調査の種類 歯科疾患実態調査 学校保健統計調査 国民健康・栄養調査 患者調査	講義	14 階教室	杉原